

Ⅲ 集計分析結果

1 セーフコミュニティ全体

(1) 「セーフコミュニティ」の認知度

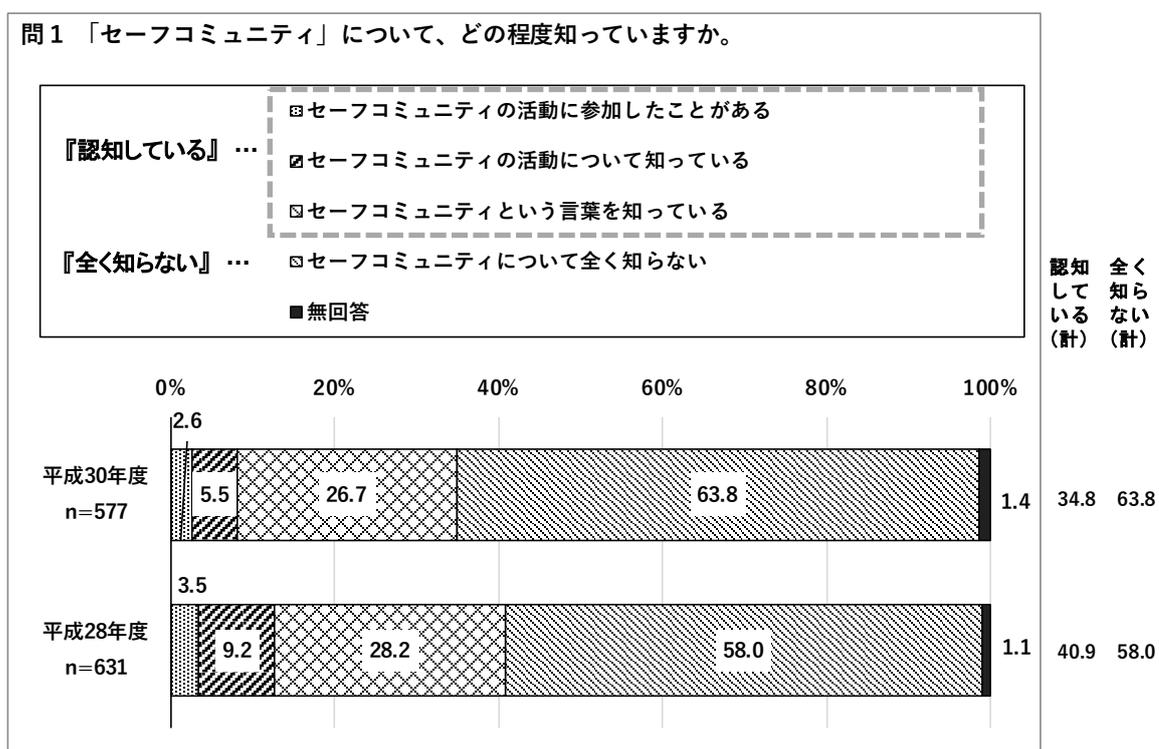
【「セーフコミュニティ」の認知度： 時系列】

<全体>

- ・セーフコミュニティについて、「活動に参加したことがある」(2.6%)、「活動について知っている」(5.5%)、「言葉を知っている」(26.7%)を合わせると(以下『認知している』)34.8%の方が『認知している』と回答している。
- ・一方、セーフコミュニティについて「全く知らない」割合は63.8%である。

<平成28年度調査と比較>

- ・平成28年度調査と比較して、『認知している』割合は6.1ポイント減少し、「全く知らない」割合は5.8ポイント増加した。



III 集計分析結果

【「セーフコミュニティ」の認知度：性別・年齢別・地区別】

<性別>

・『認知している』割合は、「女性」が39.1%と「男性」の28.5%に比べて10.6ポイント高い。

<年齢別>

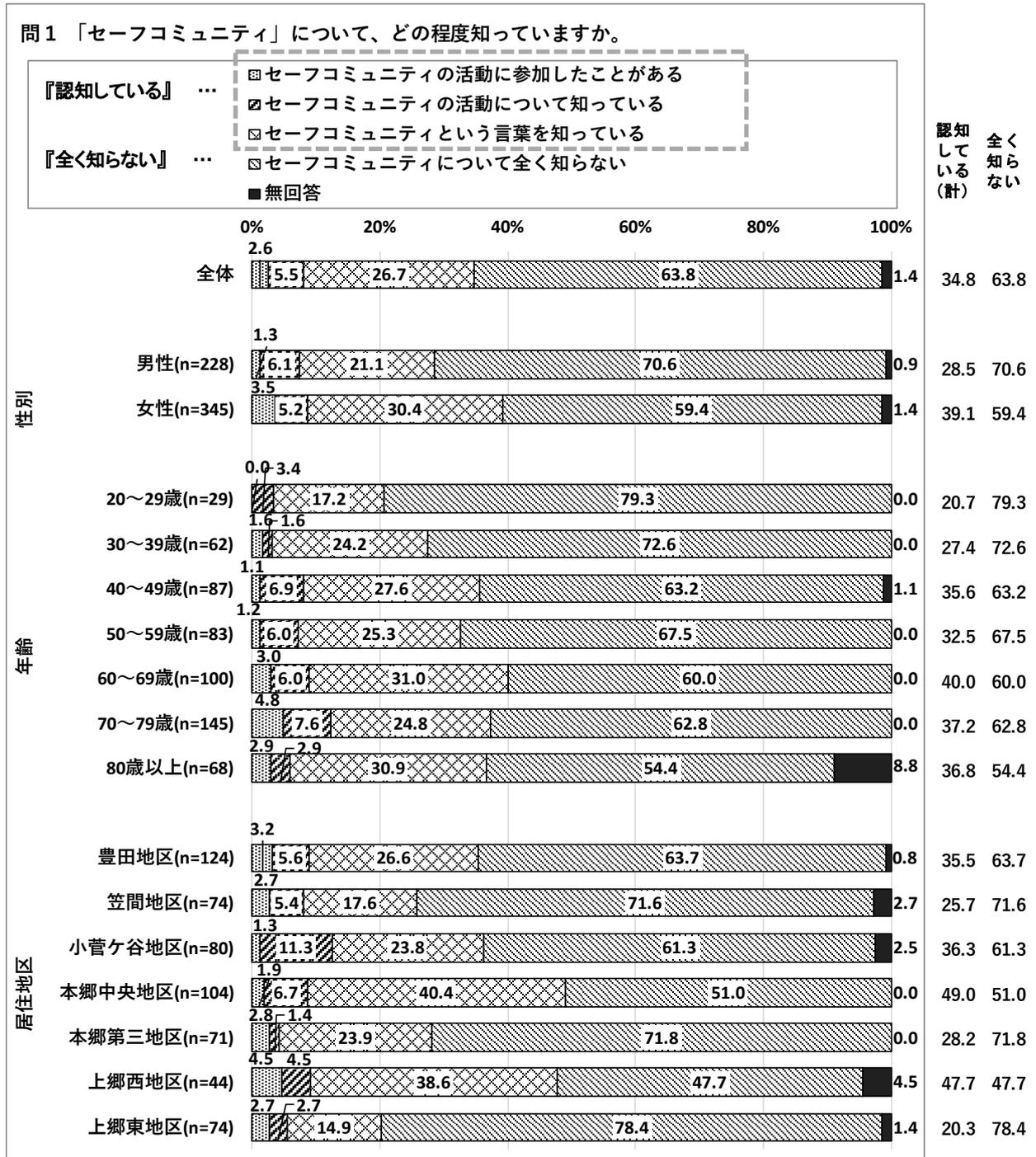
・「20～29歳」「30～39歳」の「全く知らない」割合は7割以上。

・「60～69歳」では、『認知している』割合が40.0%と全体より5.2ポイント高い。

<居住地区別>

・「本郷中央地区」「上郷西地区」で『認知している』割合が、それぞれ49.0%、47.7%と全体より10ポイント以上高い。

・「上郷東地区」では「全く知らない」割合が78.4%で、全体よりも10ポイント以上高い。



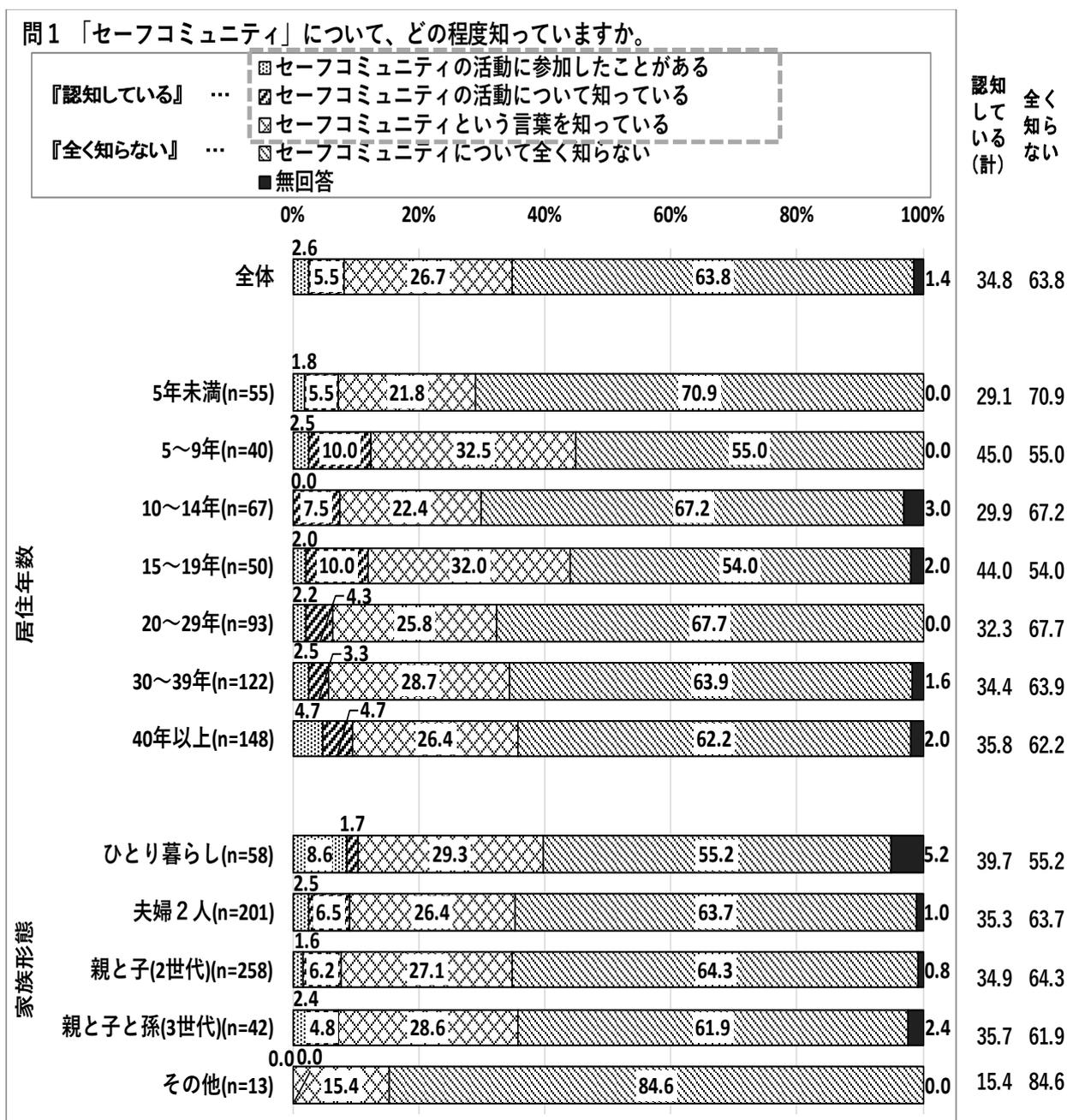
【「セーフコミュニティ」の認知度： 居住年数・家族形態別】

<居住年数別>

- ・「5～9年」では『認知している』割合が45.0%と、全体より10ポイント以上高く、「15～19年」では44.0%と全体より5ポイント以上高い。
- ・一方、「全く知らない」割合は「5年未満」が70.9%で、全体よりも7.1ポイント高い。

<家族形態別>

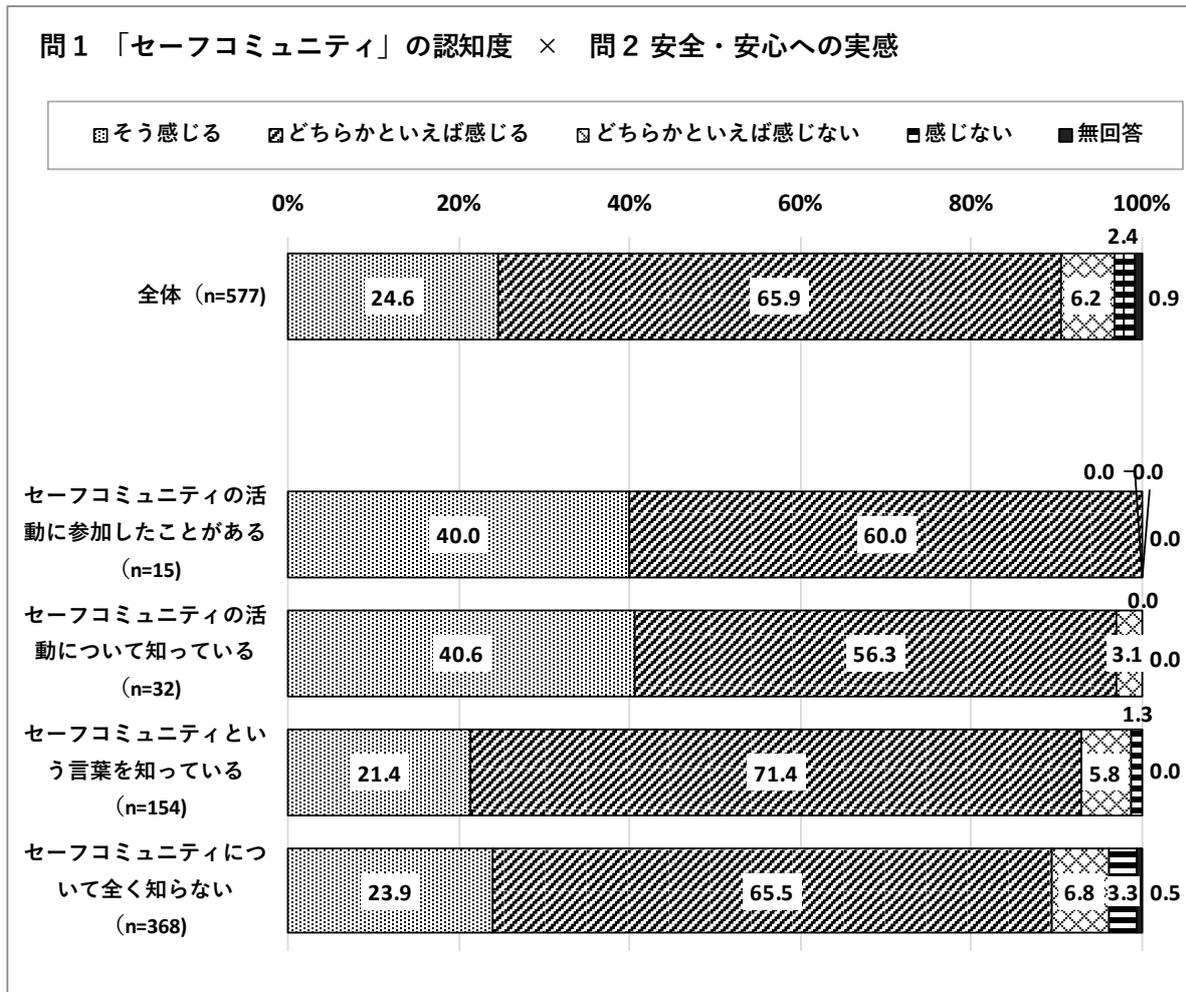
- ・「ひとり暮らし」では「活動に参加したことがある」割合が8.6%で、全体よりも5ポイント以上高い。



III 集計分析結果

【「セーフコミュニティ」の認知度：安全・安心への実感別】

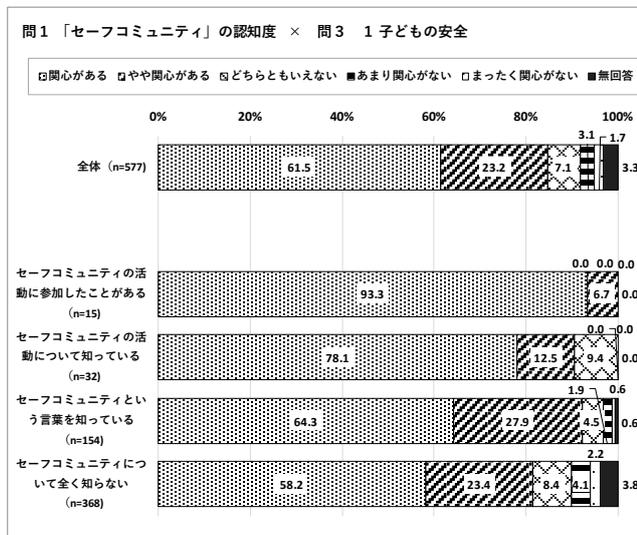
・セーフコミュニティの活動に「参加したことがある」「知っている」方ほど、安全・安心なまちだと感じる割合が高くなっている。



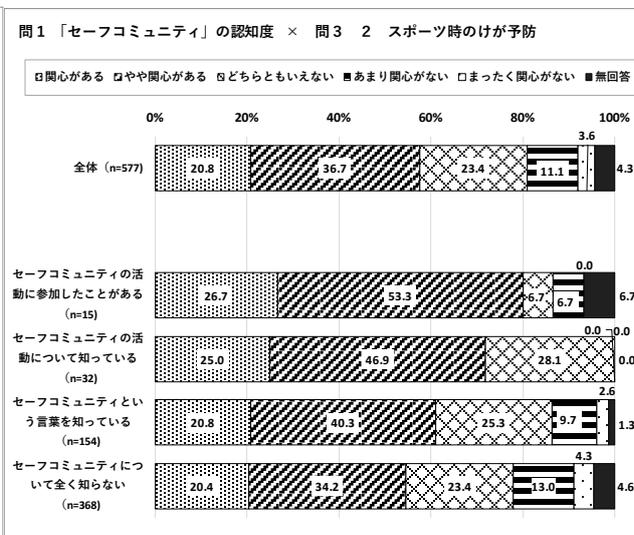
【「セーフコミュニティ」の認知度： 重点課題の関心度合別】

- ・ どの重点課題でもセーフコミュニティの活動に「参加したことがある」「知っている」方ほど「関心がある」の割合が高くなる傾向がある。
- ・ 特に「子育て支援と児童虐待の防止」では、「セーフコミュニティの活動に参加したことがある」方の「関心がある」割合が他と比べて高くなっている。

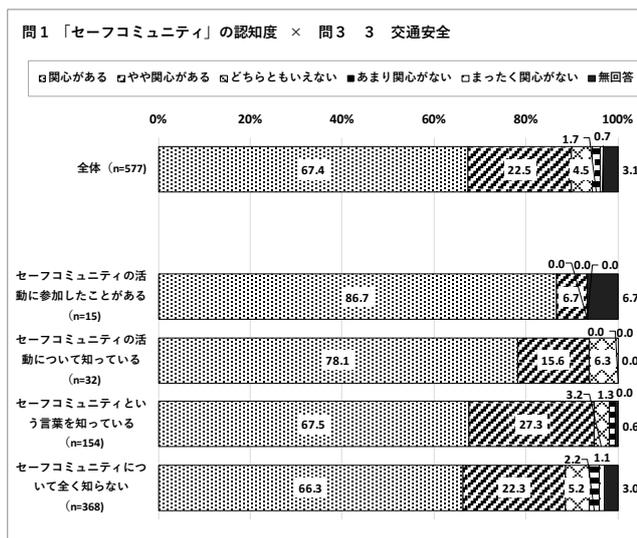
1 子どもの安全



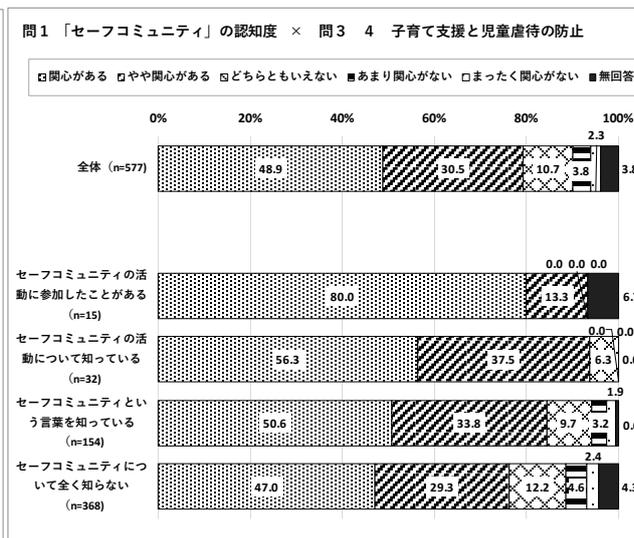
2 スポーツ時のけが予防



3 交通安全

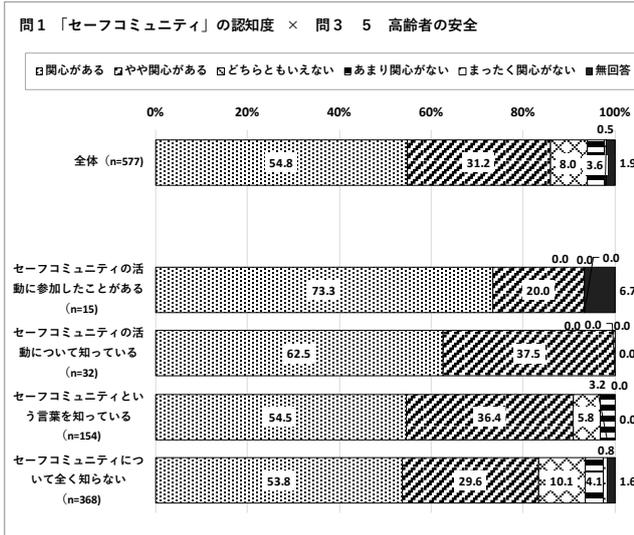


4 子育て支援と児童虐待の防止

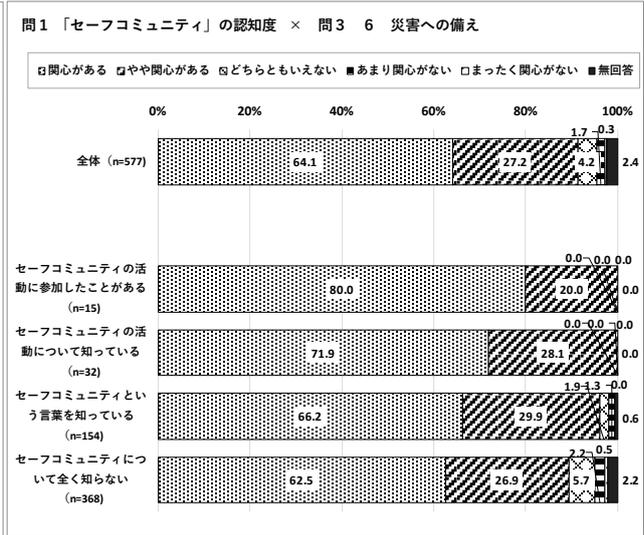


III 集計分析結果

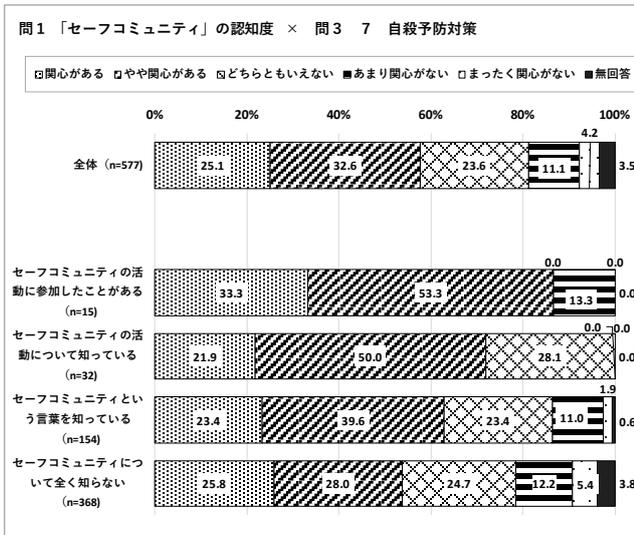
5 高齢者の安全



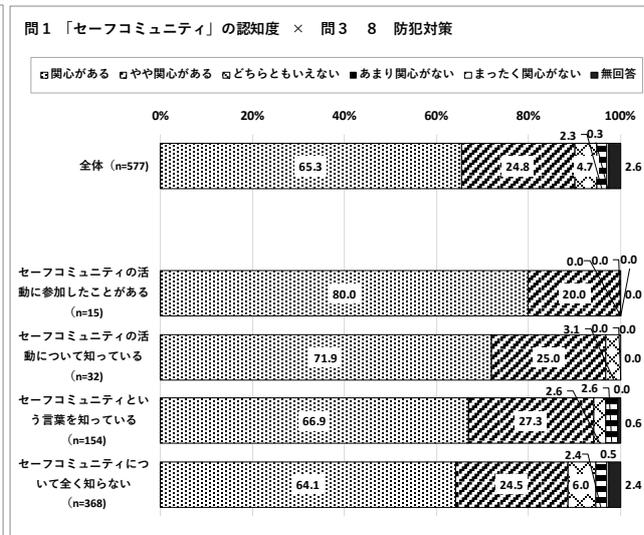
6 災害への備え



7 自殺予防対策



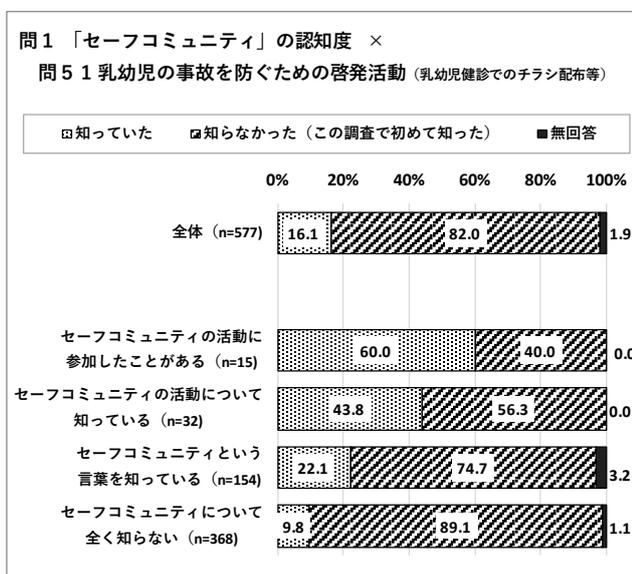
8 防犯対策



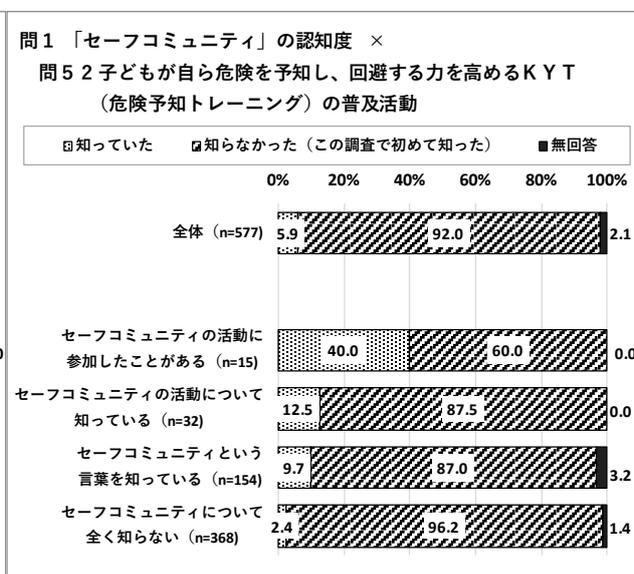
【「セーフコミュニティ」の認知度： 具体的な取組の認知度別】

- ・どの取組でもセーフコミュニティの活動に「参加したことがある」「知っている」方ほど「知っている」の割合が高くなる傾向がある。
- ・「子どもの登下校の見守りの推進」「子ども 110 番の家の登録の推進」「運動不足解消のためのウォーキングの推奨」「地域防災拠点等での実践的な訓練の推進」では、セーフコミュニティの活動の認知度に関わらず具体的な取組として認知されている割合が高くなっている。

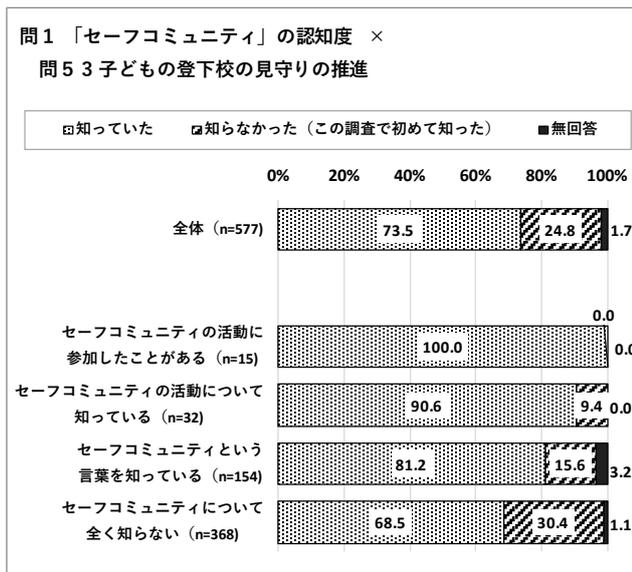
1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動  
(乳幼児健診でのチラシ配布等)



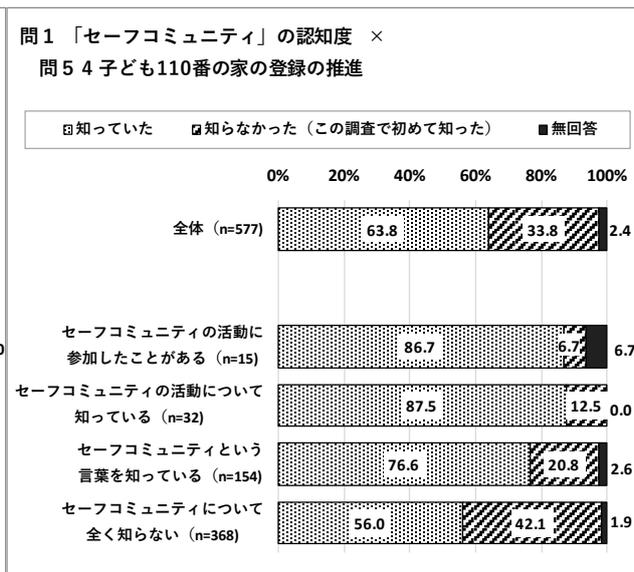
2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高める  
K Y T (危険予知トレーニング) の普及活動



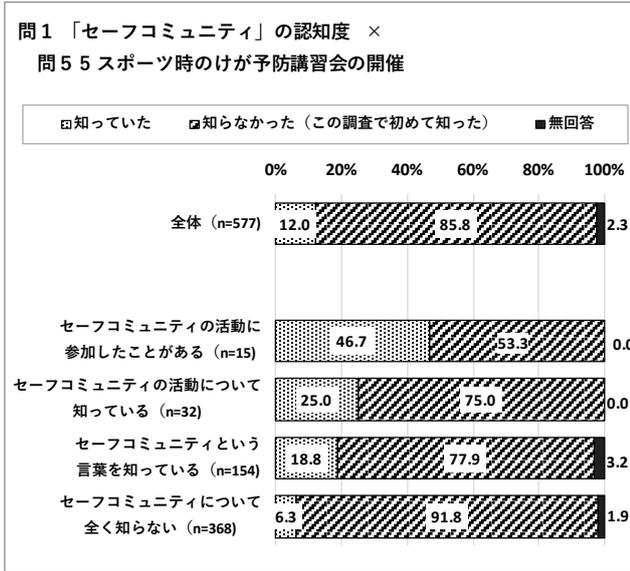
3 子どもの登下校の見守りの推進



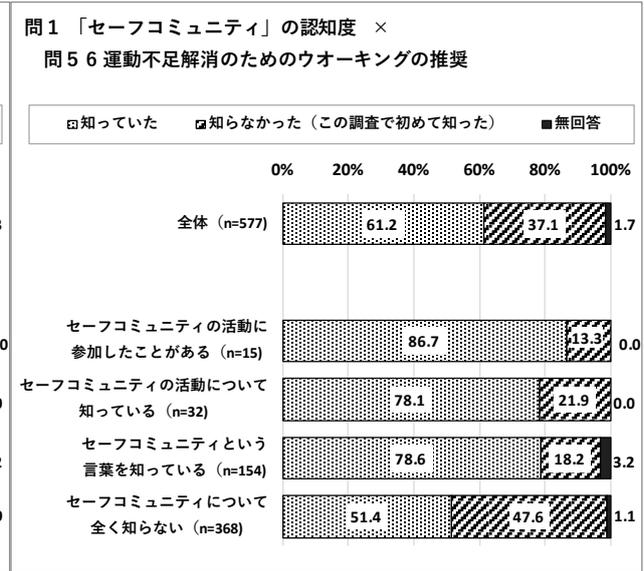
4 子ども 110 番の家の登録の推進



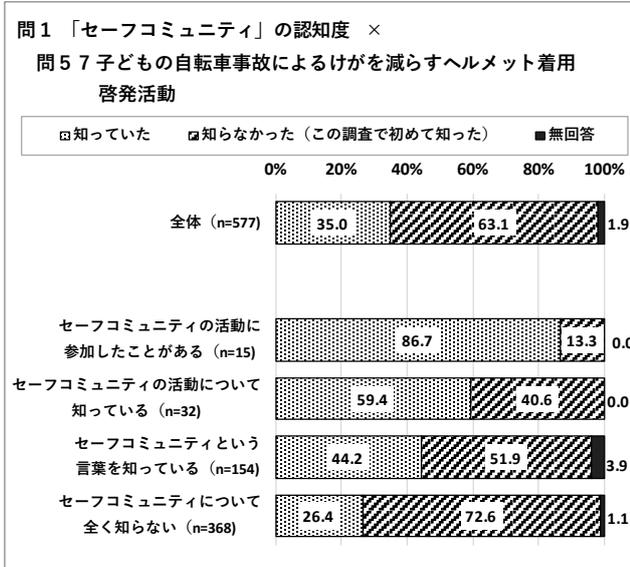
5 スポーツ時のけが予防講習会の開催



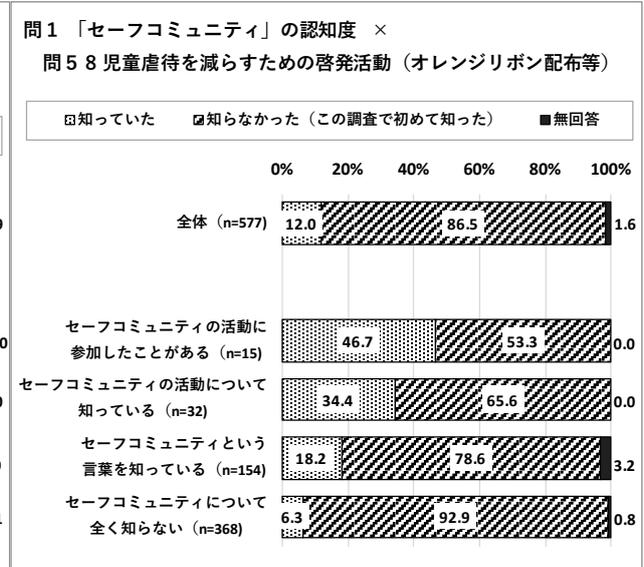
6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨



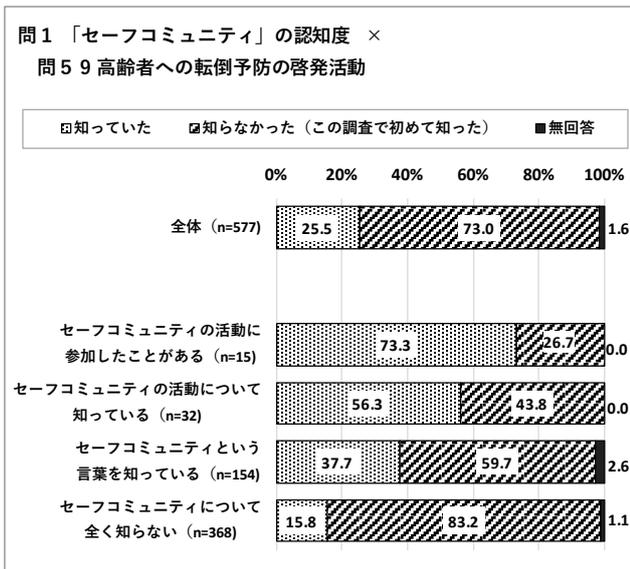
7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動



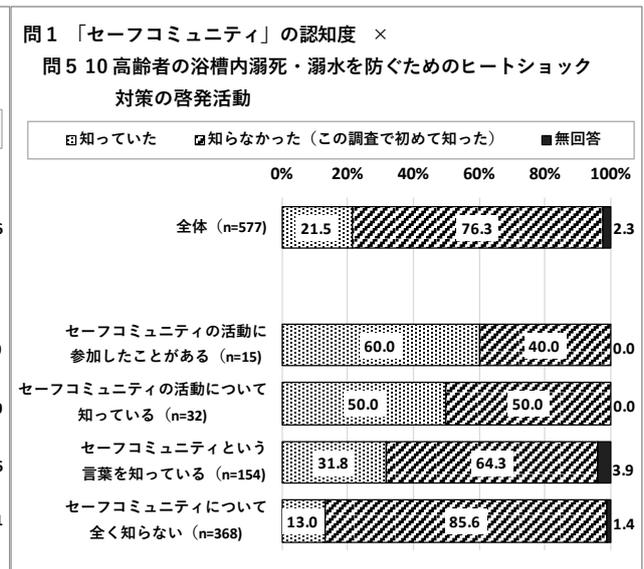
8 児童虐待を減らすための啓発活動 (オレンジリボン配布等)



9 高齢者への転倒予防の啓発活動

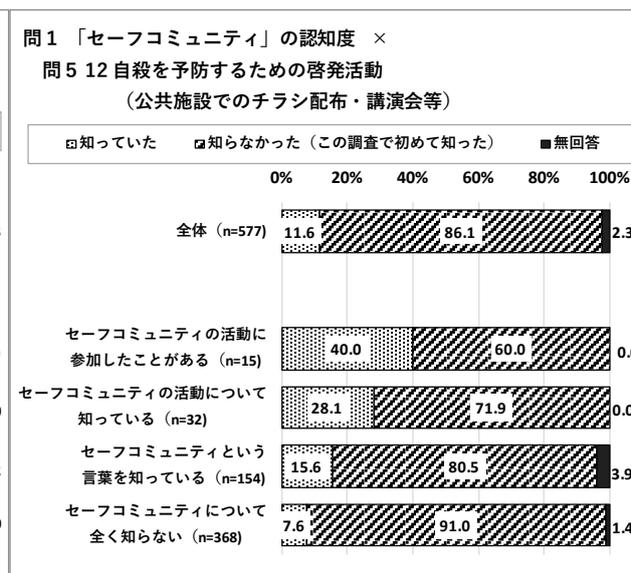
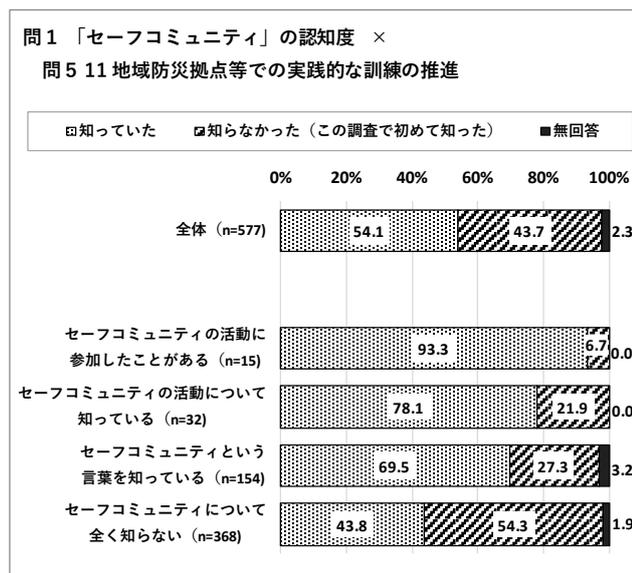


10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐためのヒートショック対策の啓発活動



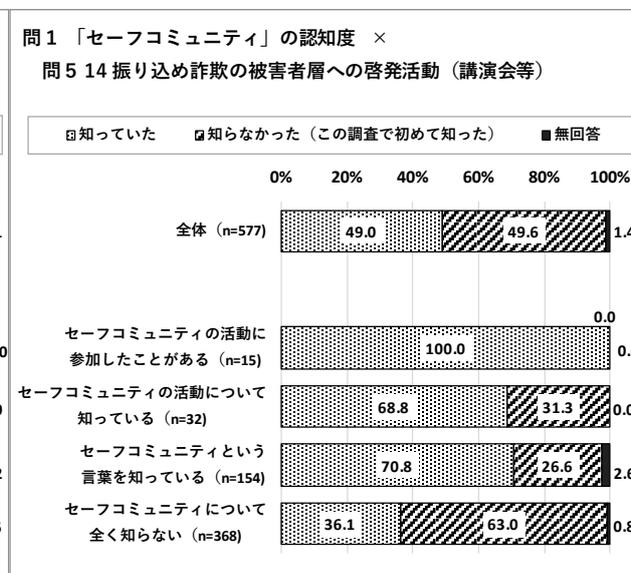
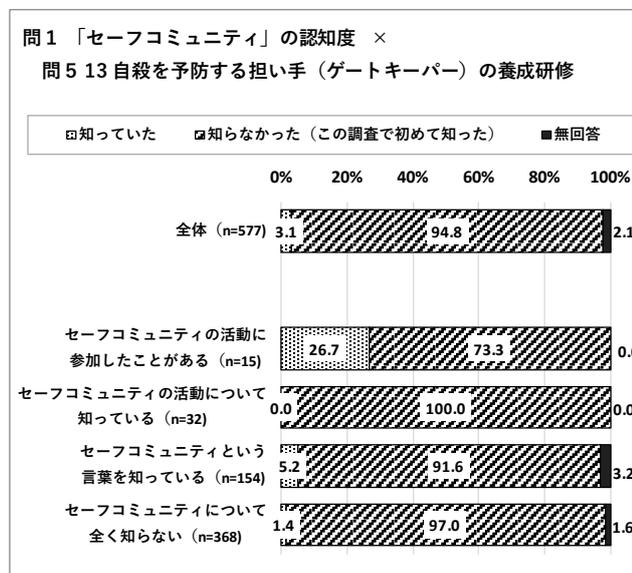
### 11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進

### 12 自殺を予防するための啓発活動 (公共施設でのチラシ配布・講演会等)



### 13 自殺を予防する担い手 (ゲートキーパー) の養成研修

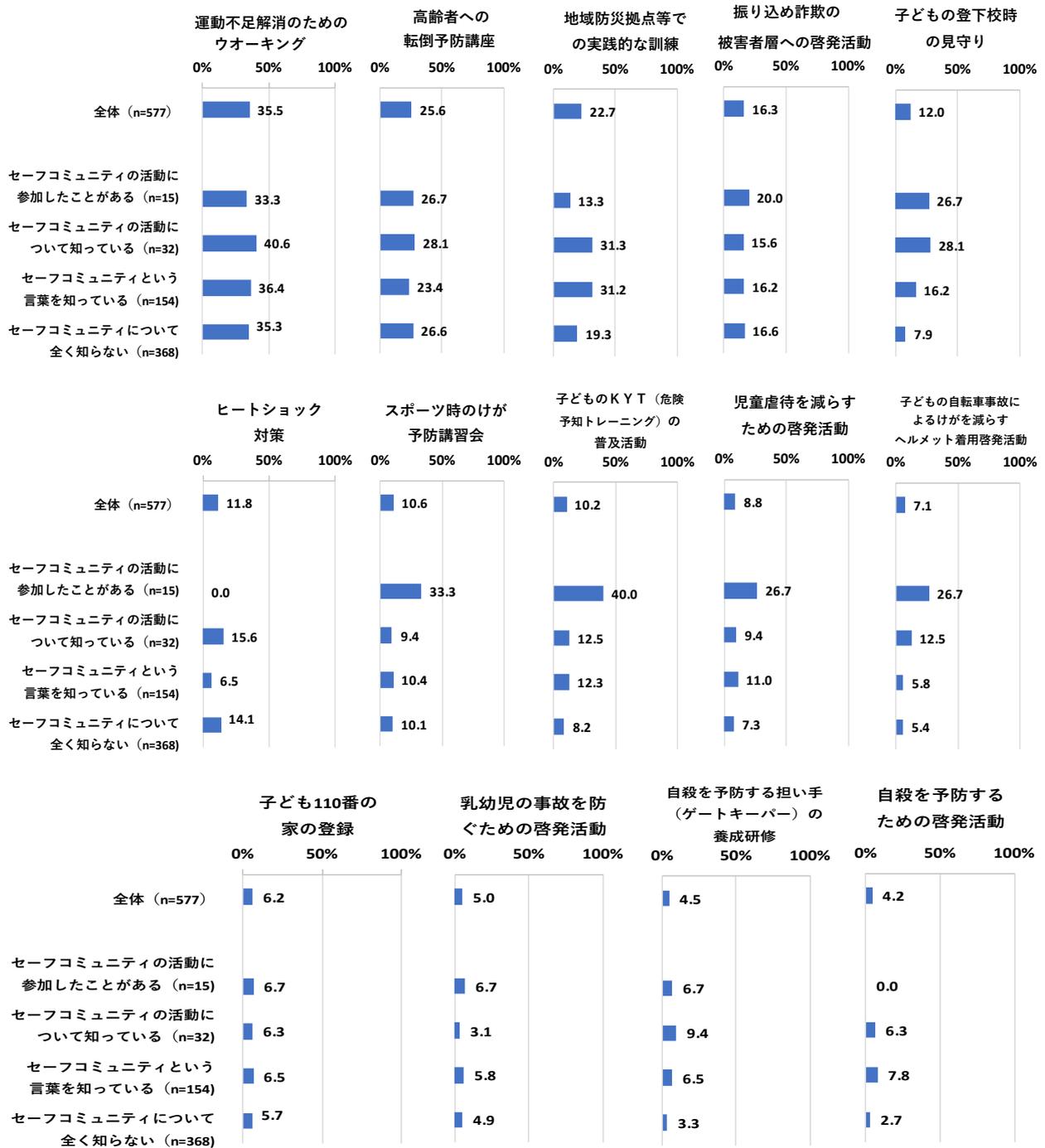
### 14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動 (講演会等)



III 集計分析結果

【「セーフコミュニティ」の認知度： 今後参加したい取組別】

- ・「セーフコミュニティの活動に参加したことがある」方は「スポーツ時のけが予防講習会」「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」を挙げる傾向がある。
- ・「セーフコミュニティについて全く知らない」方は「運動不足解消のためのウオーキング」「高齢者への転倒予防講座」「地域防災拠点等での実践的な訓練」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」「子どもの登下校時の見守り」を挙げる傾向がある。

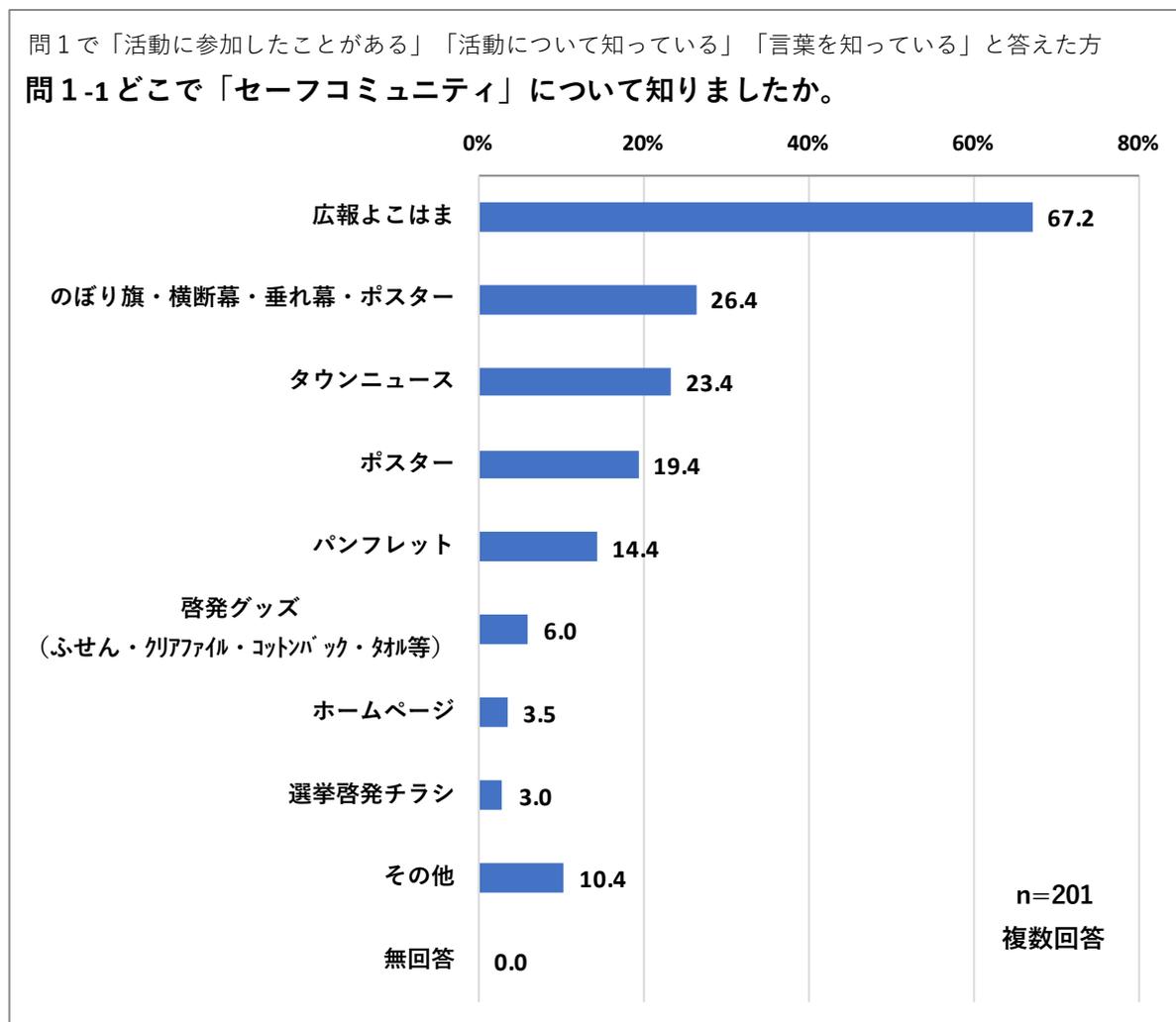


(1) -1 「セーフコミュニティ」を知った媒体

【「セーフコミュニティ」を知った媒体】

<全体>

- ・「広報よこはま」が67.2%で最も多く、「のぼり旗・横断幕・垂れ幕・ポスター」(26.4%)、「タウンニュース」(23.4%)、ポスター(19.4%)の順で続く。



問1-1 どこで「セーフコミュニティ」について知りましたか (その他記述)【19件】		
市・区・町内会の会議	6	関係者
テレビ	2	認証導入時
新聞記事	1	再認証記念式典
インターネット	1	区民祭
自治会ニュース	1	絵画コンクール
友人(隣人)	1	ロゴマークを使用
職場	1	

III 集計分析結果

【「セーフコミュニティ」を知った媒体： 属性別 】上位4項目

<性別>

・「男性」より「女性」の方が「広報よこはま」では15.0ポイント高い。

<年齢別>

・「20～29歳」で「のぼり旗・横断幕・垂れ幕・ポスター」の割合が全体より40.3ポイント、「ポスター」の割合が30.6ポイント高い。また、年齢が上がるほど「広報よこはま」による認知の割合が高くなる傾向が見られる。

<居住年数別>

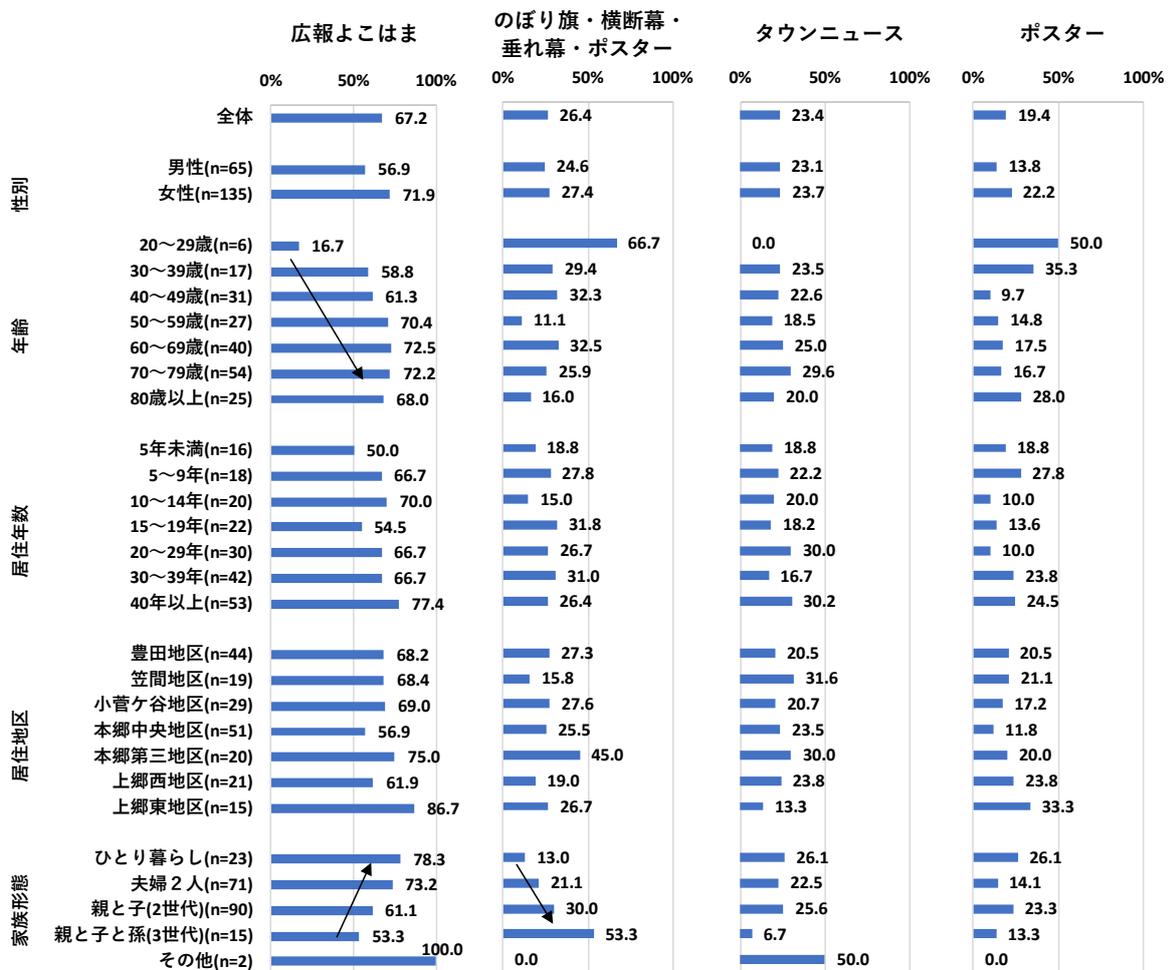
・居住年数別には大きな差は見られない。

<居住地区別>

・「本郷第三地区」で「のぼり旗・横断幕・垂れ幕・ポスター」の割合が、「上郷東地区」で「広報よこはま」の割合が、全体より15ポイント以上高い。

<家族形態別>

・家族構成の数が多いほど「のぼり旗・横断幕・垂れ幕・ポスター」の割合が高く、家族構成の数が少ないほど「広報よこはま」の割合高い傾向が見られる。



(2) 安全・安心への実感

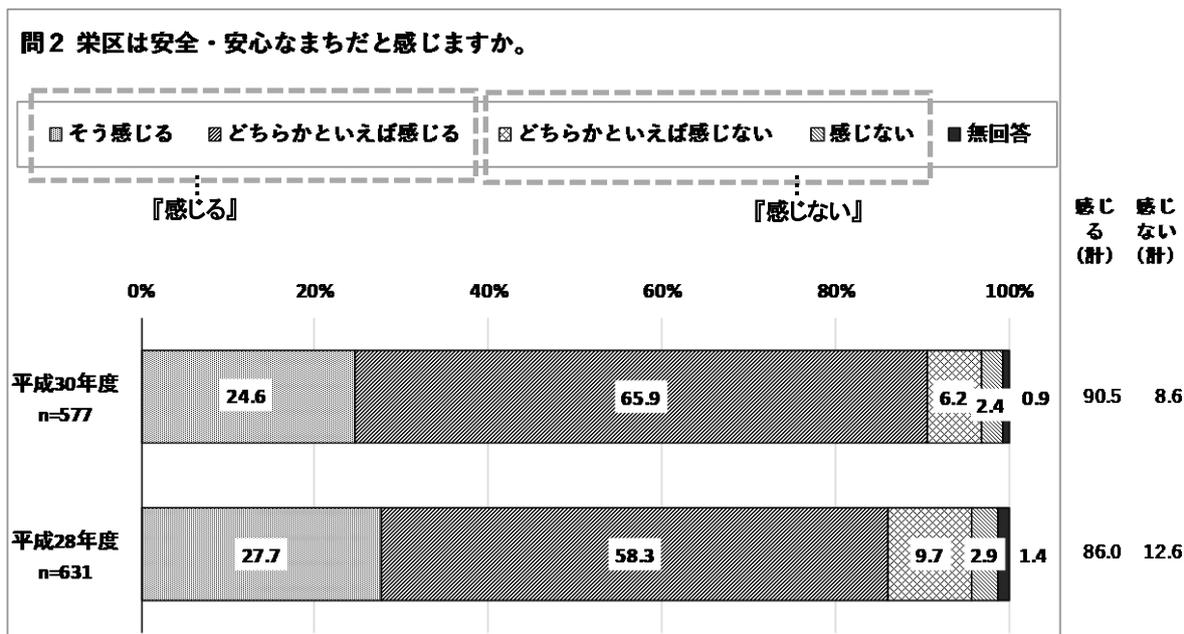
【安全・安心への実感】

<全 体>

・「そう感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた『感じる』方が90.5%、「どちらかといえば感じない」「感じない」を合わせた『感じない』方が8.6%となっており、約9割の区民が安全・安心なまちだと感じている。

<平成28年度調査と比較>

・平成28年度調査と比較して、『感じる』割合は4.5ポイント増加し、『感じない』割合は3.9ポイント減少し、安全・安心なまちだと感じる区民が微増している。



【安全・安心への実感： 属性別】

＜性別＞

・「女性」より「男性」の方が「そう感じる」の割合が4.3ポイント高い。

＜年齢別＞

・「80歳以上」で「そう感じる」の割合が、全体より10ポイント以上高い。

＜居住年数別＞

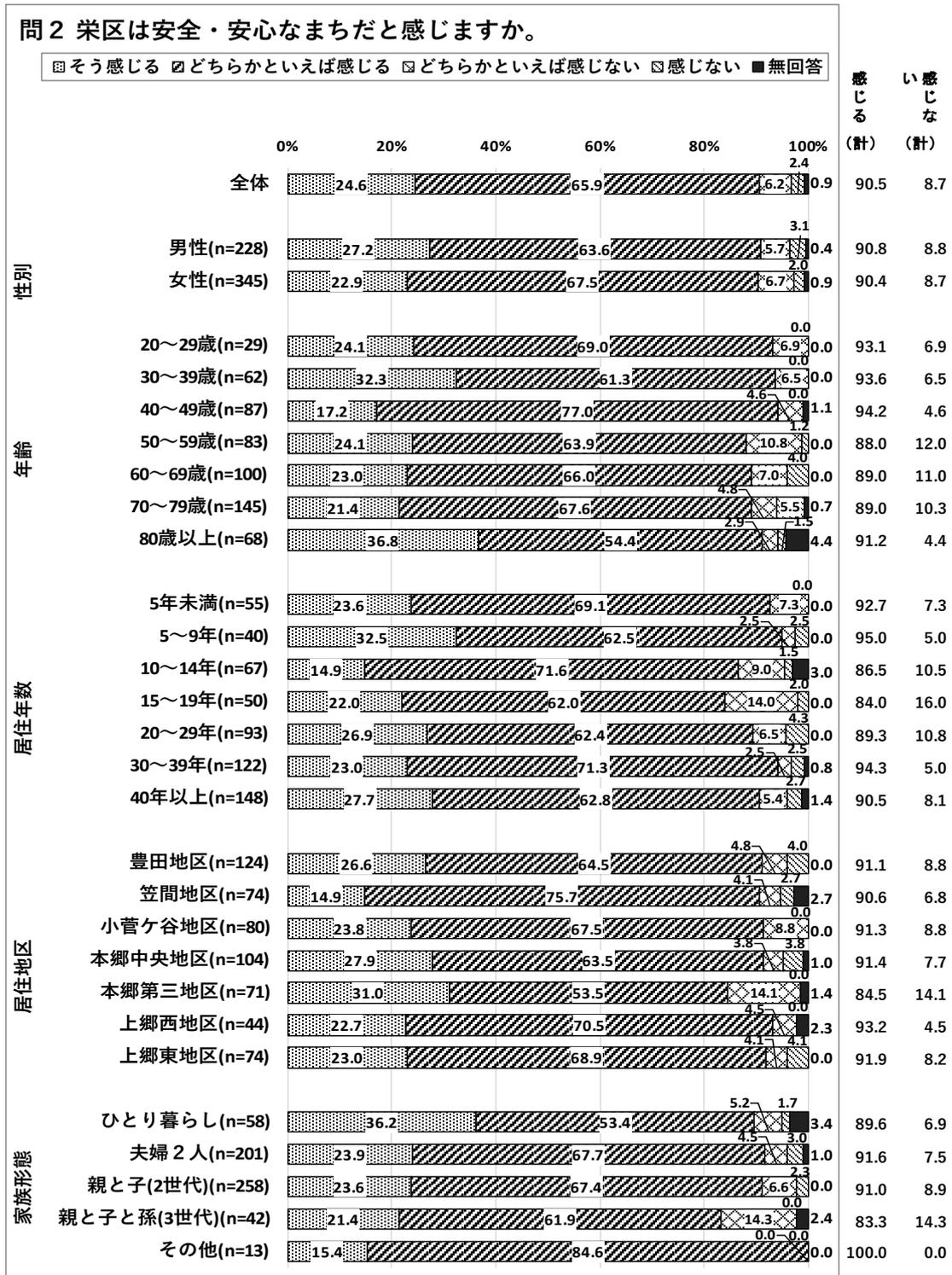
・「5～9年」で「そう感じる」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

＜居住地区別＞

・「本郷第三地区」で「そう感じる」の割合が、全体より5ポイント以上高い。

＜家族形態別＞

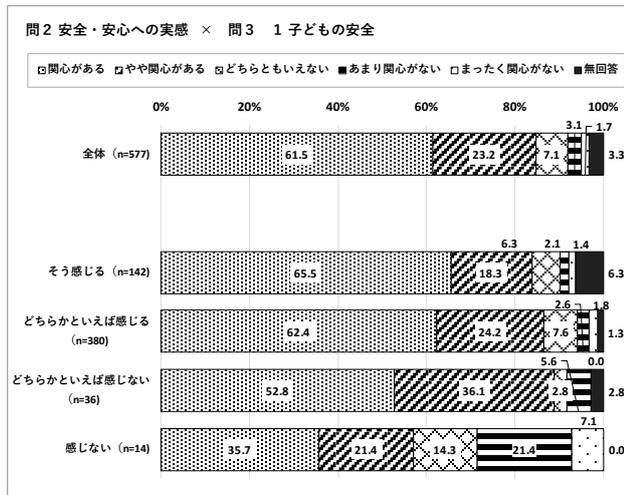
・「ひとり暮らし」で「そう感じる」の割合が、全体より10ポイント以上高い。



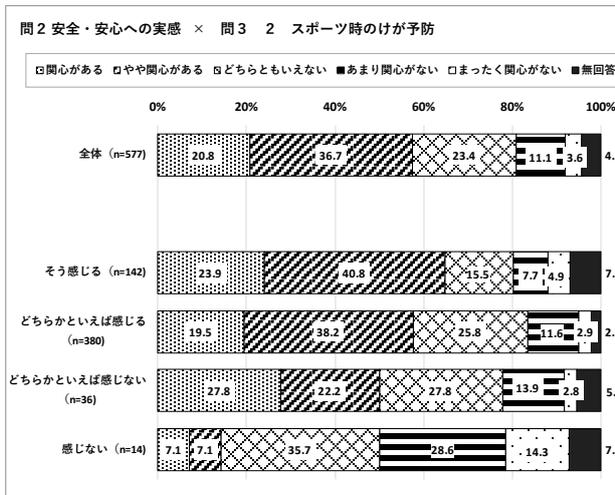
【安全・安心への実感： 重点課題の関心度合別】

・安全・安心への実感がある区民ほど重点課題の関心度は高い傾向が見られるが、「自殺予防対策」では、安全・安心への実感を「感じない」方の「関心がある」割合が全体より10ポイント以上高くなっている。

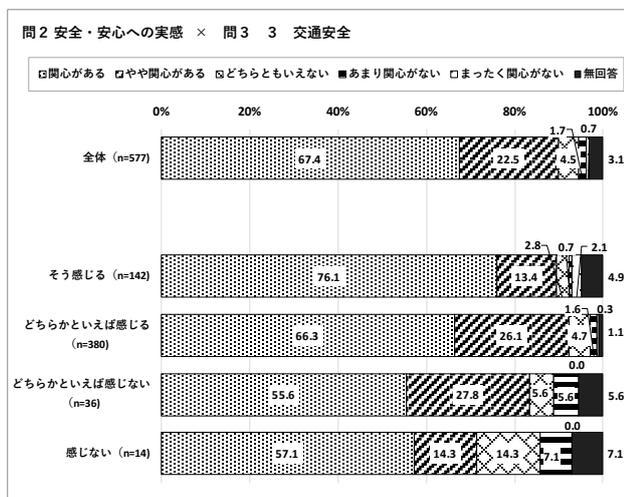
1 子どもの安全



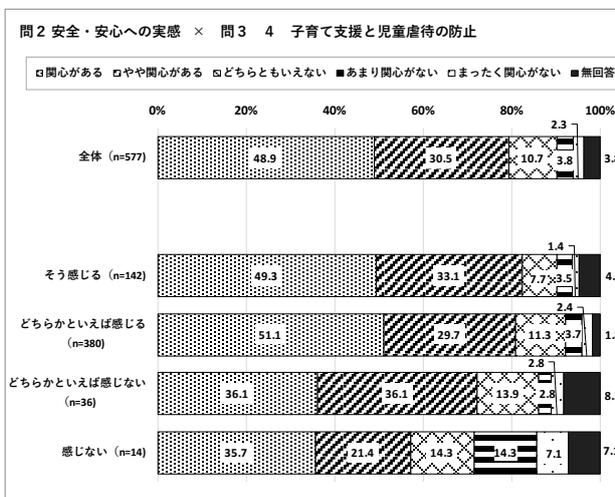
2 スポーツ時のけが予防



3 交通安全

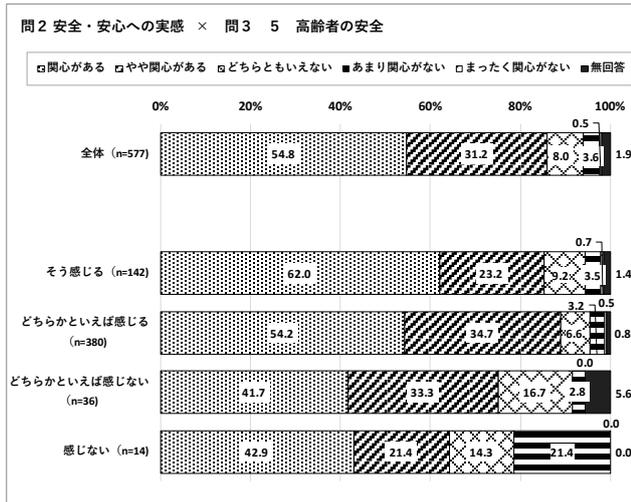


4 子育て支援と児童虐待の防止

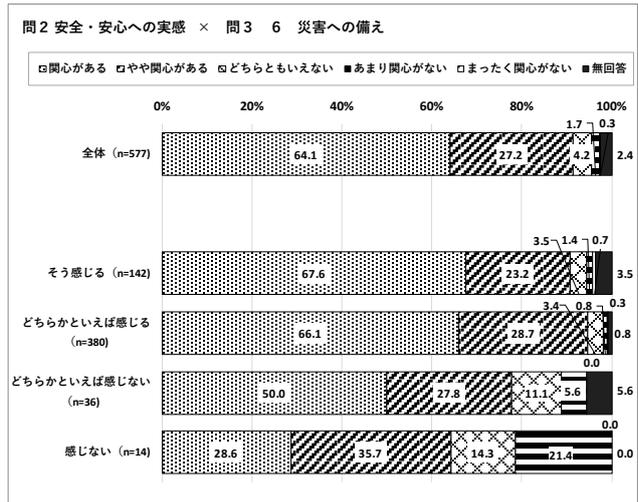


### III 集計分析結果

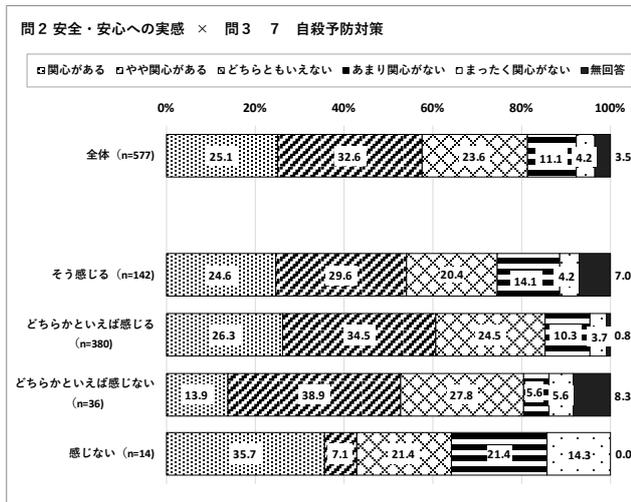
#### 5 高齢者の安全



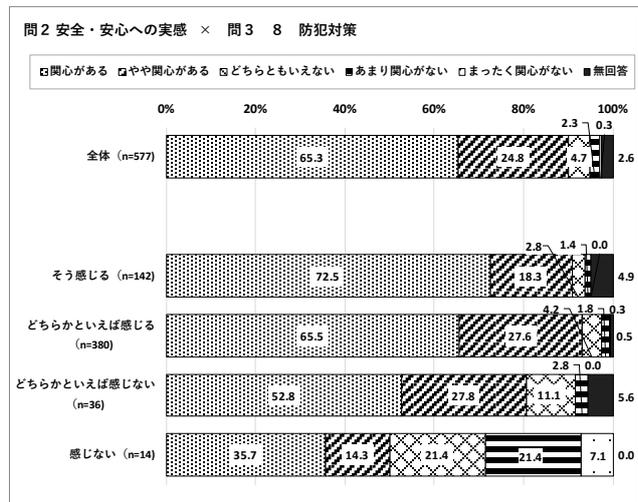
#### 6 災害への備え



#### 7 自殺予防対策



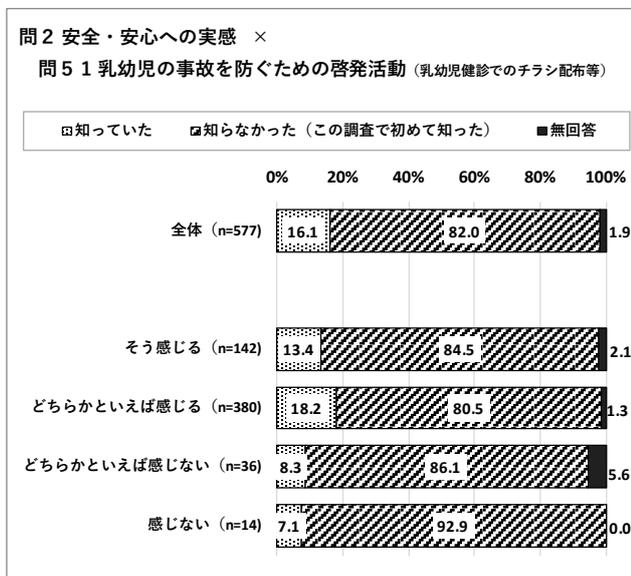
#### 8 防犯対策



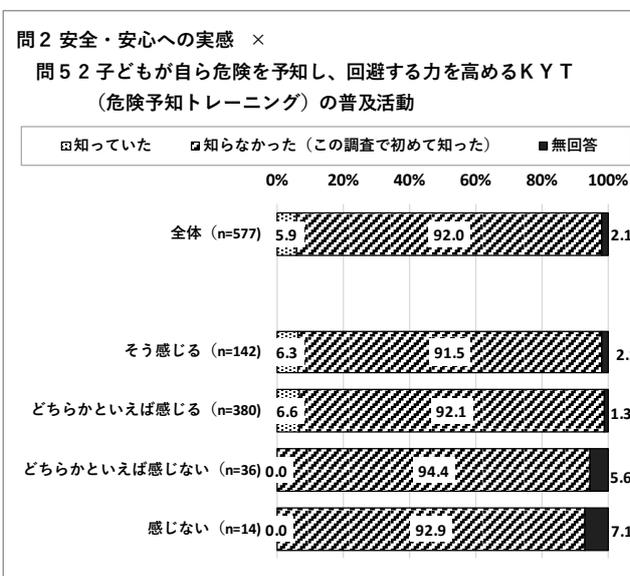
【安全・安心への実感： 具体的な取組の認知度別】

・安全・安心への実感がある区民ほど具体的な取組の認知度は高い傾向が見られるが、「スポーツ時のけが予防講習会の開催」「子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動」「高齢者への転倒予防の啓発活動」では、安全・安心への実感を「感じない」方が、具体的な取組を「知っていた」割合が全体より5ポイント以上高くなっている。

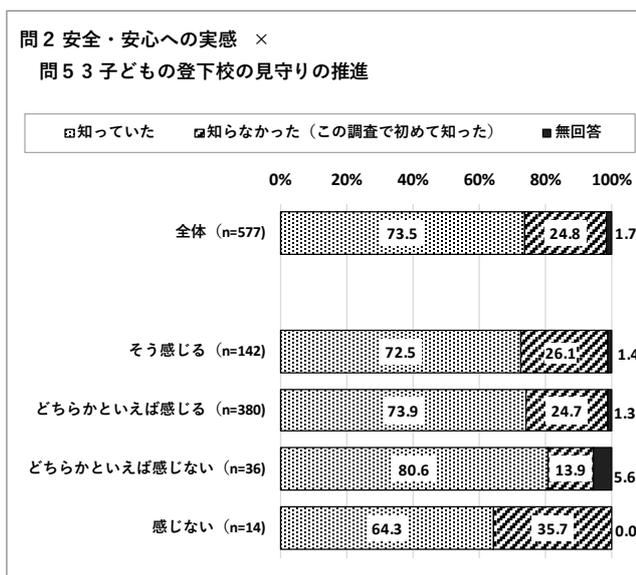
1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動  
(乳幼児健診でのチラシ配布等)



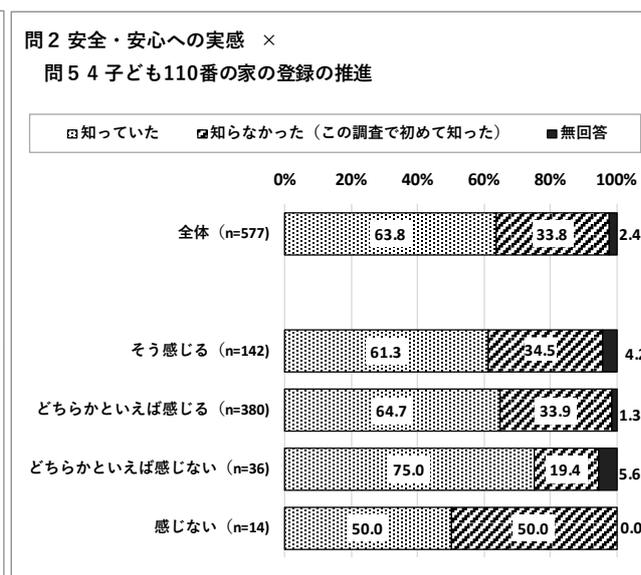
2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高める  
KYT (危険予知トレーニング) の普及活動



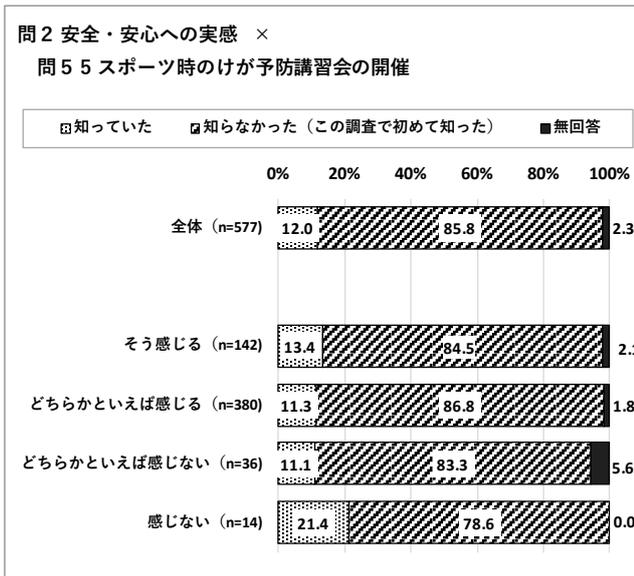
3 子どもの登下校の見守りの推進



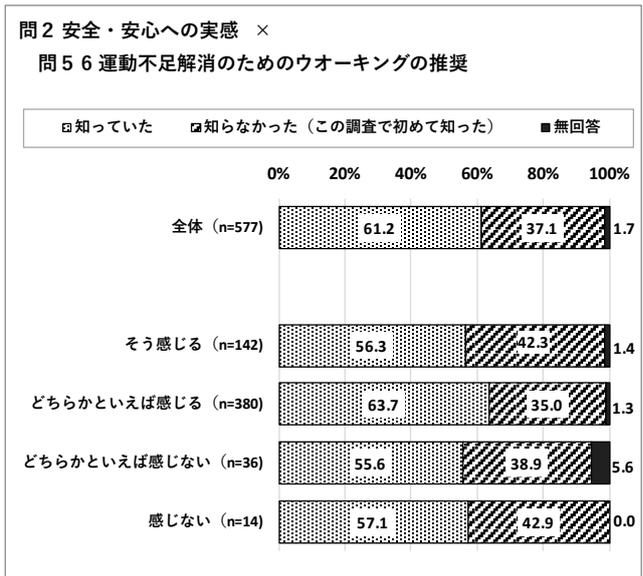
4 子ども110番の家の登録の推進



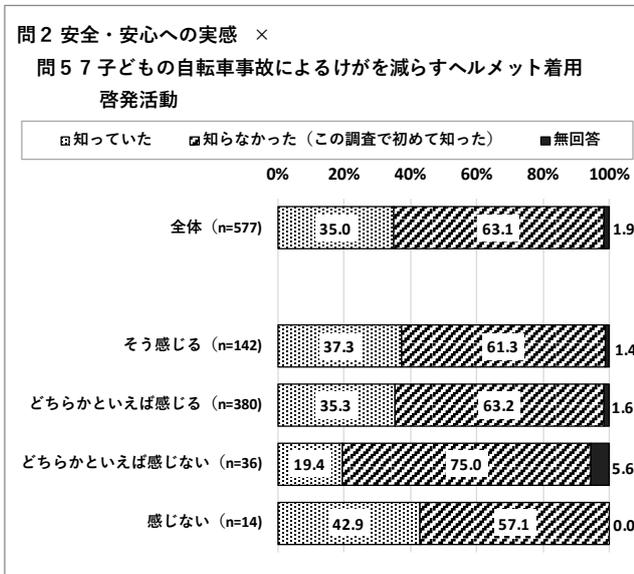
5 スポーツ時のけが予防講習会の開催



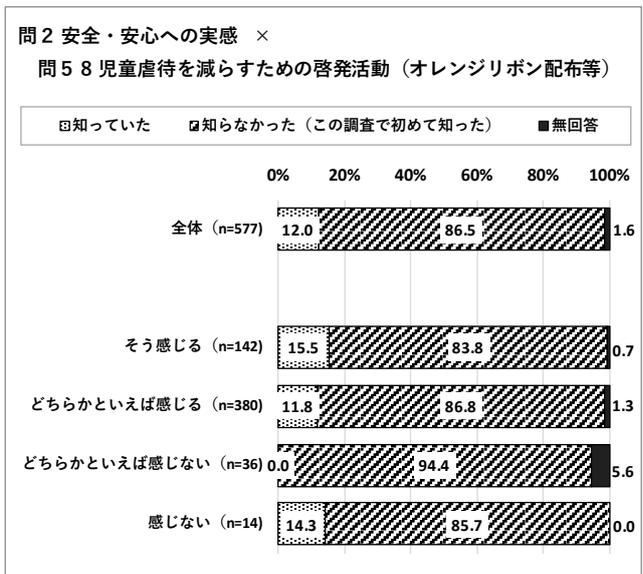
6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨



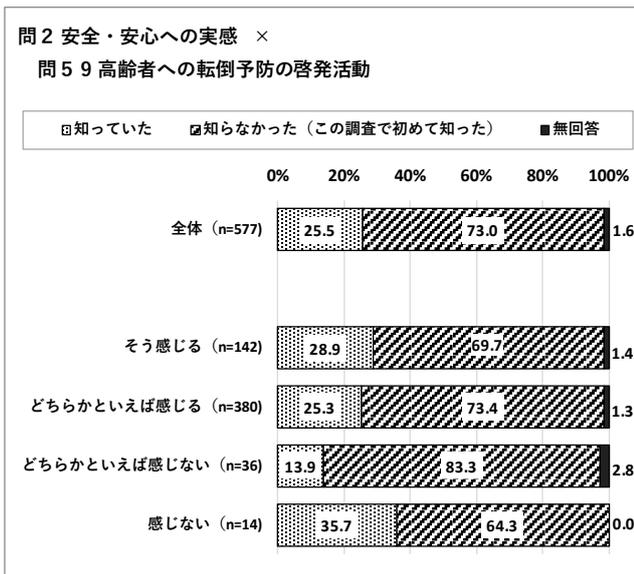
7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動



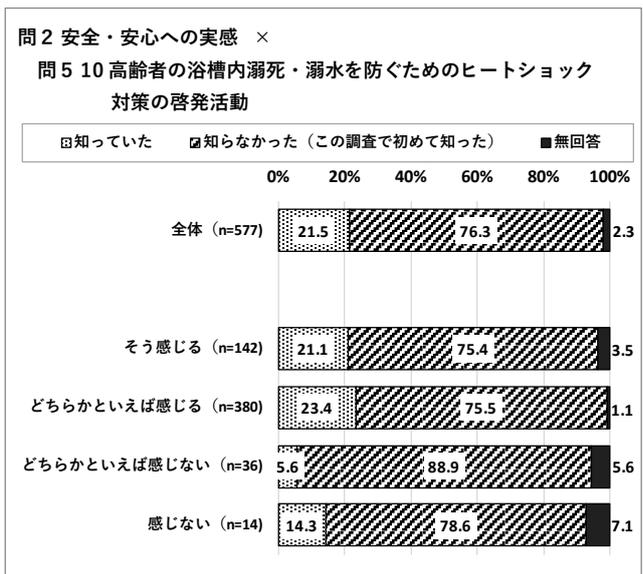
8 児童虐待を減らすための啓発活動 (オレンジリボン配布等)



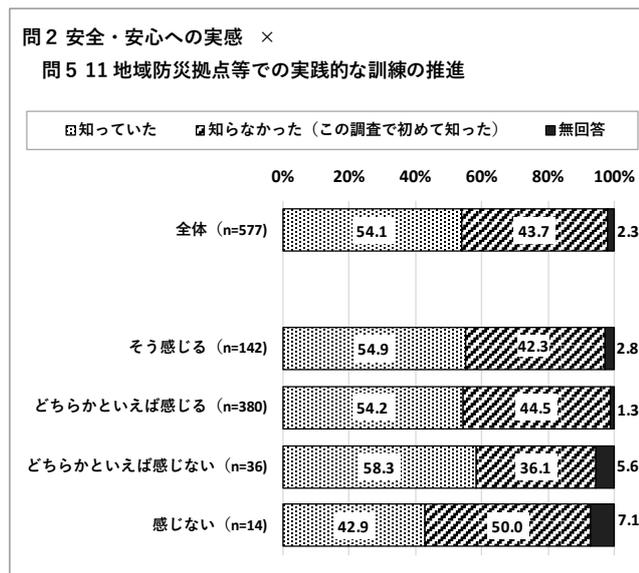
9 高齢者への転倒予防の啓発活動



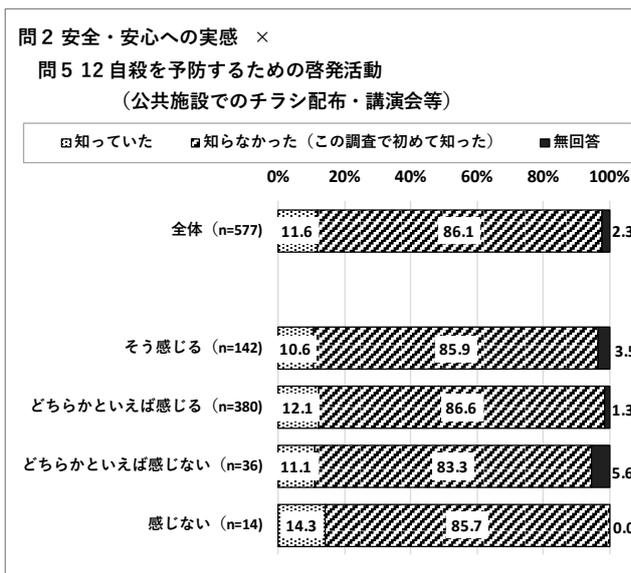
10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐためのヒートショック対策の啓発活動



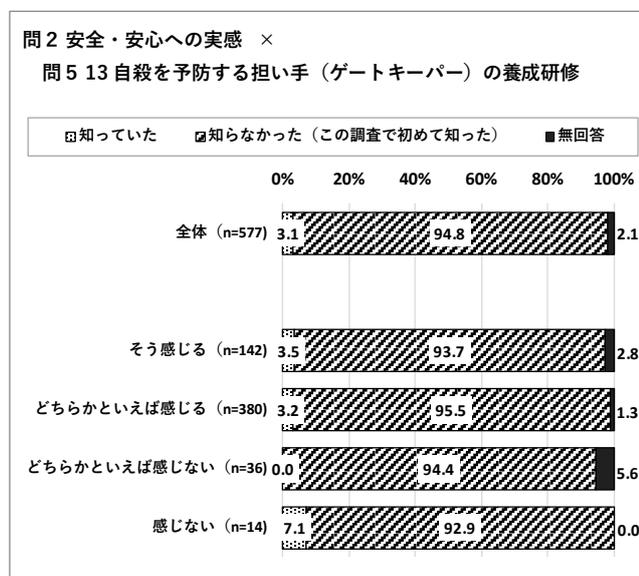
11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進



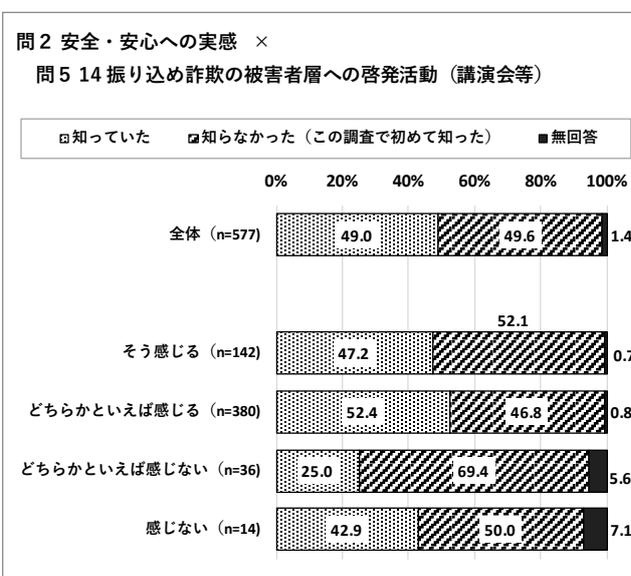
12 自殺を予防するための啓発活動  
(公共施設でのチラシ配布・講演会等)



13 自殺を予防する担い手 (ゲートキーパー) の養成研修



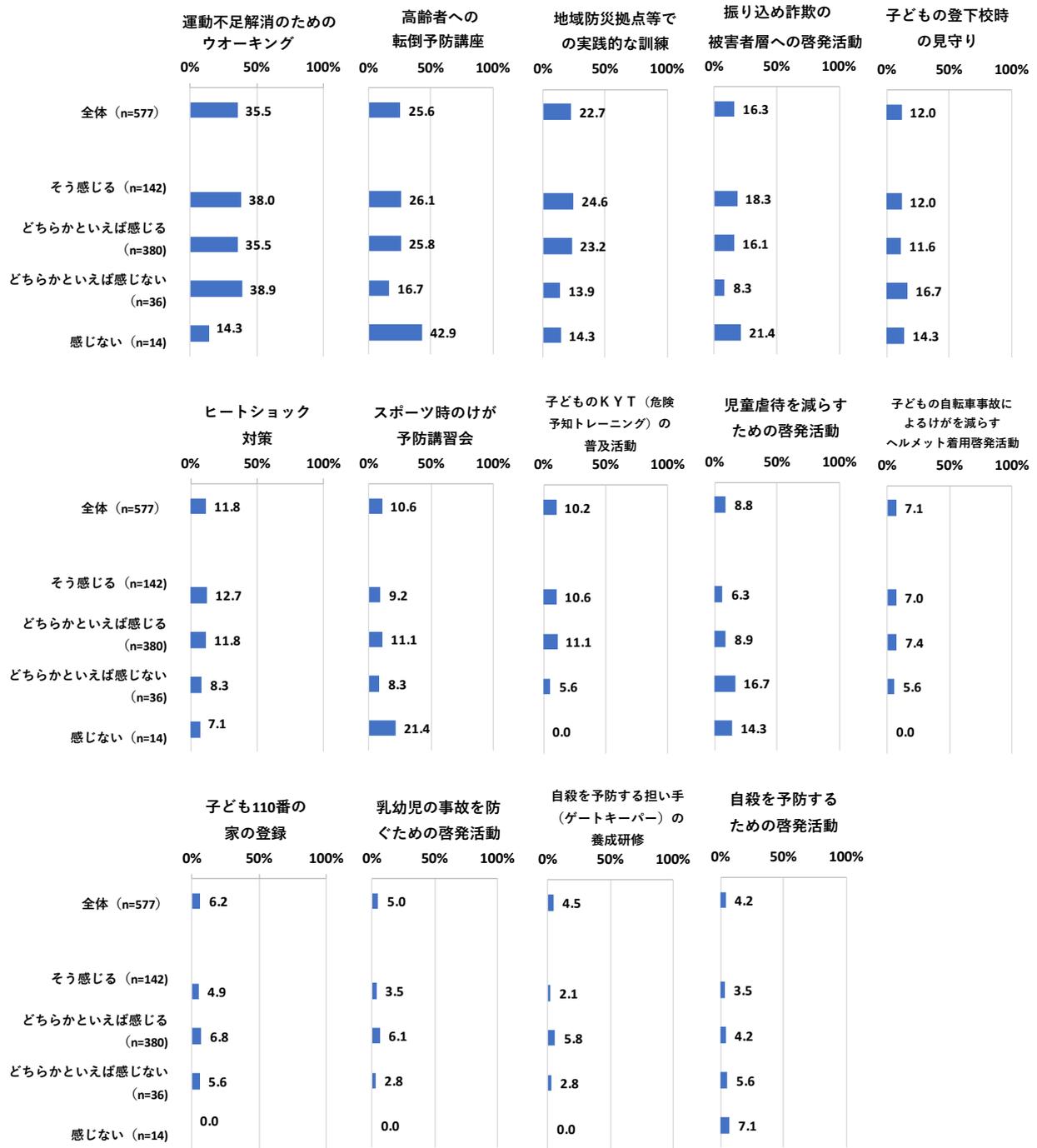
14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動 (講演会等)



III 集計分析結果

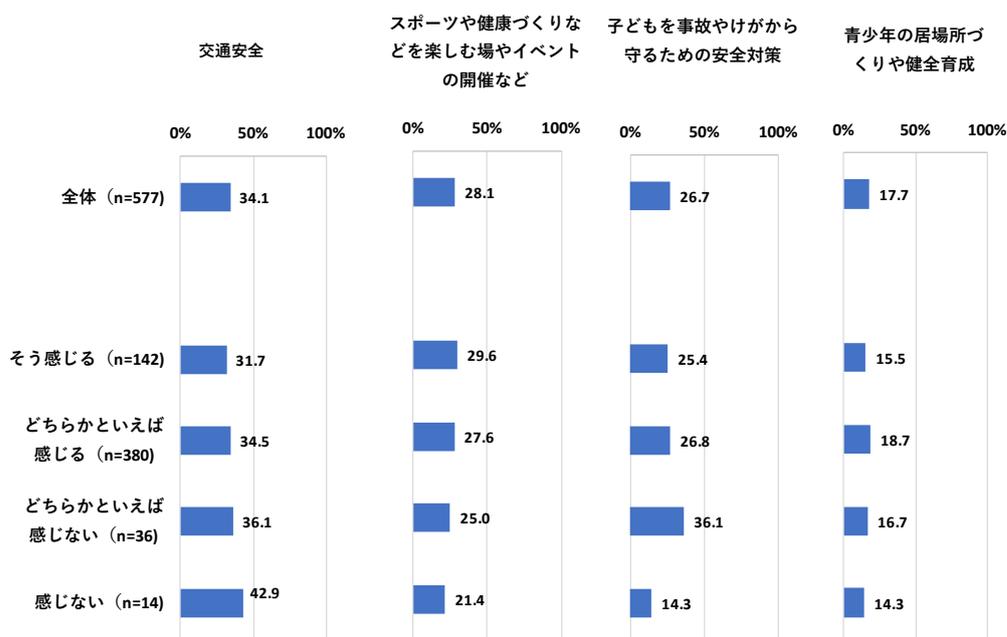
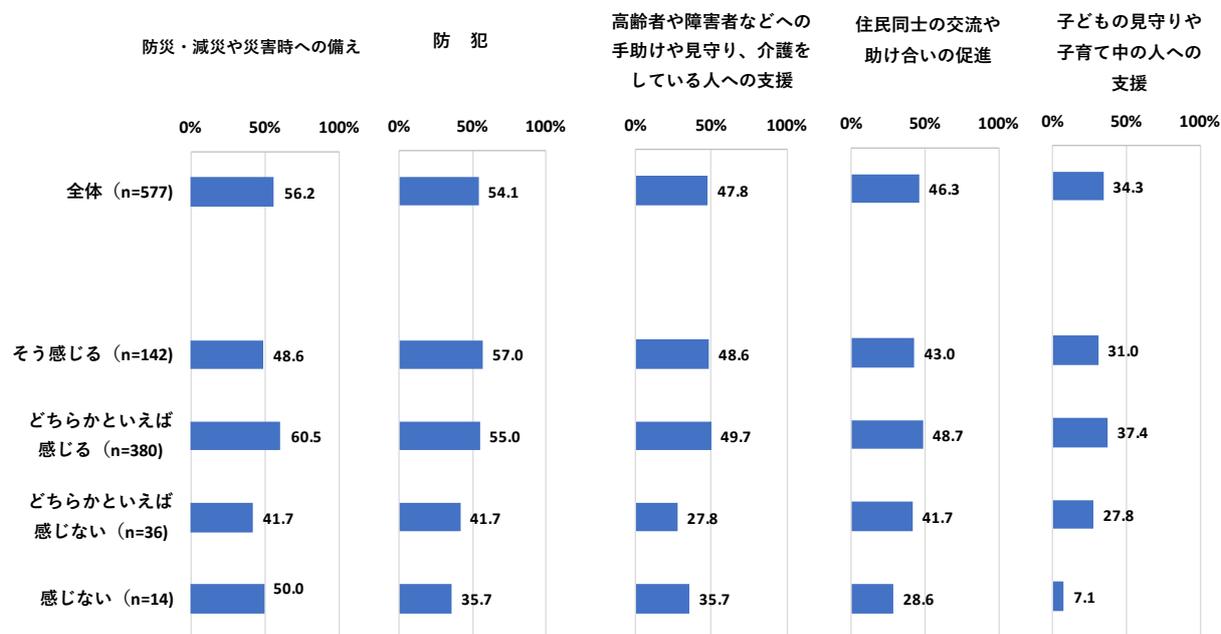
【安全・安心への実感： 今後参加したい取組別】

・安全・安心への実感が高い方は「地域防災拠点等での実践的な訓練」を、安全・安心への実感を「感じない」方は「高齢者への転倒予防講座」「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」「スポーツ時のけが予防講習会」「児童虐待を減らすための啓発活動」を今後参加したい取組として挙げる割合が高い傾向が見られる。



【安全・安心への実感： 地域で取り組むべき課題別】

・安全・安心への実感が高い方は「防犯」「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」「子どもの見守りや子育て中の人への支援」を、安全・安心への実感を「感じない」方は「交通安全」を地域で取り組むべき課題として挙げる割合が高い傾向が見られる。

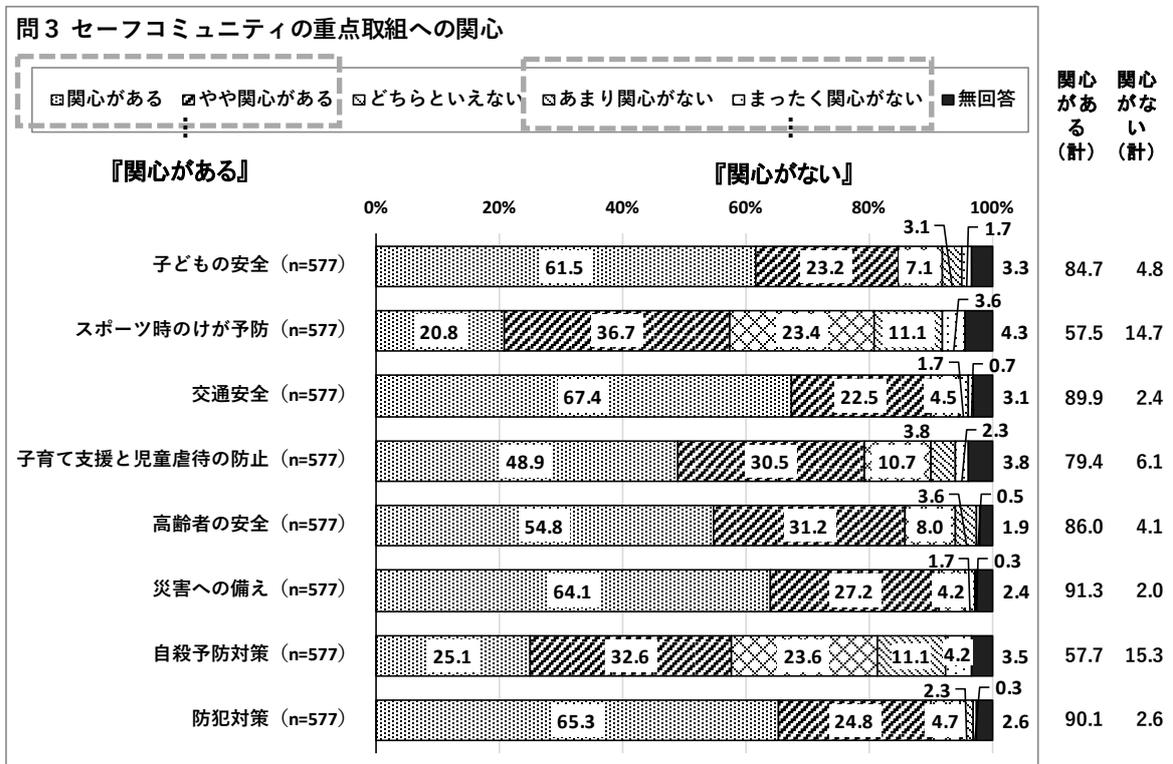


(3) セーフコミュニティの重点項目への関心

【セーフコミュニティの重点項目への関心】

<全体>

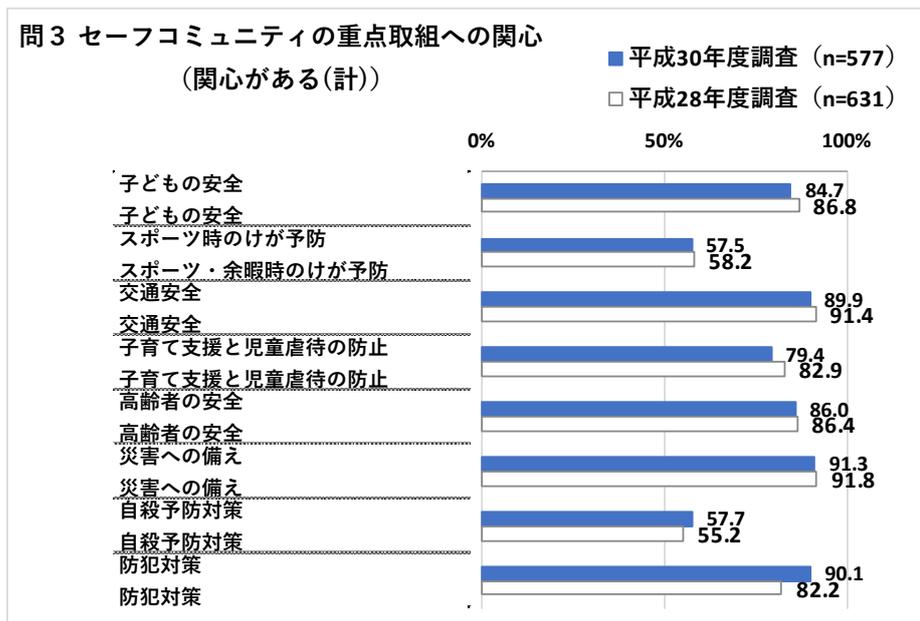
- ・「関心がある」「やや関心がある」を合わせた『関心がある』は、「災害への備え」「防犯対策」で9割以上、「子どもの安全」「交通安全」「高齢者の安全」で8割以上なのに対し、「スポーツ時のけが予防」「自殺予防対策」では6割以下となっている。
- ・全ての項目において男女別では、「男性」より「女性」の方が、「関心がある」割合が高い。中でも「子育て支援と児童虐待」「災害への備え」では、10ポイント以上高くなっている。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：時系列】

<平成28年度調査と比較>

- ・平成28年度と比較すると、『関心がある』割合は、「自殺予防対策」「防犯対策」の2項目で増加がみられる。



## 1 子どもの安全

【セーフコミュニティの重点項目への関心： 属性別】

<性別>

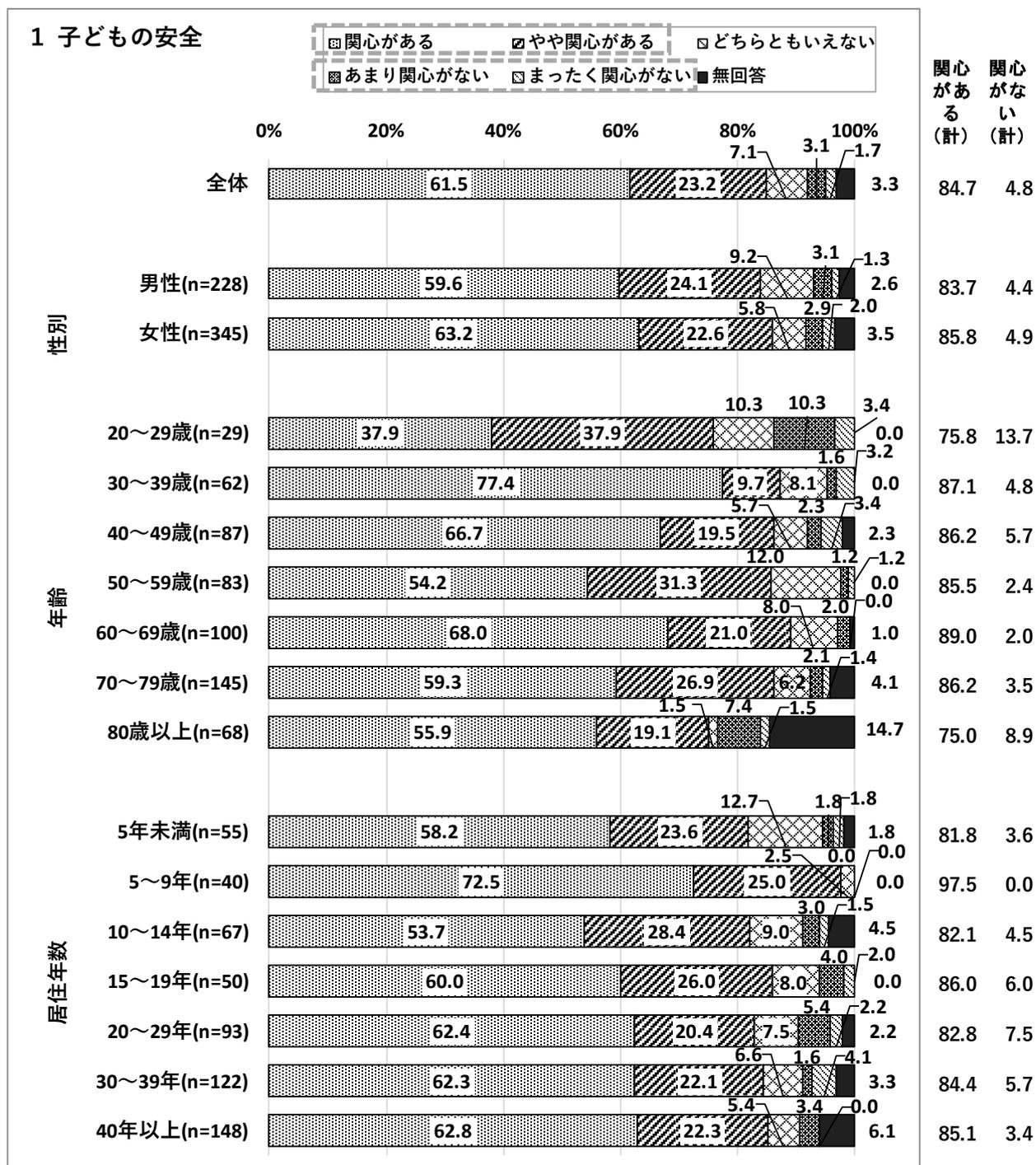
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、3.6ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

<居住年数別>

・「5～9年」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

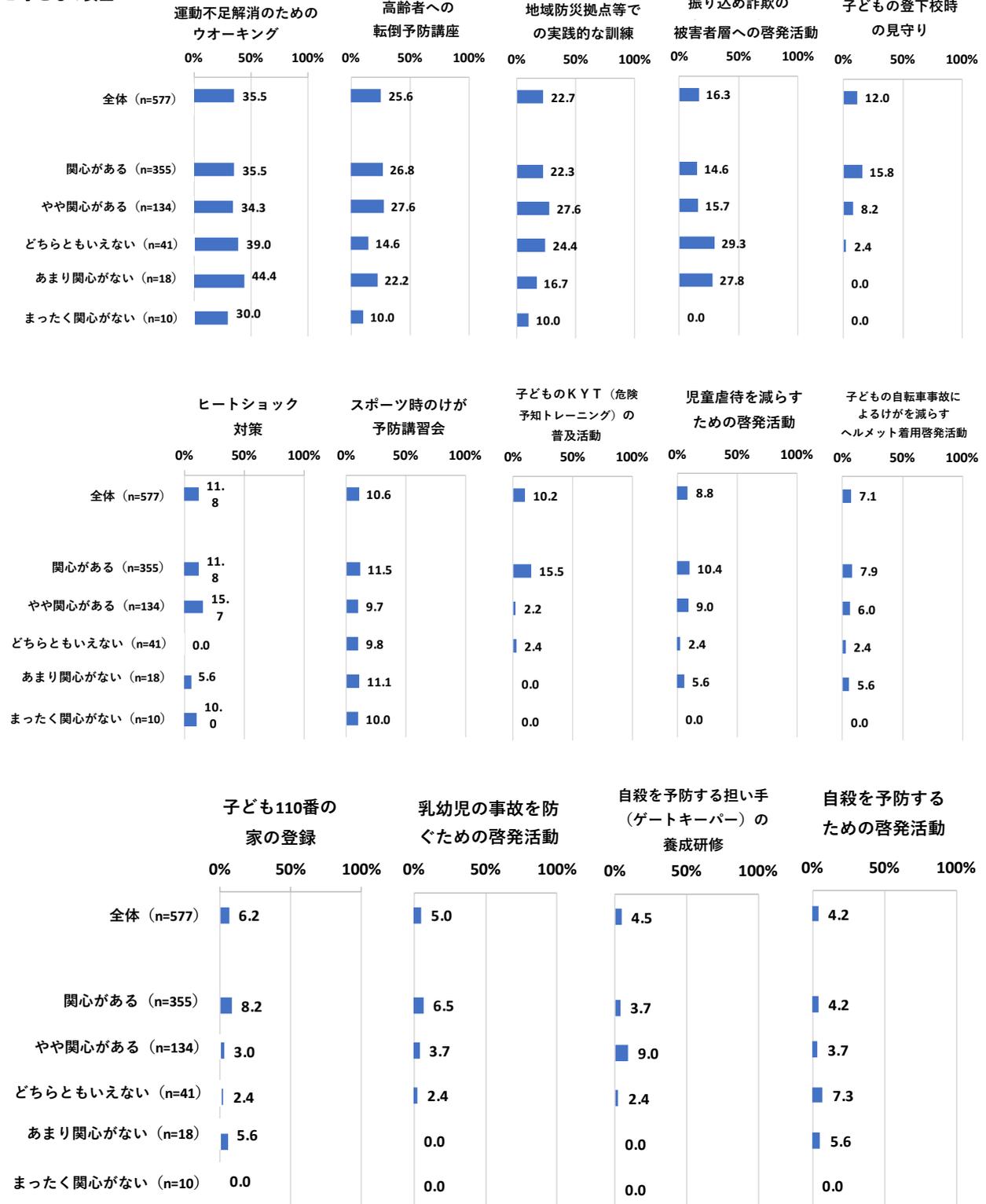


### III 集計分析結果

#### 【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『子どもの安全』について「関心がある」方は「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

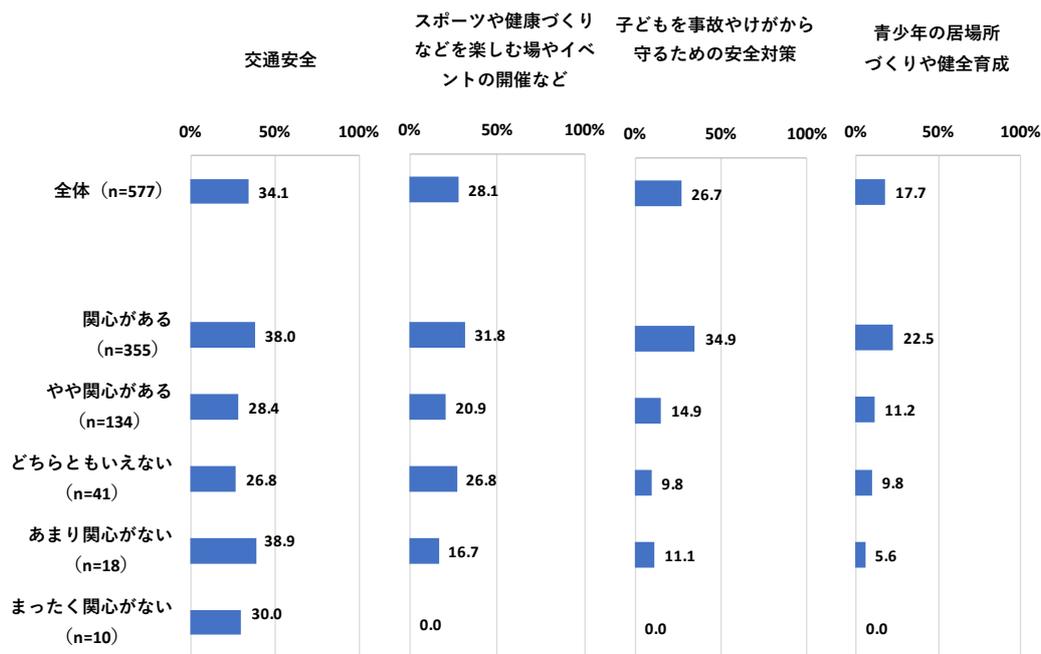
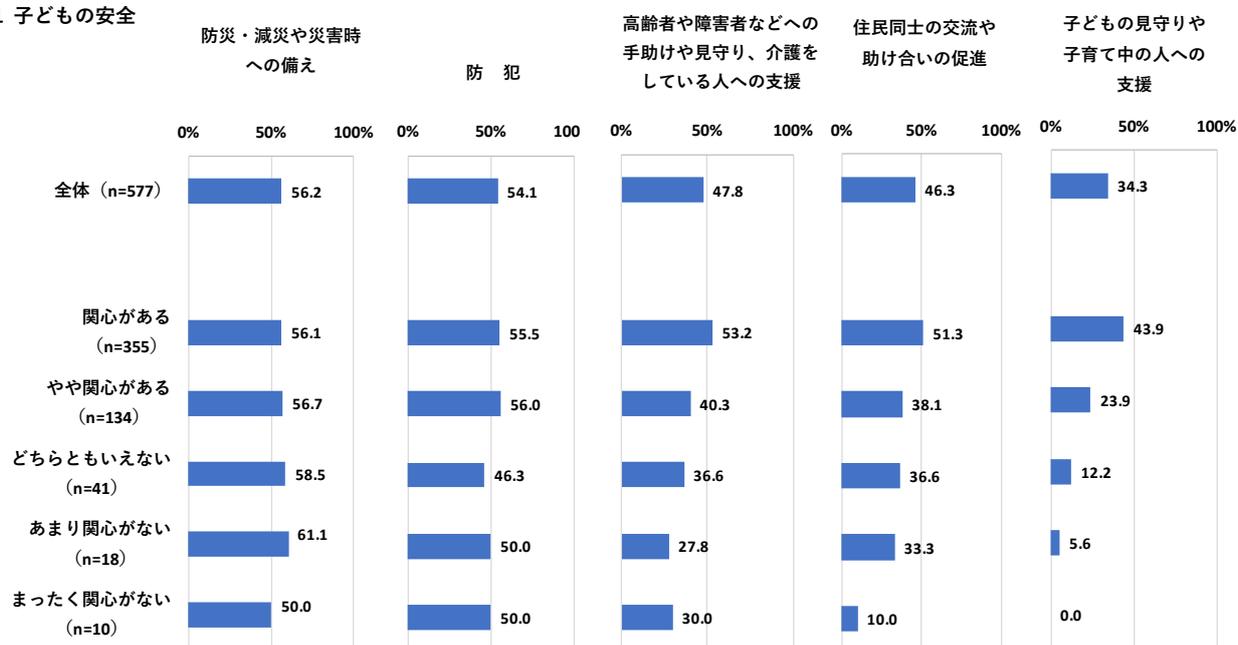
#### 1 子どもの安全



【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

・『子どもの安全』について「関心がある」方は「子どもの見守りや子育て中の人への支援」「子どもを事故やけがから守るための安全対策」「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

1 子どもの安全



2 スポーツ時のけがや予防

<性別>

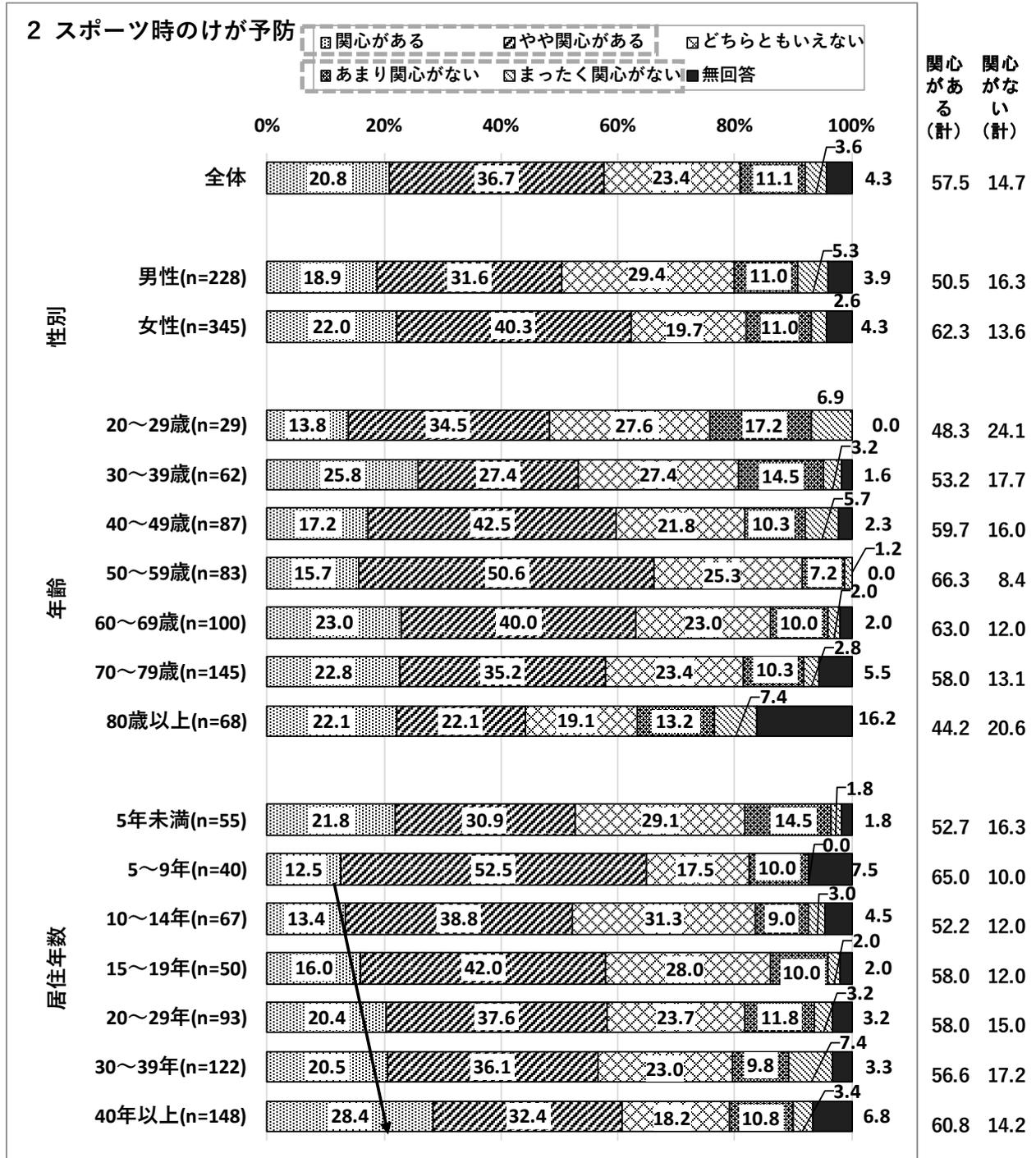
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、3.1ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

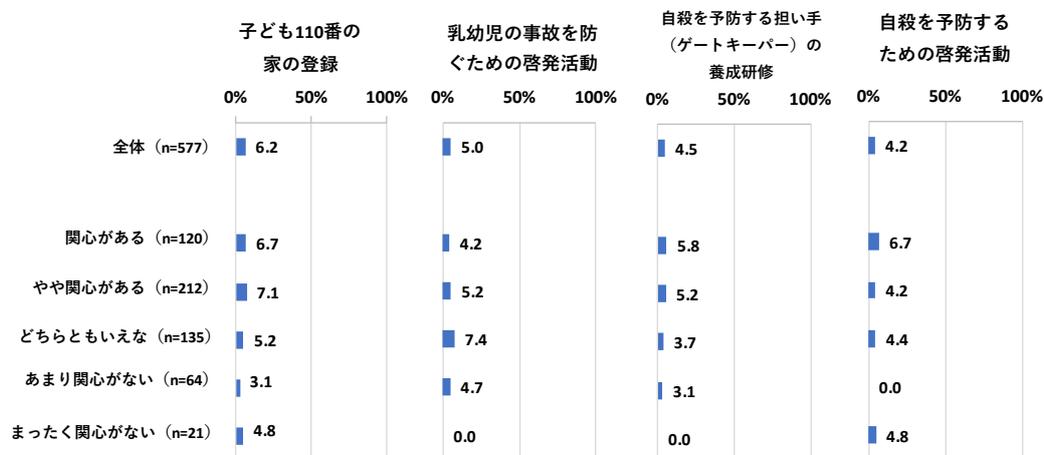
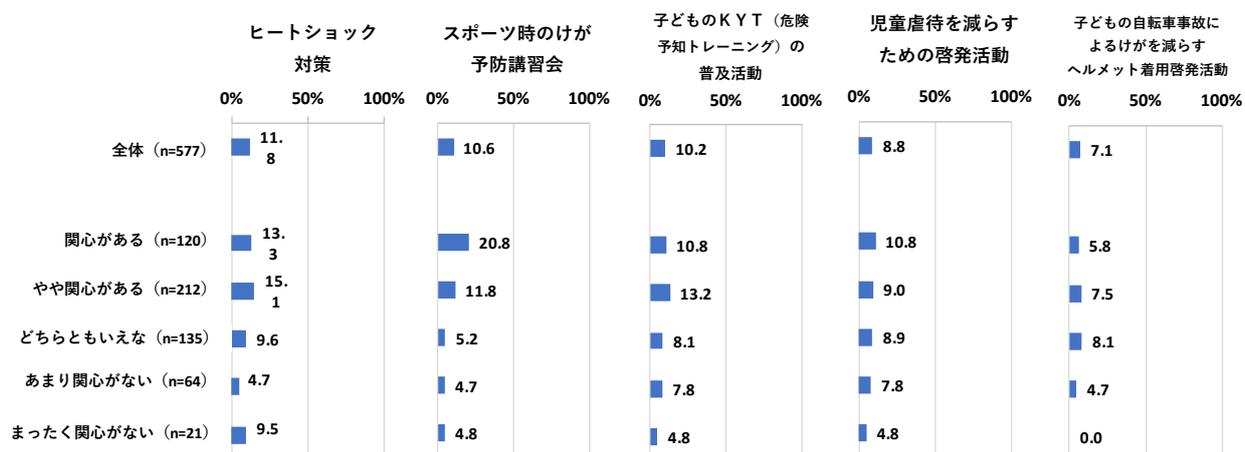
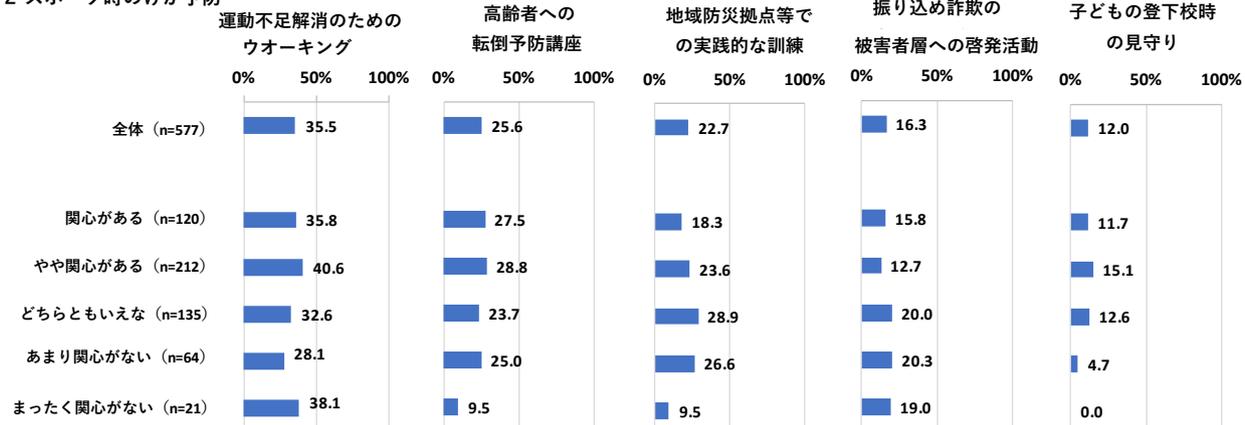
・「5年未満」を除いて「関心がある」の割合は、居住年数が長いほど高くなっている。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『スポーツ時のけがや予防』について「関心がある」方は「スポーツ時のけが予防講習会」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より10ポイント以上高い。

2 スポーツ時のけが予防

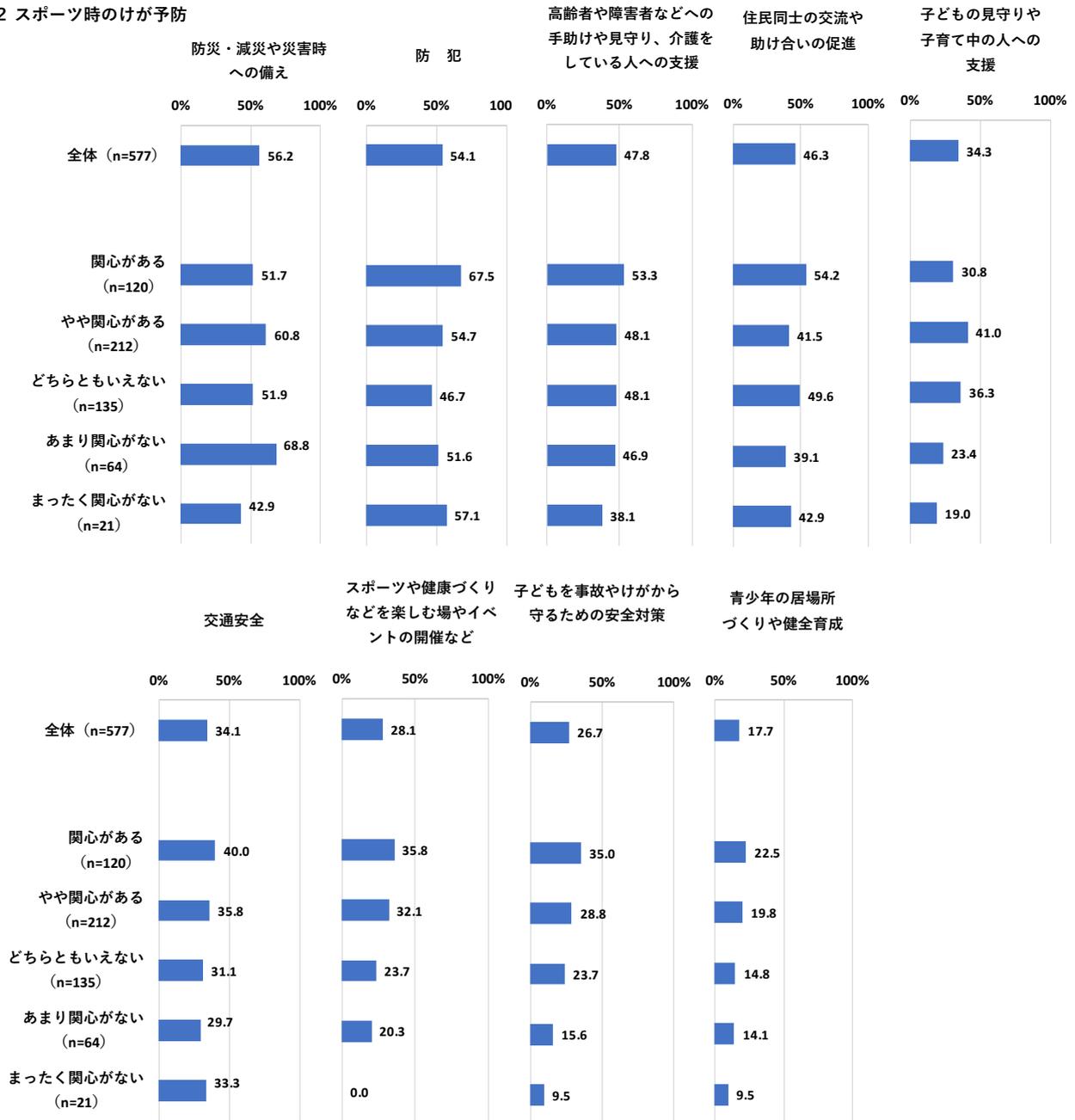


### III 集計分析結果

#### 【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

- ・『スポーツ時のけがや予防』について「関心がある」方は「防犯」「子どもを事故やけがから守るための安全対策」「住民同士の交流や助け合いの促進」「スポーツや健康づくりなどを楽しむ場やイベントの開催など」「交通安全」「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

#### 2 スポーツ時のけが予防



### 3 交通安全

#### <性別>

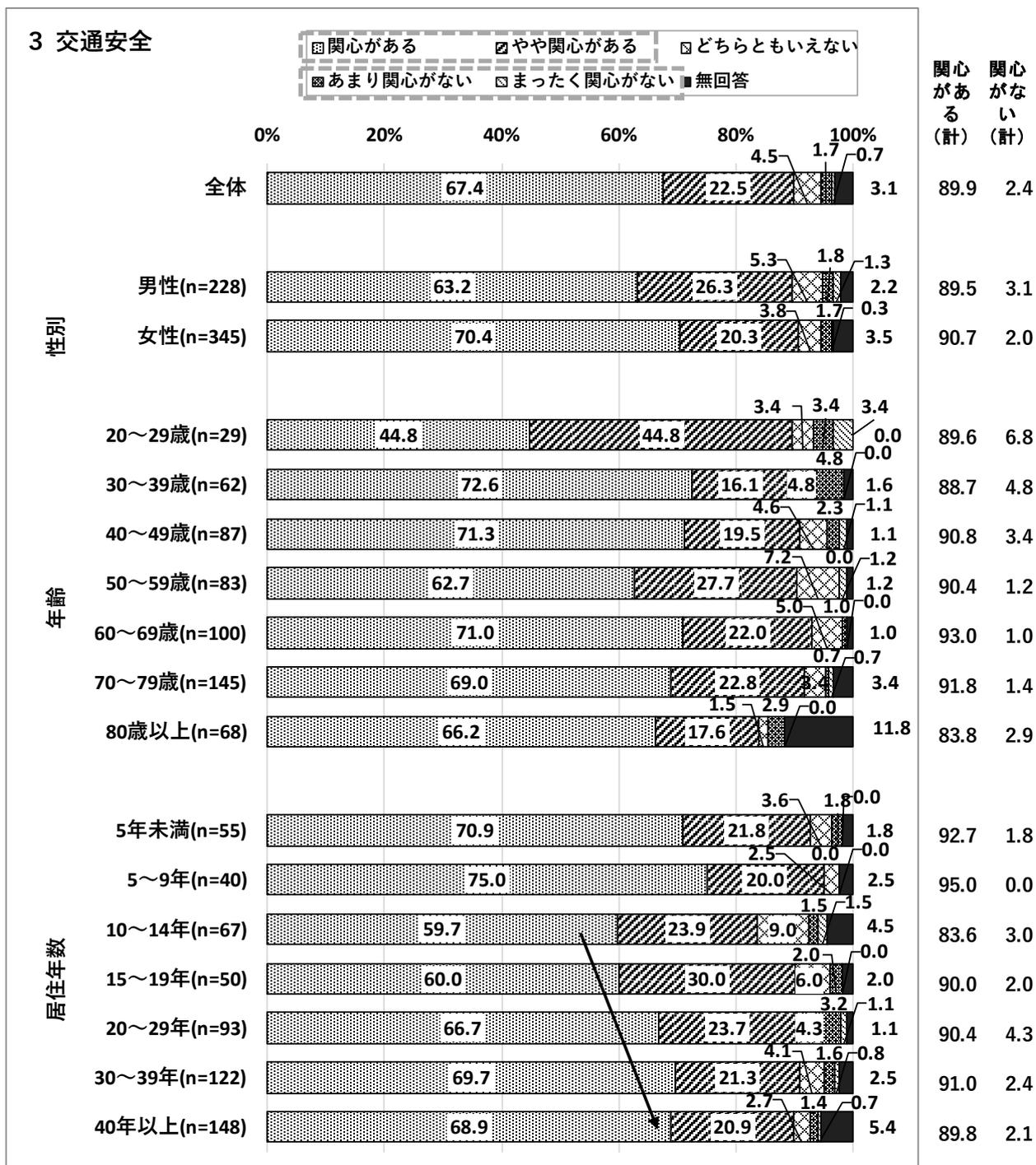
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、7.2ポイント高い。

#### <年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

#### <居住年数別>

・「5～9年」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

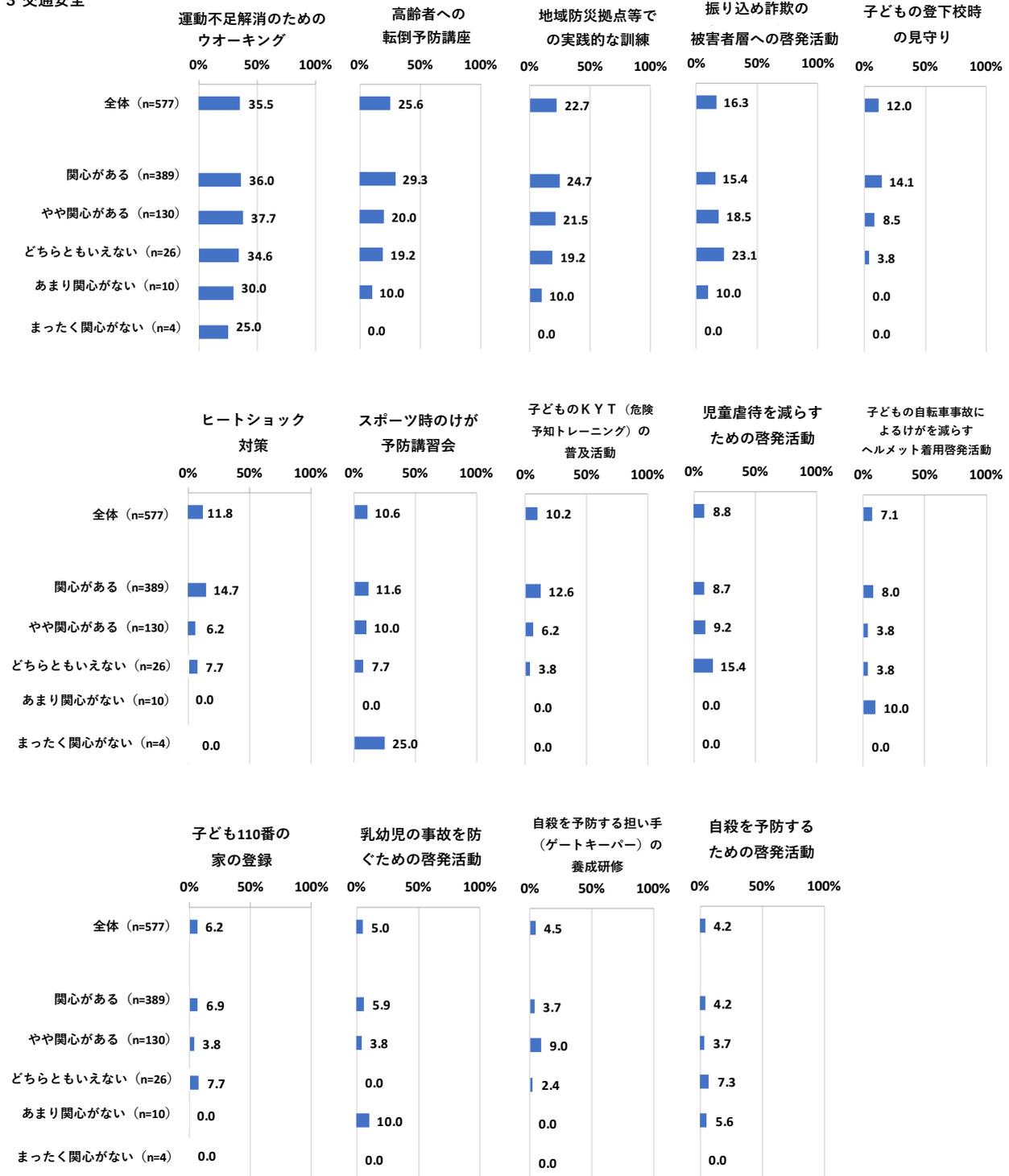


III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

- ・『交通安全』について関心がある方ほど「高齢者への転倒予防講座」「地域防災拠点等での実践的な訓練」「子どもの登下校時の見守り」「ヒートショック対策」「スポーツ時のけが予防講習会」「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が高い傾向が見られる。

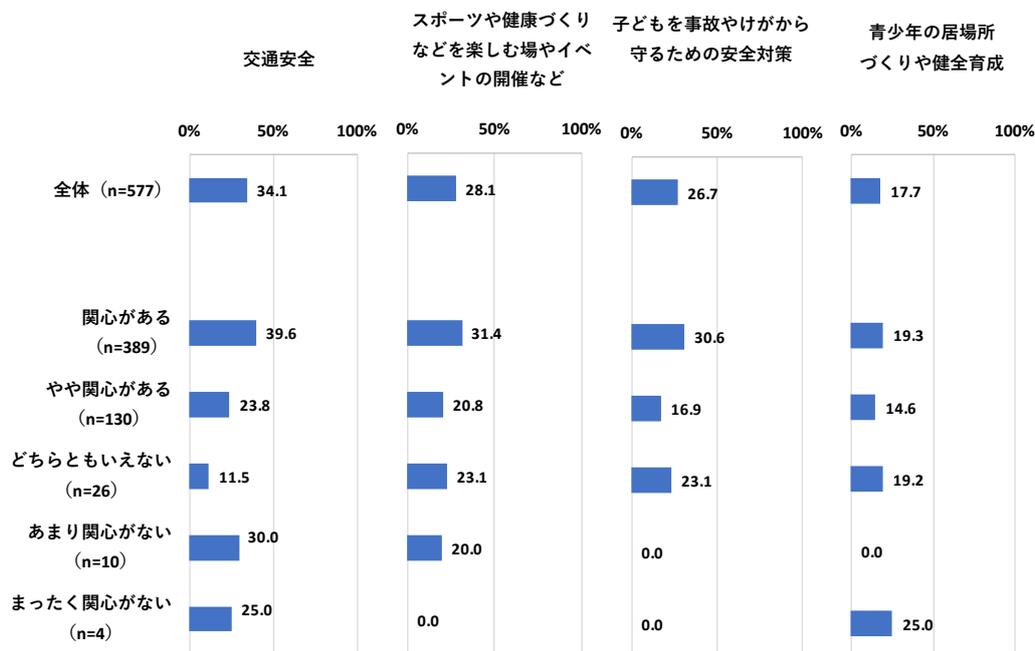
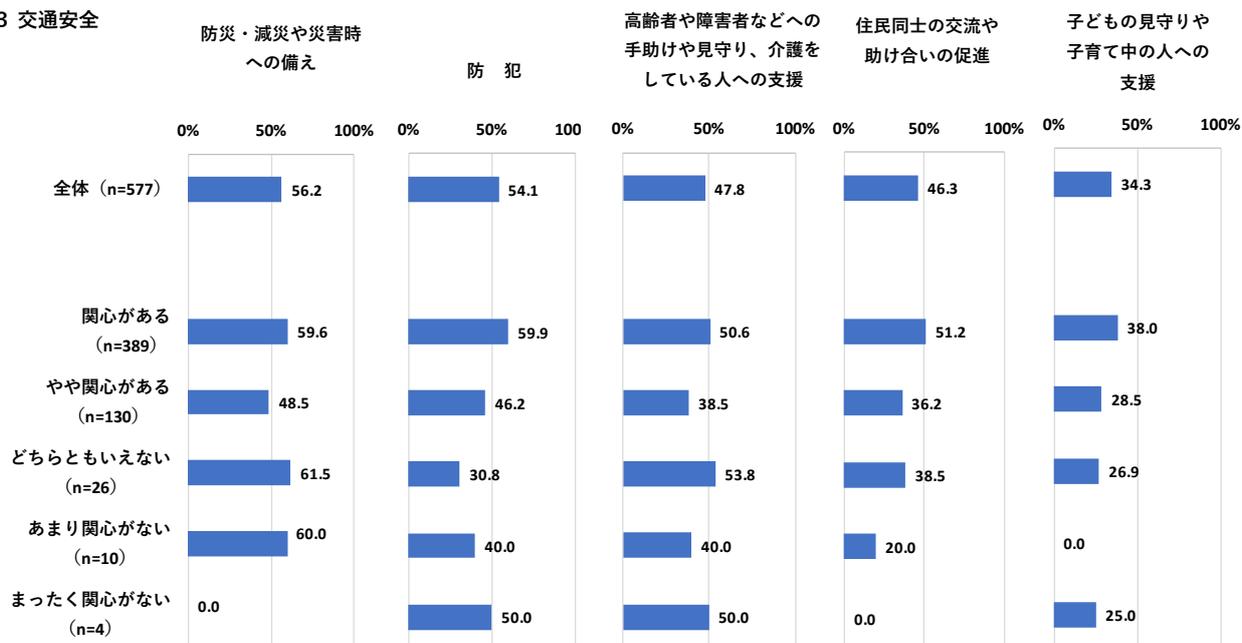
3 交通安全



【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

・『交通安全』について「関心がある」方は「防犯」「交通安全」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

3 交通安全



4 子育て支援と児童虐待

<性別>

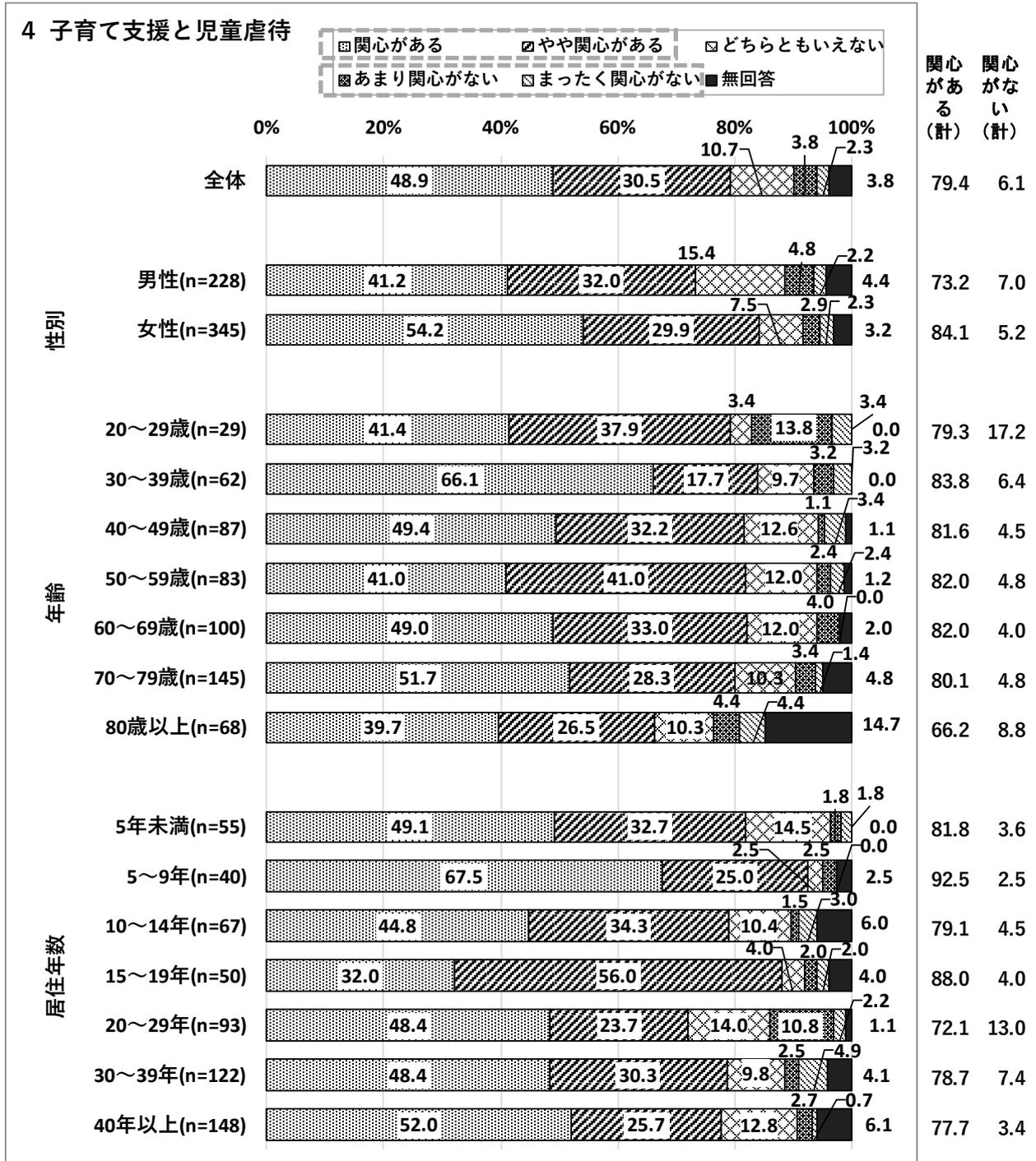
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、13.0ポイント高い。

<年齢別>

・「30～39歳」では、「関心がある」の割合が全体より15ポイント以上高い。

<居住年数別>

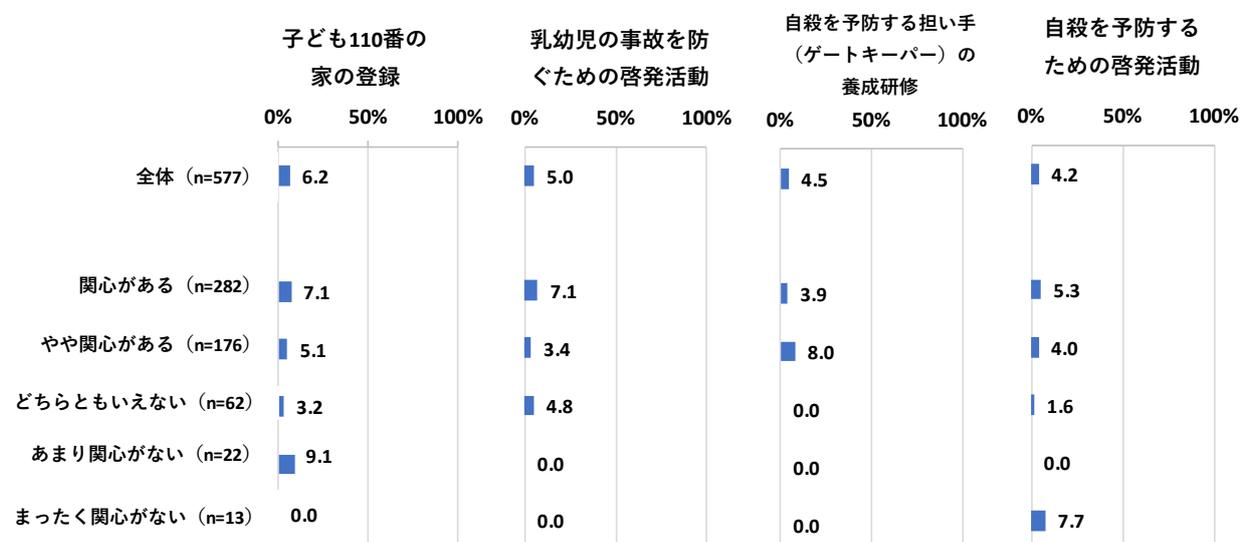
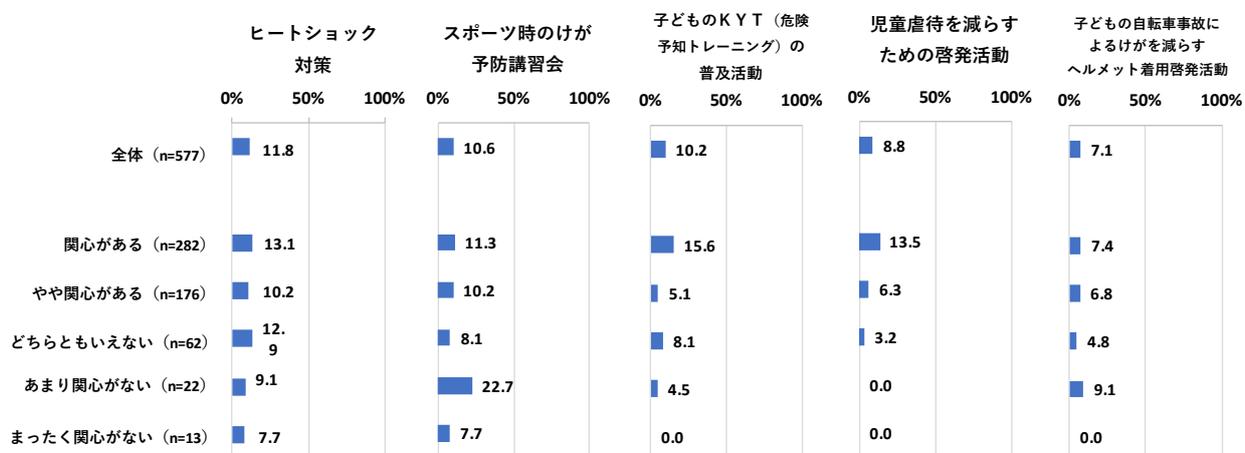
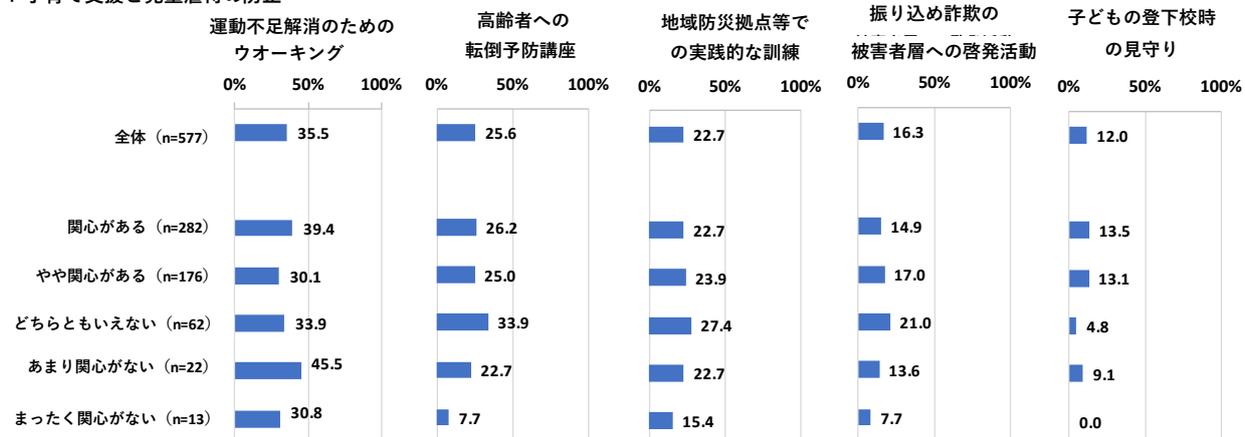
・「5～9年」では、「関心がある」の割合が全体より15ポイント以上高い。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『子育て支援と児童虐待』について「関心がある」方は「子どものKYT（危険予知トレーニング）の普及活動」「児童虐待を減らすための啓発活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より5ポイント程度高い。

4 子育て支援と児童虐待の防止

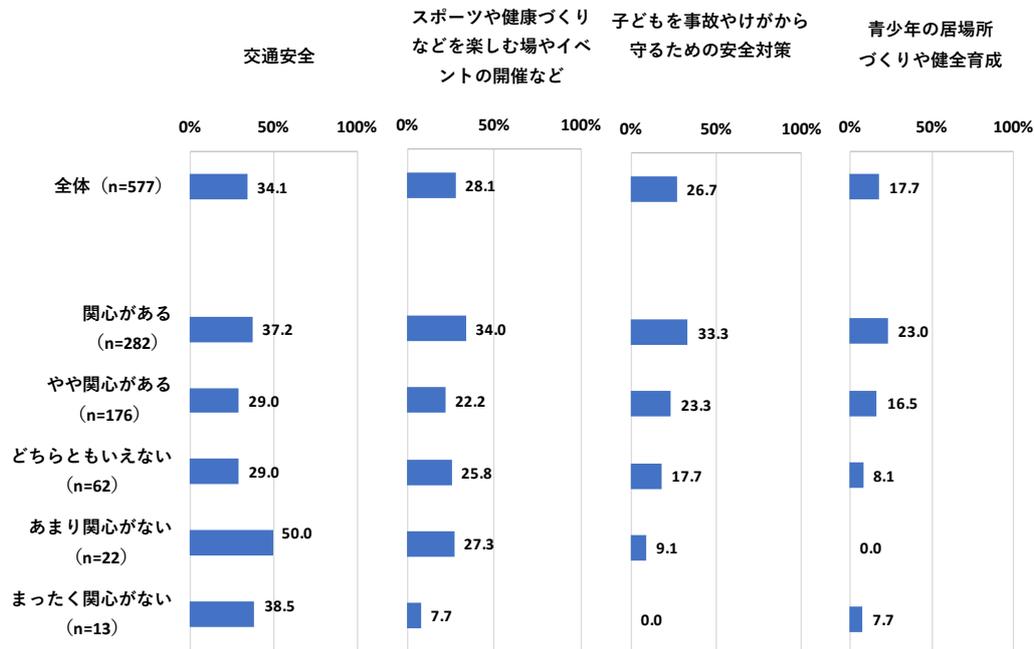
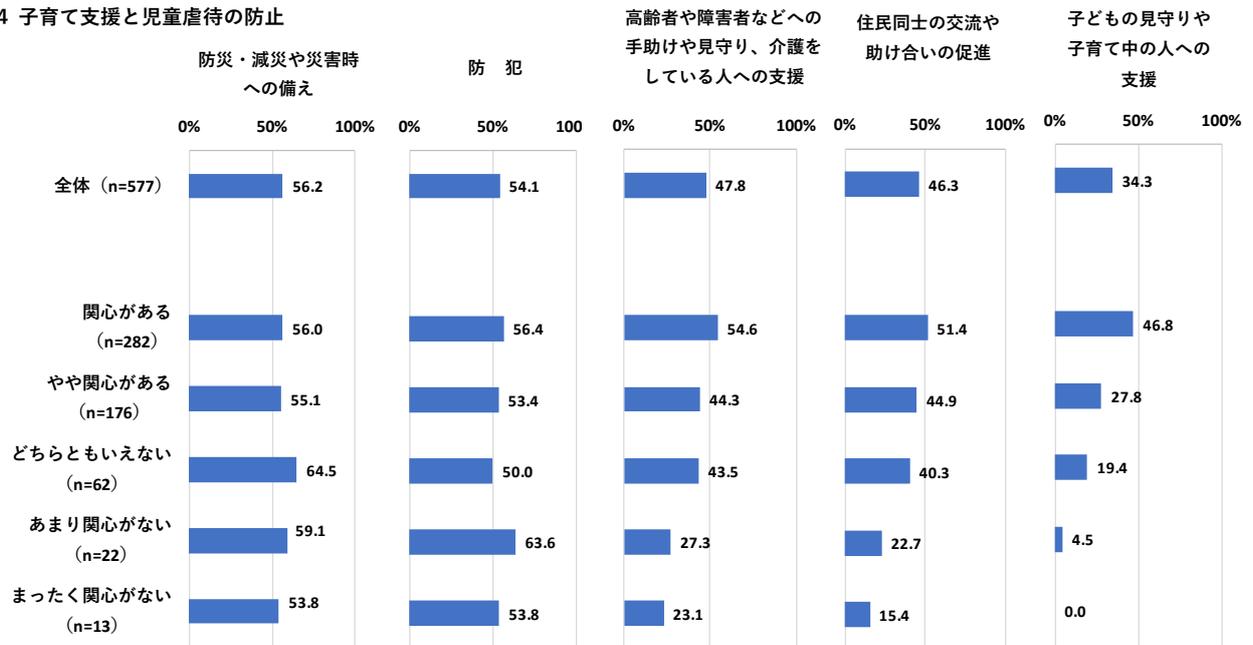


### III 集計分析結果

#### 【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

・『子育て支援と児童虐待』について「関心がある」方は「子どもの見守りや子育て中の人への支援」を地域での課題に挙げる割合が全体より10ポイント以上高い。

#### 4 子育て支援と児童虐待の防止



### 5 高齢者の安全

#### <性別>

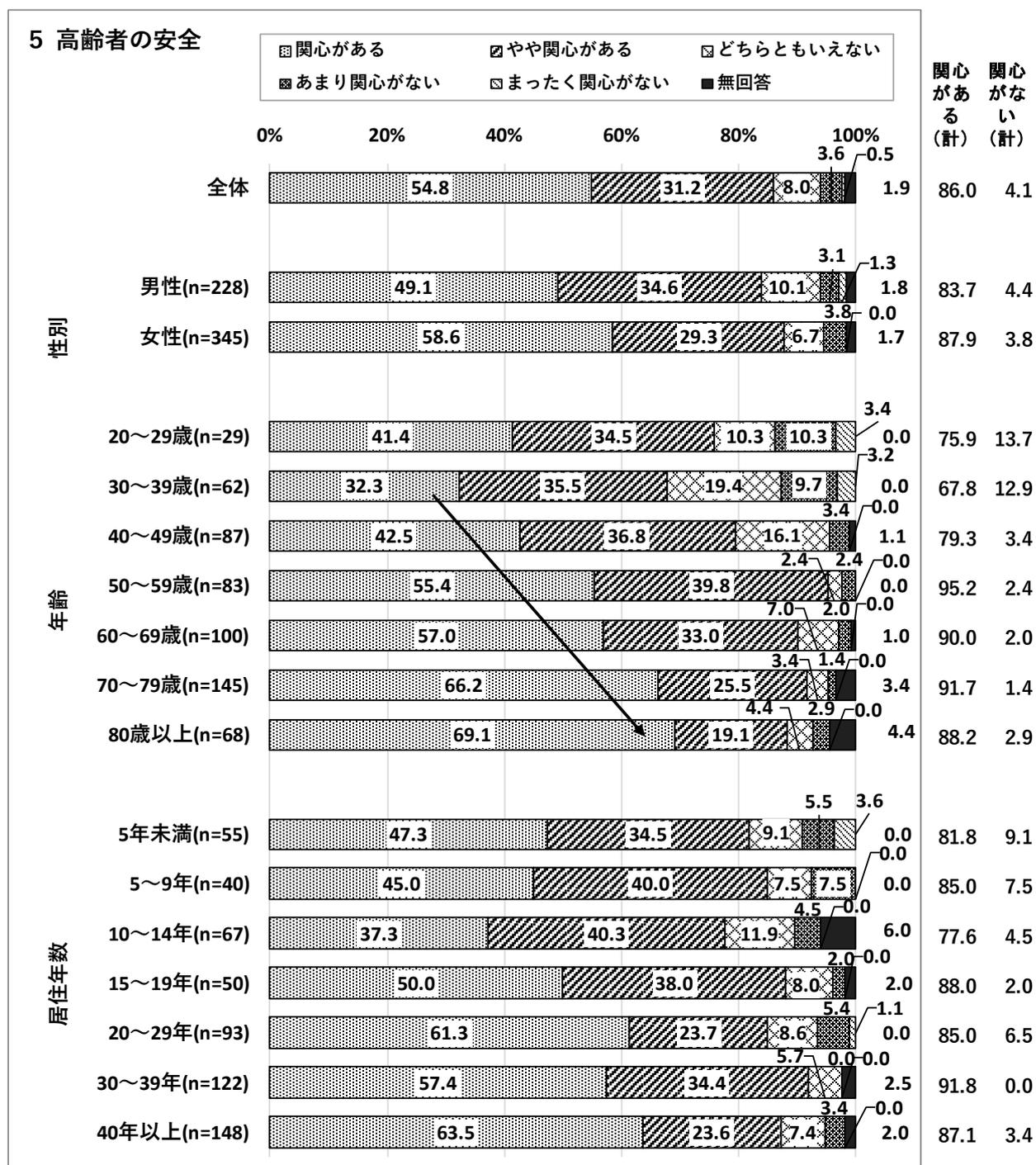
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、9.5ポイント高い。

#### <年齢別>

・「20～29歳」を除いて「関心がある」の割合は、年齢が上がるほど高くなっている。  
 ・「70～79歳」「80歳以上」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上高い。

#### <居住年数別>

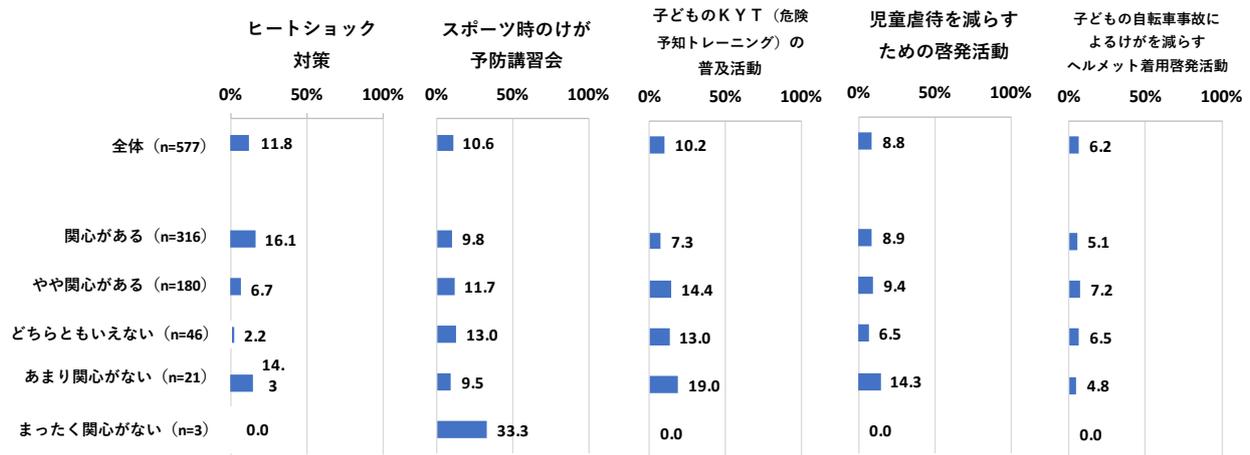
・居住年数別には大きな差は見られない。



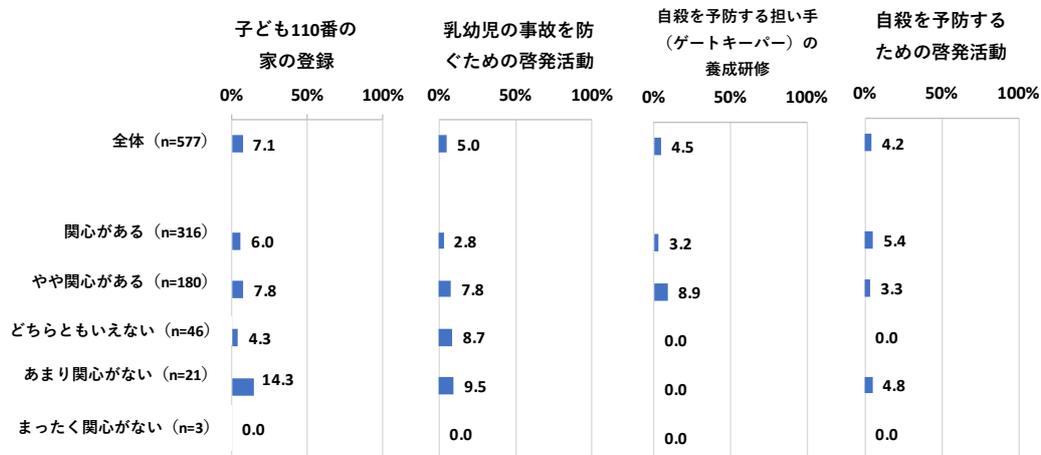
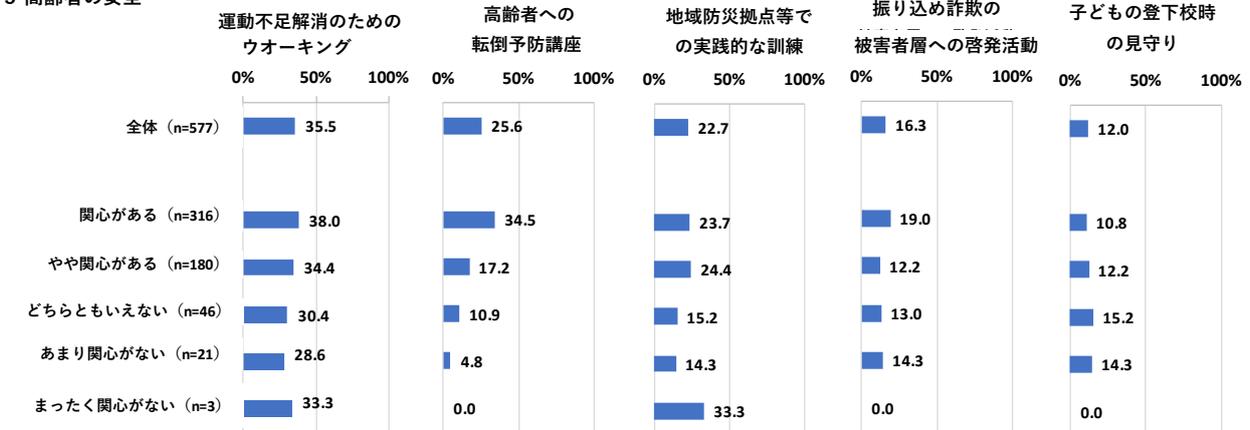
### III 集計分析結果

#### 【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

- ・『高齢者の安全』について「関心がある」方は「高齢者への転倒予防講座」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より10ポイント程度、「ヒートショック対策」では5ポイント程度高くなっている。



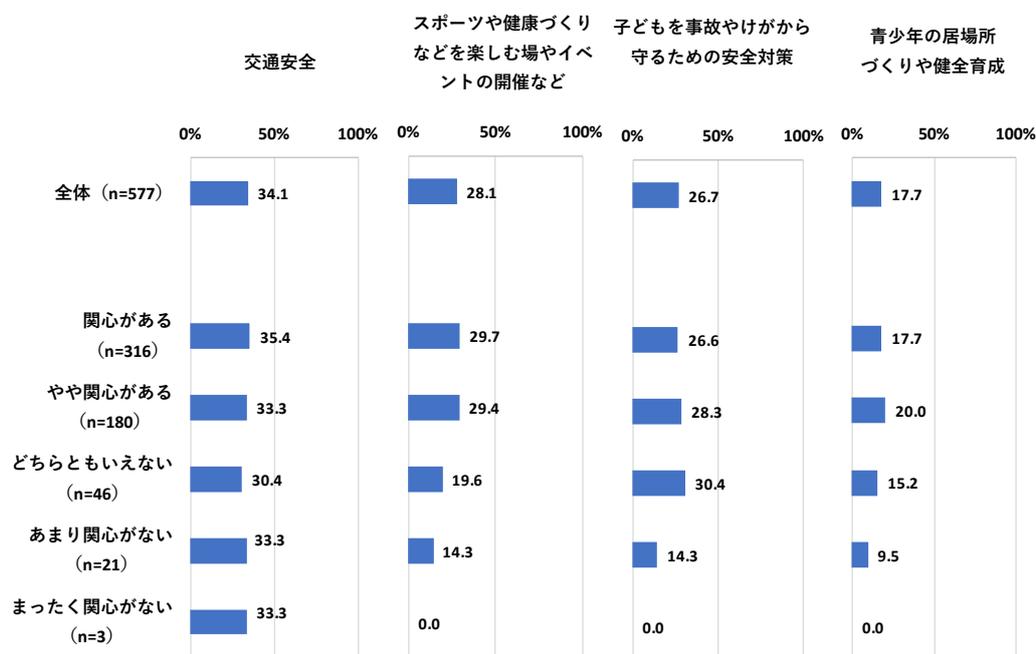
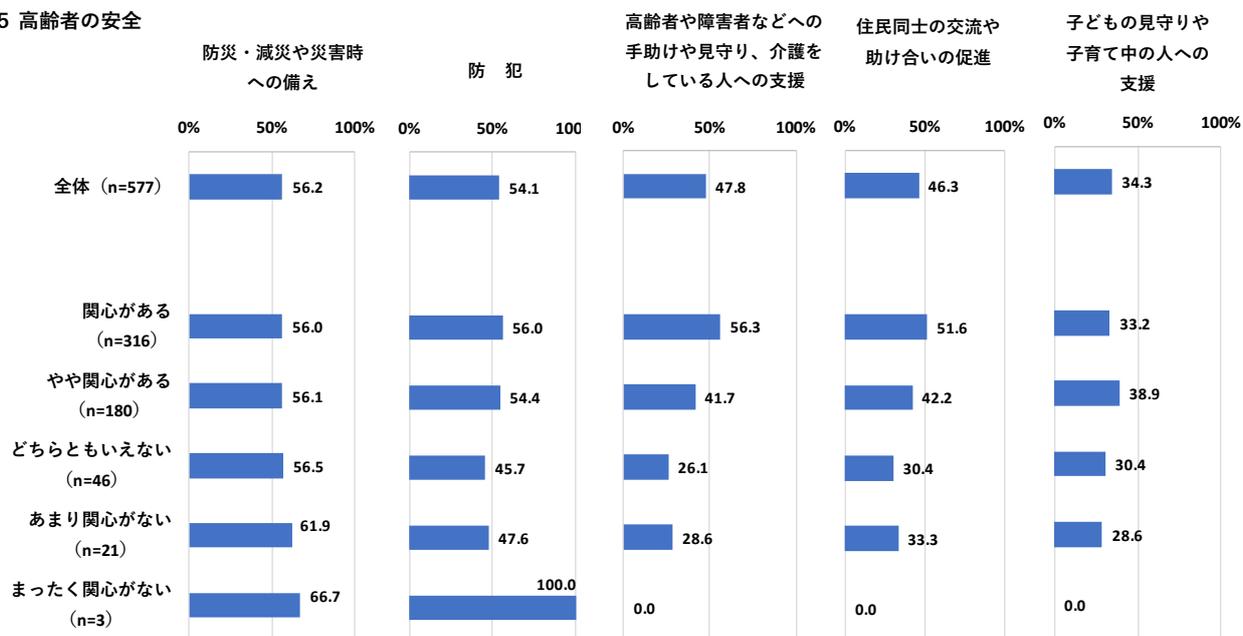
#### 5 高齢者の安全



【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

・『高齢者の安全』について「関心がある」方は「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

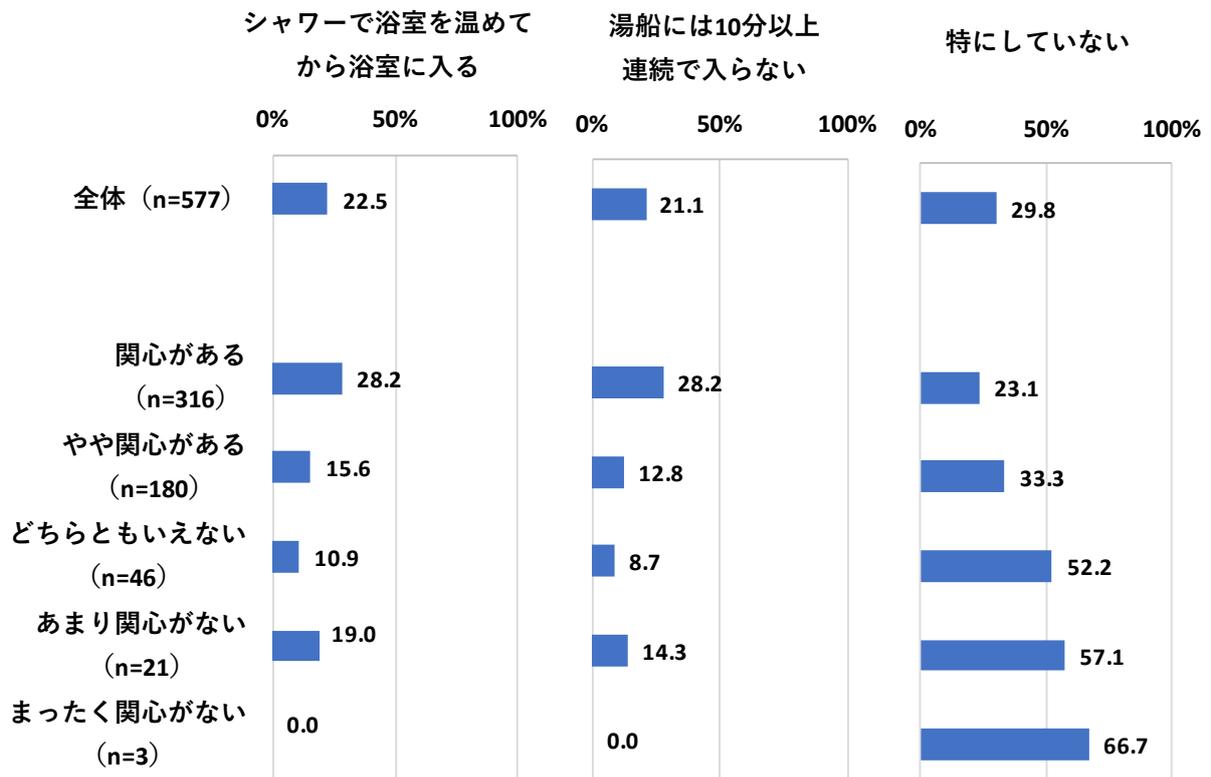
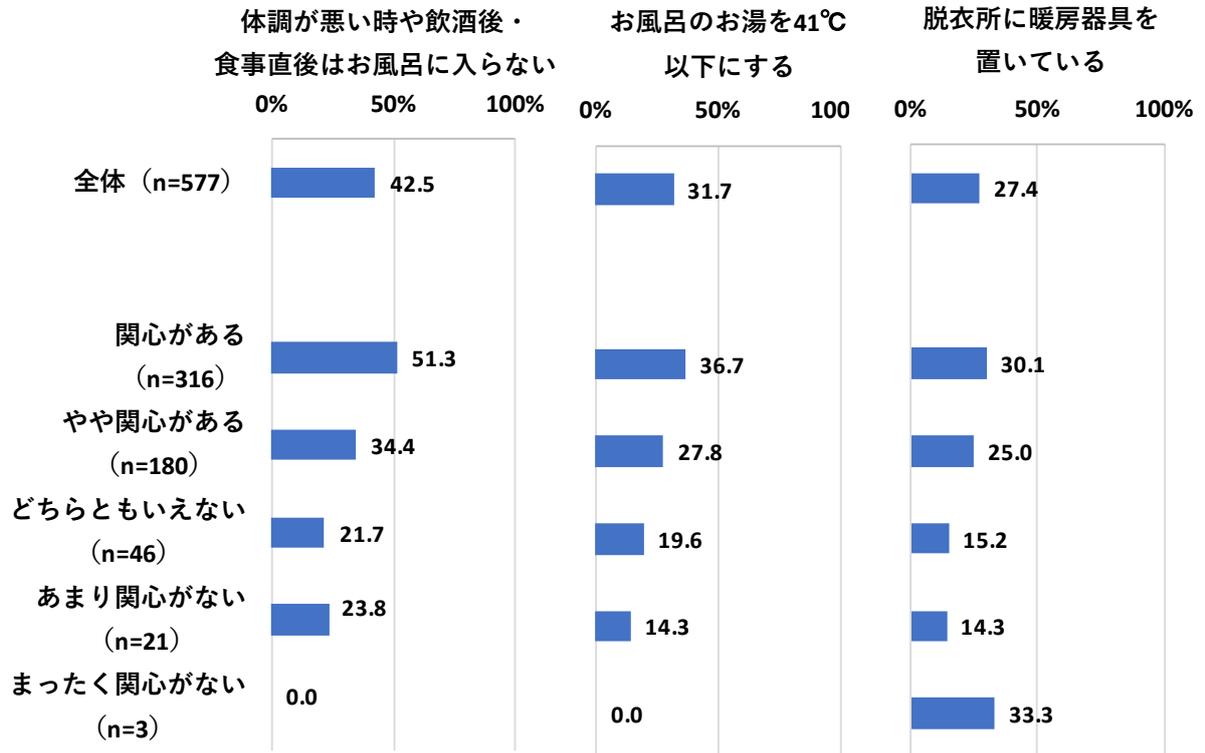
5 高齢者の安全



【セーフコミュニティの重点項目への関心：ヒートショック対策別】

・『高齢者の安全』について関心がある方ほどヒートショック対策を行っており、関心がない方ほど「特にしていない」割合が高い。

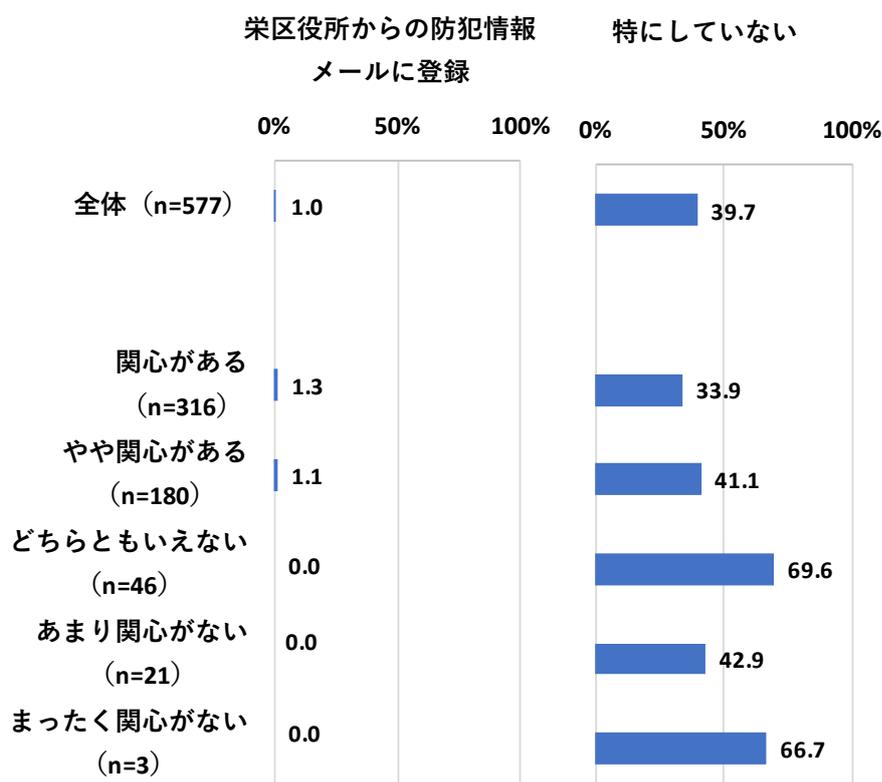
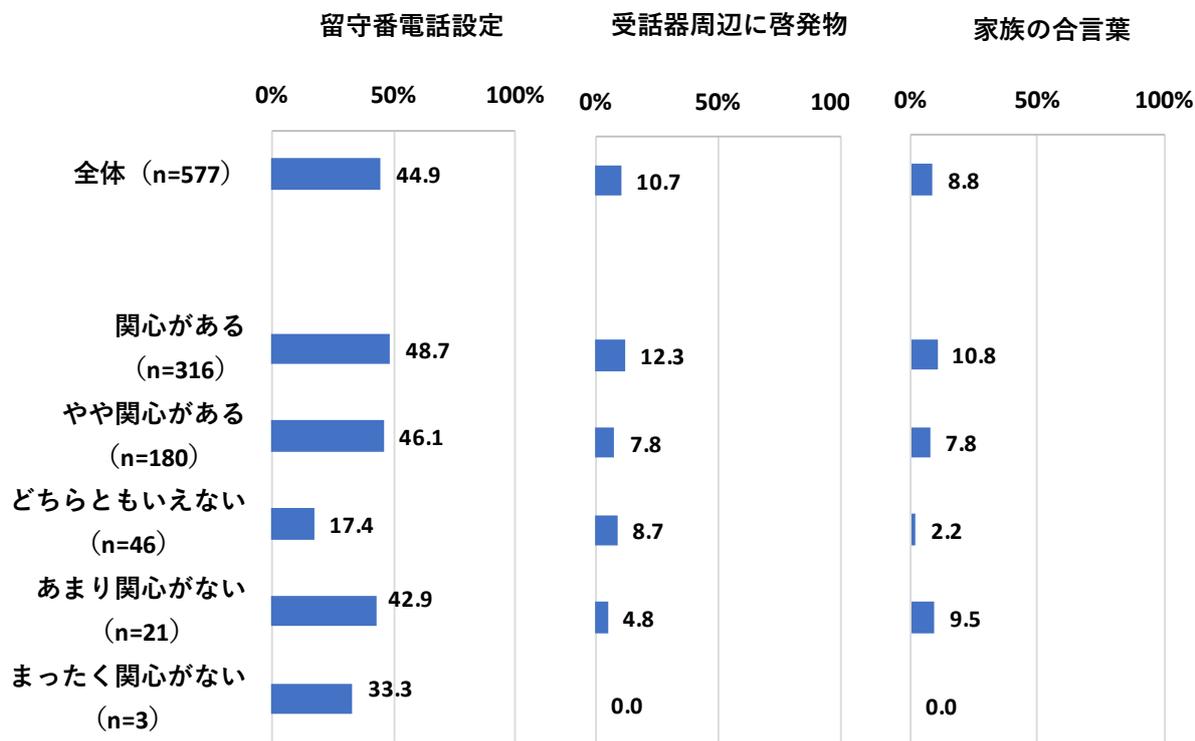
5 高齢者の安全



【セーフコミュニティの重点項目への関心：振り込め詐欺対策別】

・『高齢者の安全』に「関心がある」方は、振り込め詐欺対策を「特にしていない」割合が全体より5ポイント以上低い。

5 高齢者の安全



6 災害への備え

<性別>

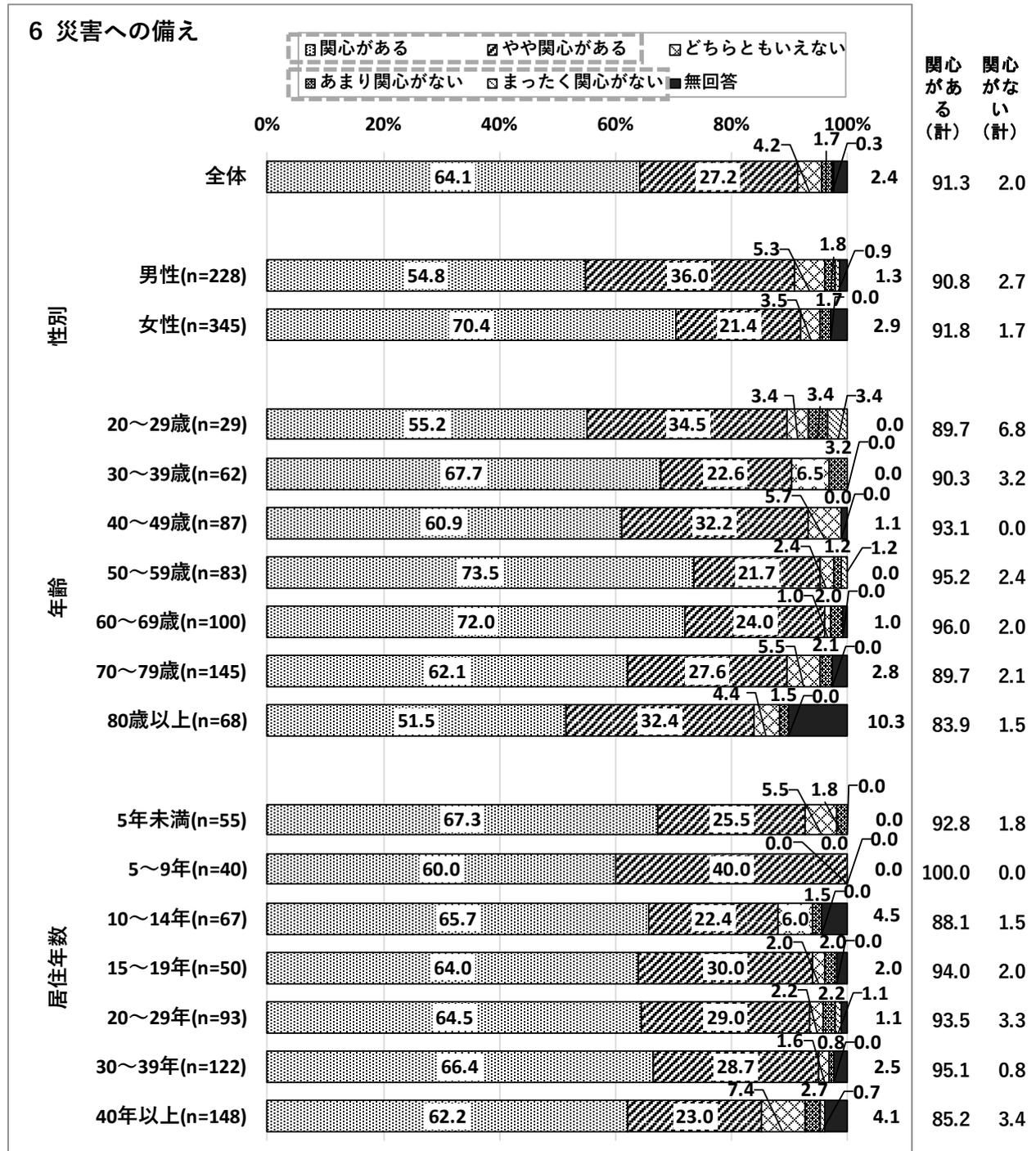
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、15.6ポイント高い。

<年齢別>

・「50～59歳」「60～69歳」では、「関心がある」の割合が全体より5ポイント以上高い。

<居住年数別>

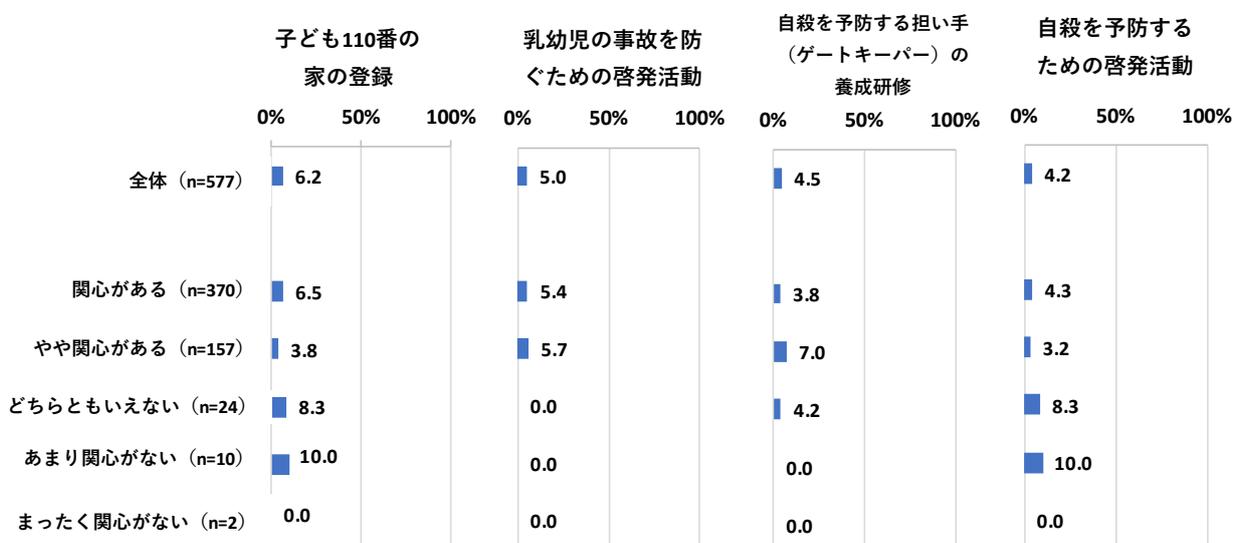
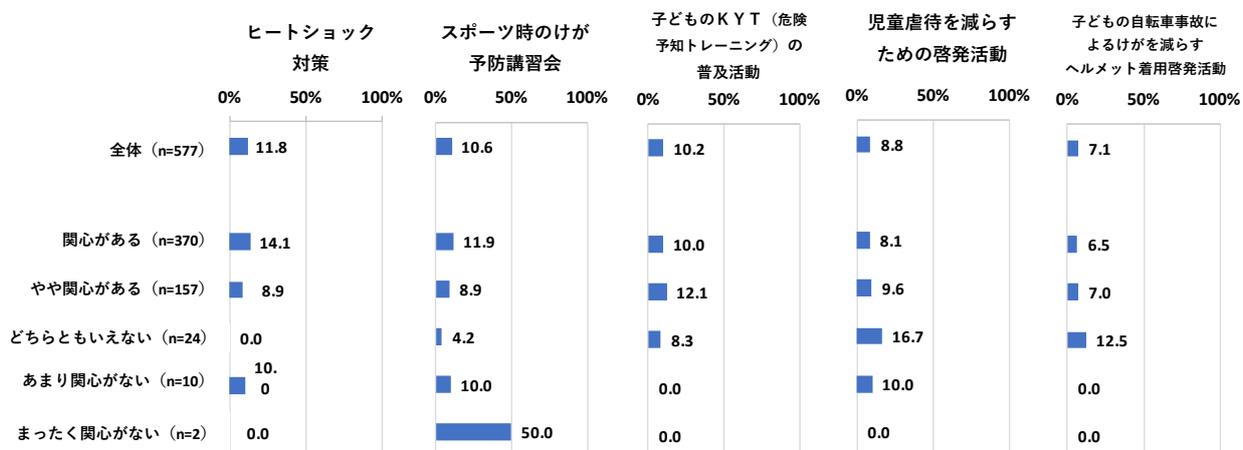
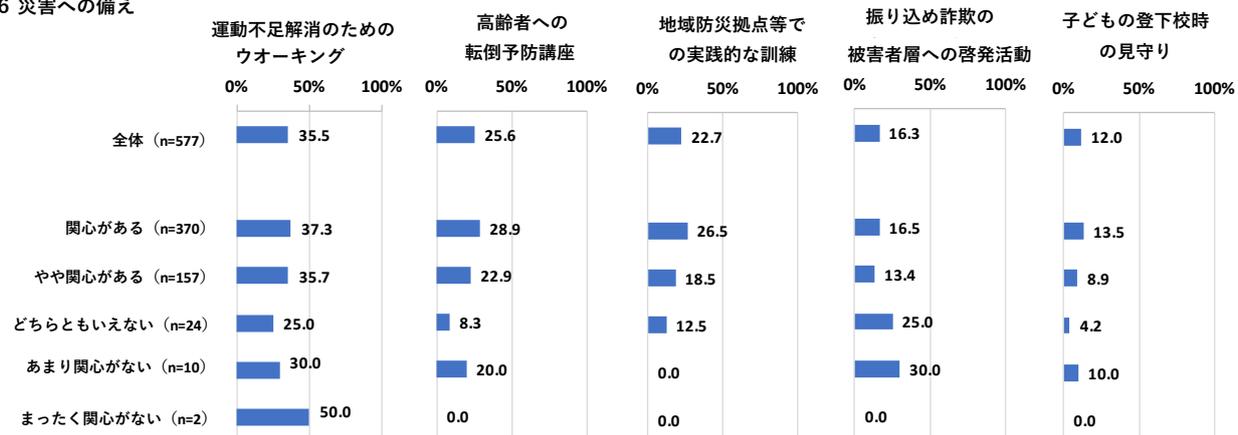
・「40年以上」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より5ポイント以上低い。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『災害への備え』について関心が高いほど「地域防災拠点等での実践的な訓練」を今後参加したい取組に挙げる割合が高い。

6 災害への備え

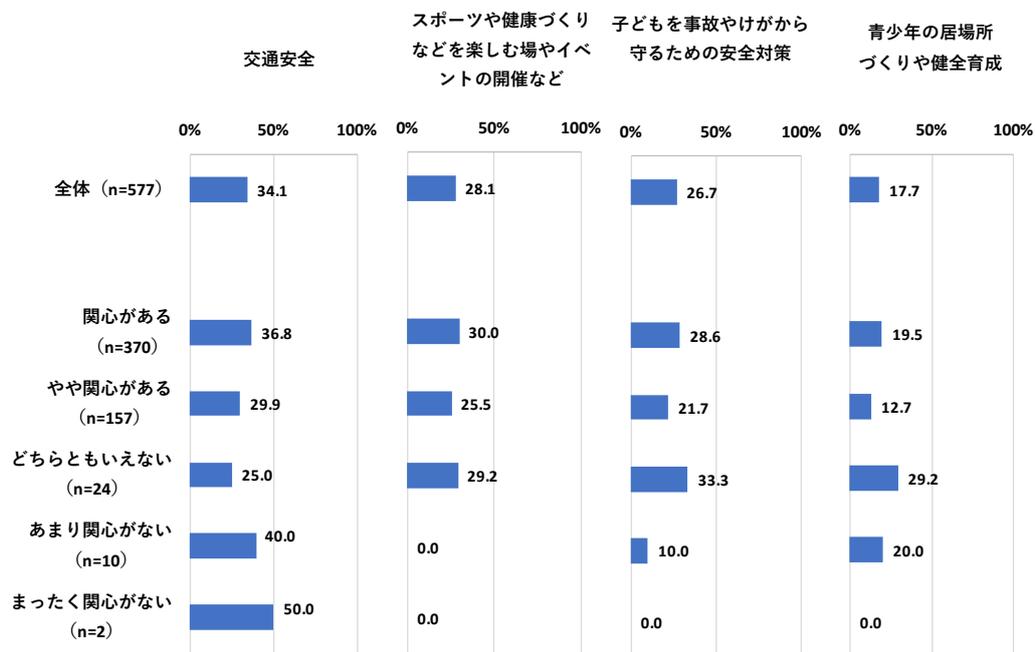
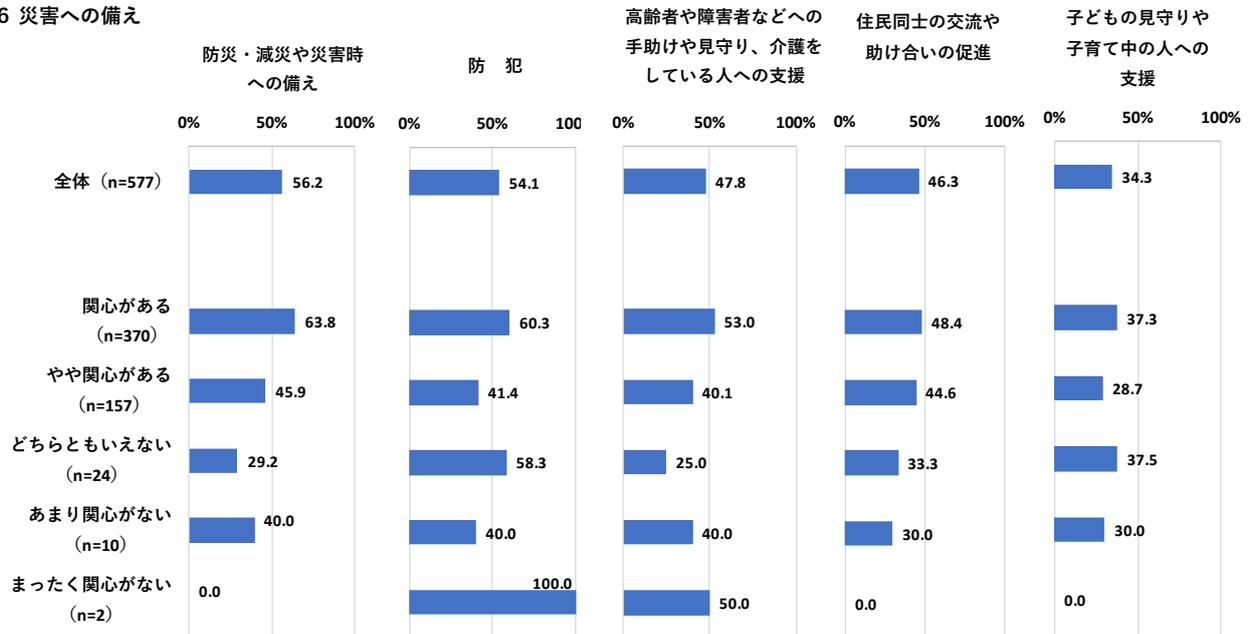


III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

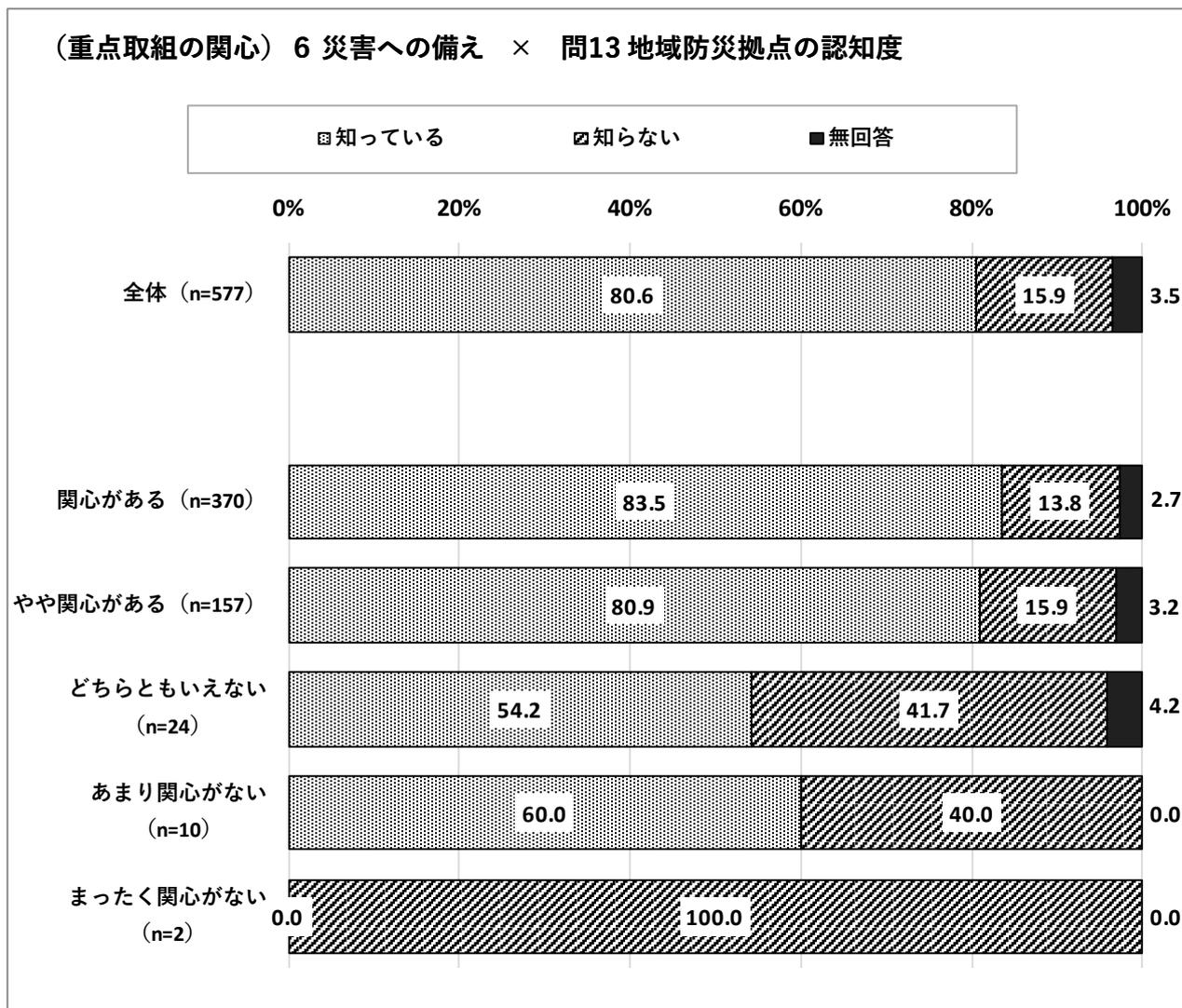
・『災害への備え』について「関心がある」方は「防災・減災や災害時への備え」「防犯」「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

6 災害への備え



【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域防災拠点の認知度別】

・『災害への備え』について「関心がある」方ほど地域防災拠点がどこか知っている割合が高い。一方、「全く関心がない」方を除いて、「どちらともいえない」「あまり関心がない」方でも5割以上の方は認知されている。



### 7 自殺予防対策

#### <性別>

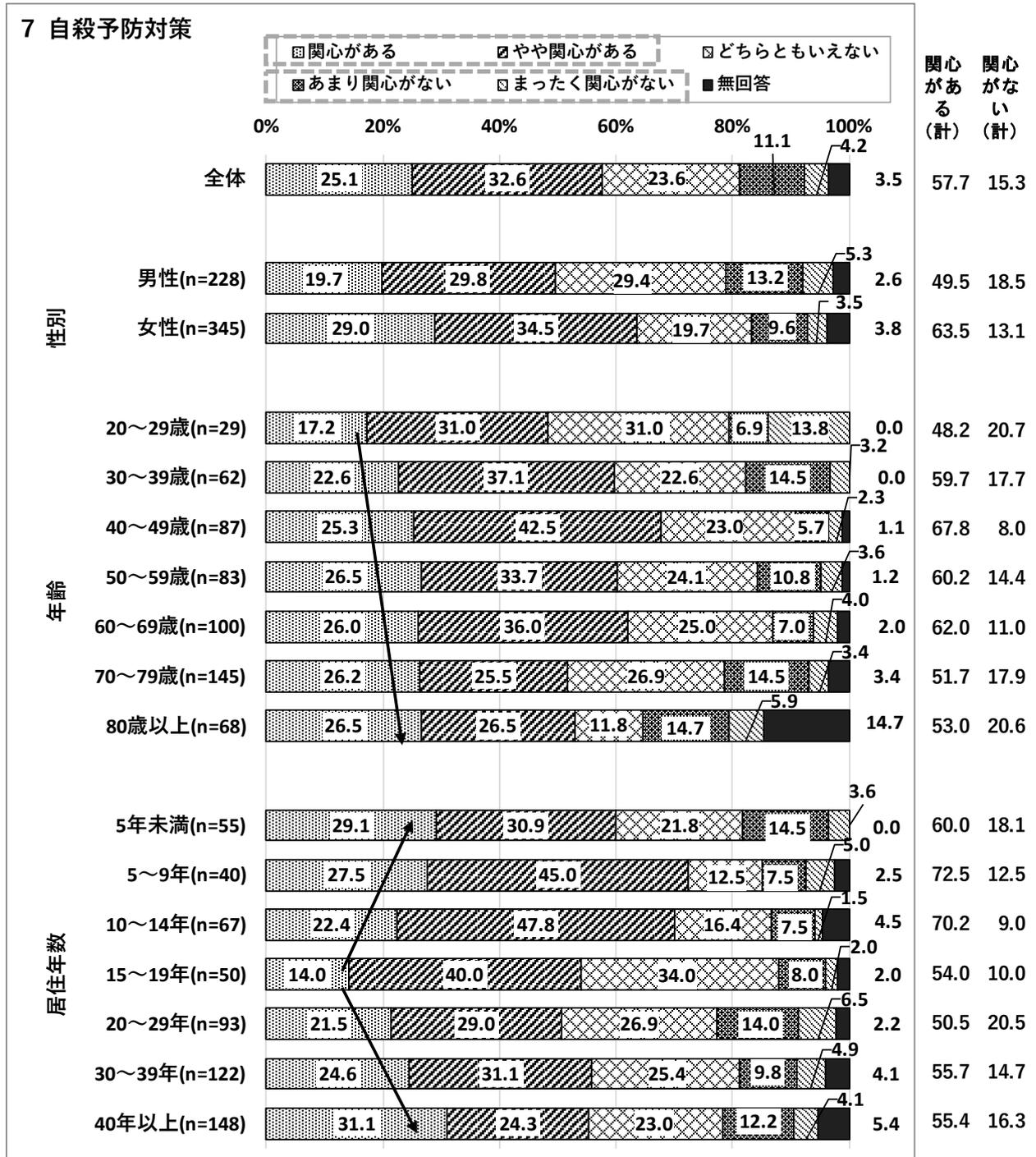
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、9.3ポイント高い。

#### <年齢別>

・年齢が上がるほど「関心がある」の割合は微増する傾向にある。  
 ・「40～49歳」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より10ポイント以上高い。

#### <居住年数別>

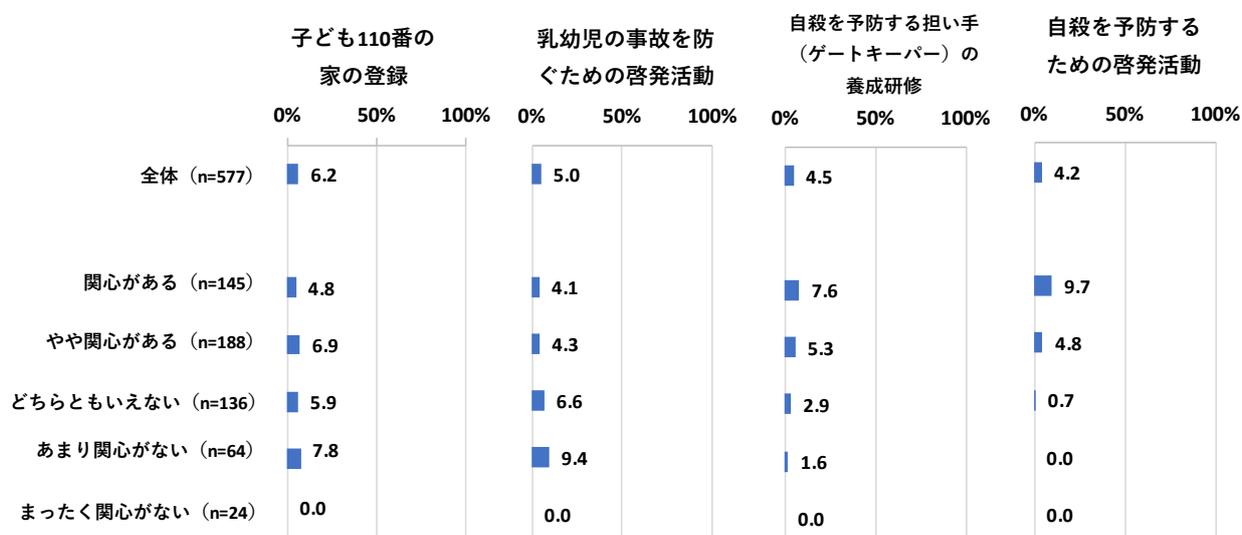
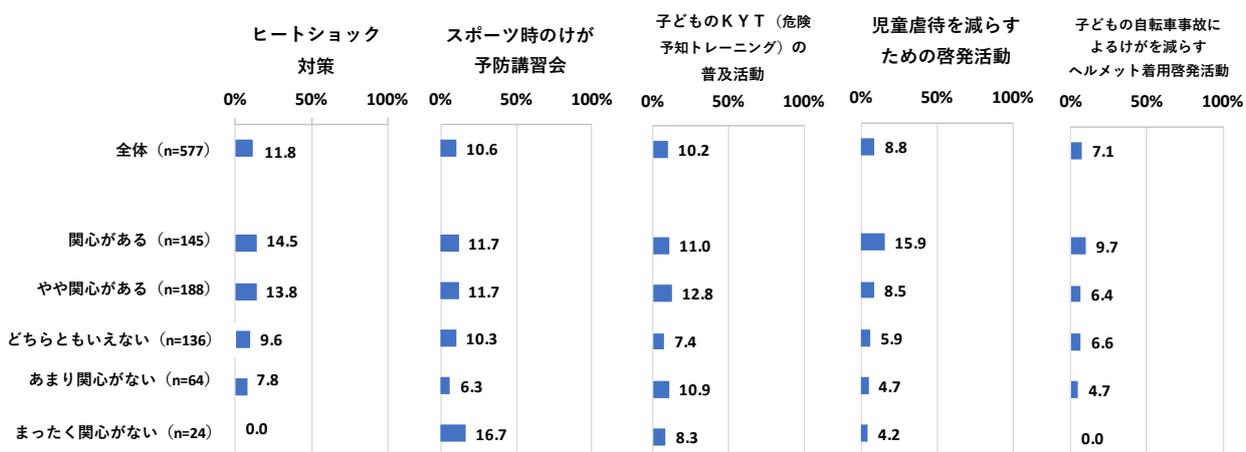
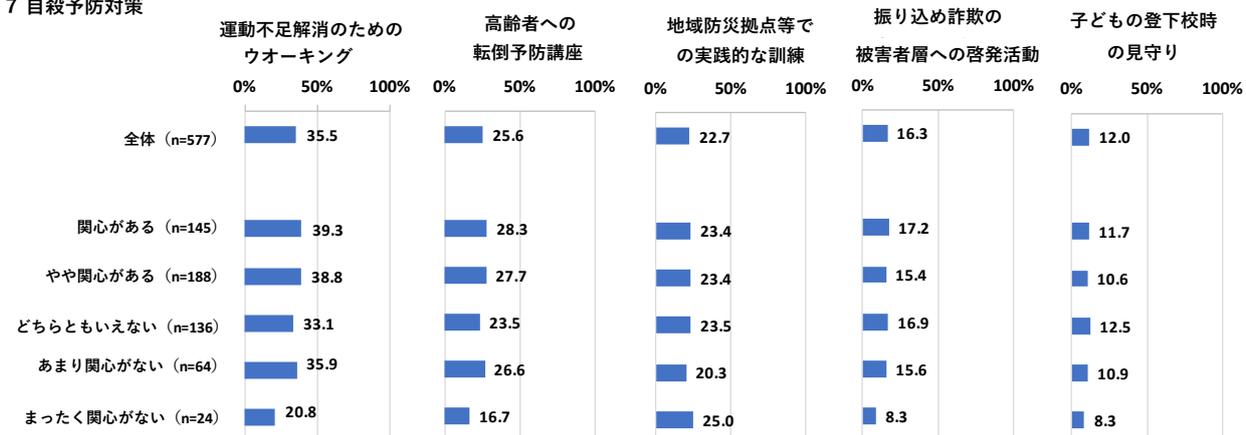
・「15～19年」では、「関心がある」の割合が全体より10ポイント以上低く、「15～19年」より居住年数が短くなるほど、また、長くなるほど「関心がある」の割合は高くなっている。



【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『自殺予防対策』について「関心がある」方は「児童虐待を減らすための啓発活動」「自殺を予防するための啓発活動」を今後参加したい取組に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

7 自殺予防対策

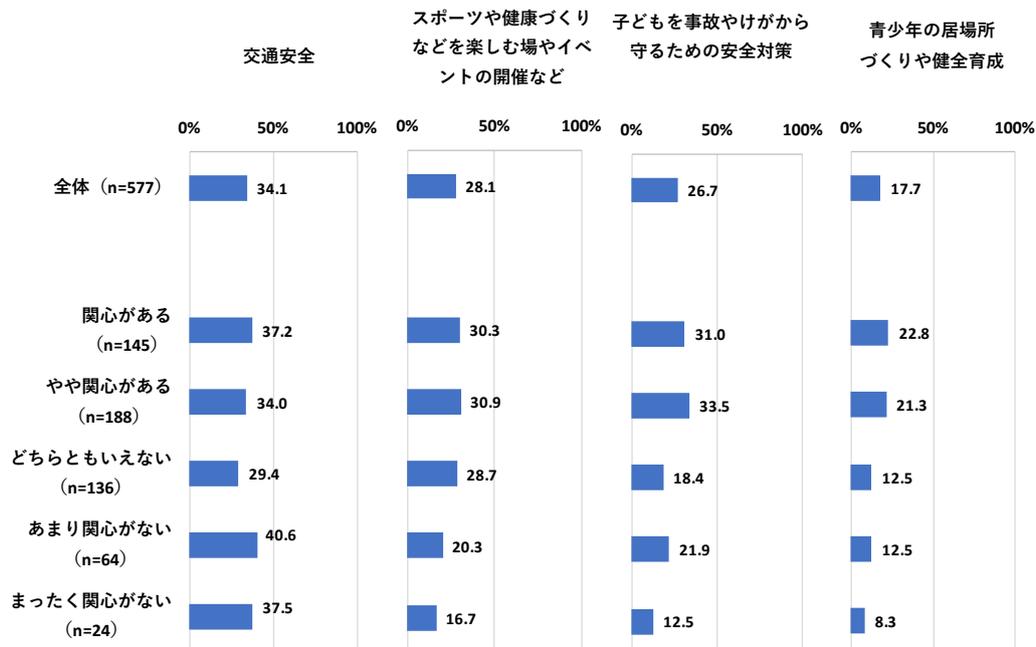
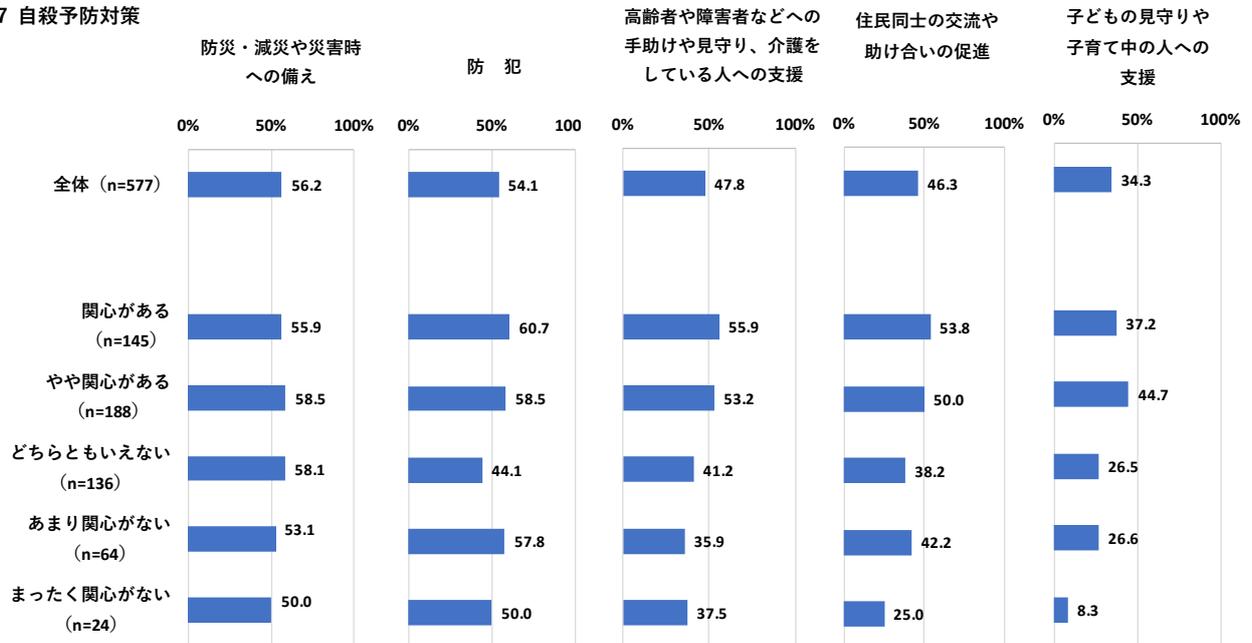


### III 集計分析結果

#### 【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

- ・『自殺予防対策』について「関心がある」方は「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」「住民同士の交流や助け合いの促進」「防犯」「青少年の居場所づくりや健全育成」を地域での課題に挙げる割合が全体より5ポイント以上高い。

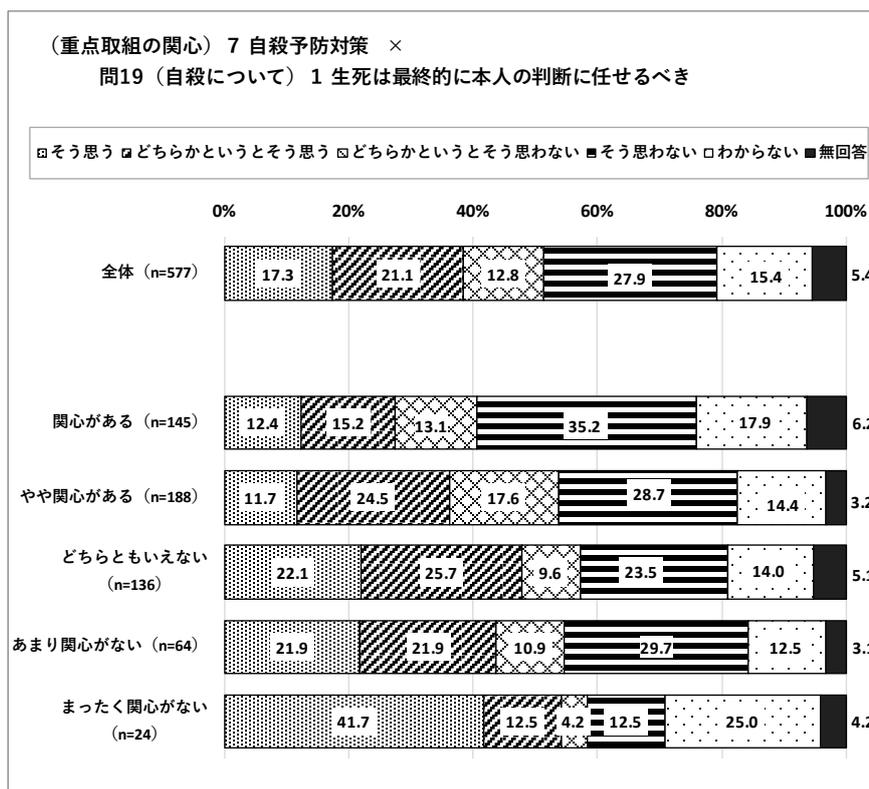
#### 7 自殺予防対策



【セーフコミュニティの重点項目への関心：自殺予防対策への関心度別】

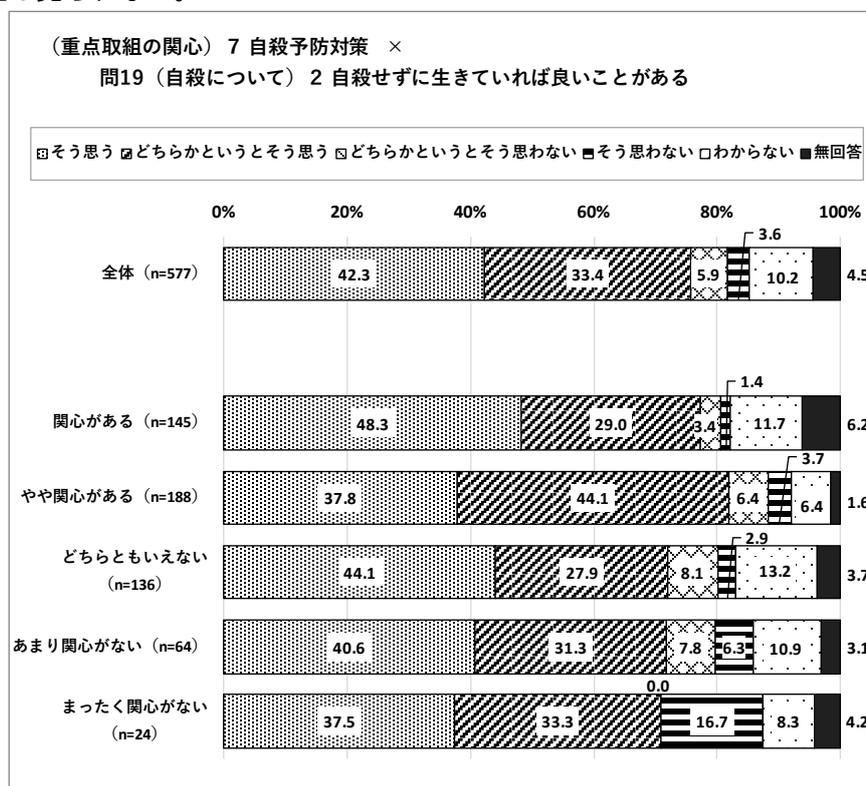
1 生死は最終的に本人の判断に任せるべき

・『自殺予防対策』について関心があるほど「生死は最終的に本人の判断に任せるべき」とは考えていない傾向が見られる。



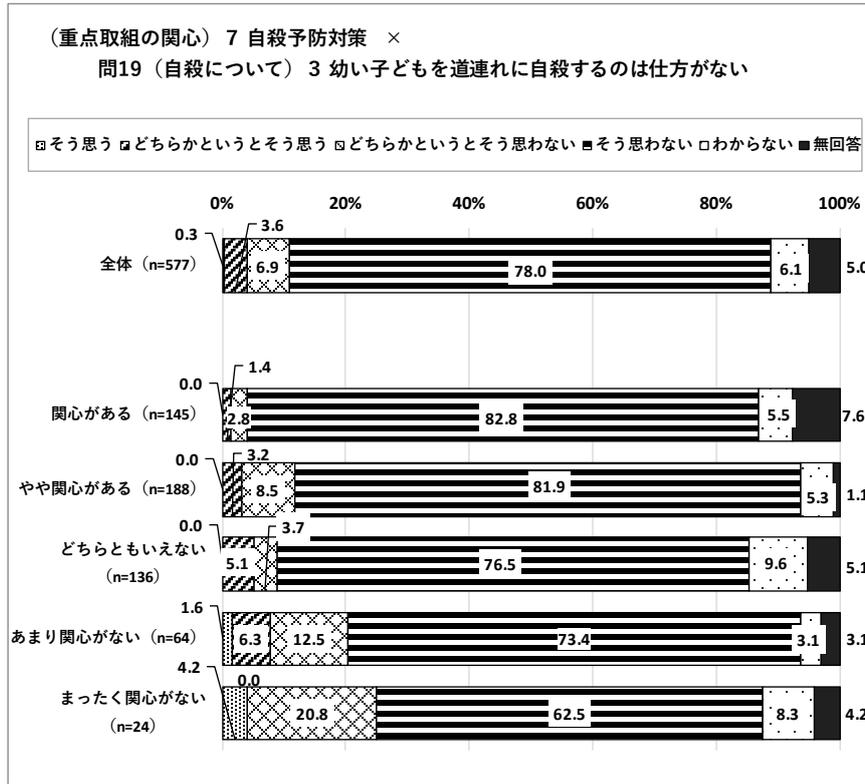
2 自殺せずに生きていけば良いことがある

・『自殺予防対策』の関心度と「自殺せずに生きていけば良いことがある」という考え方の関係について、大きな差は見られない。



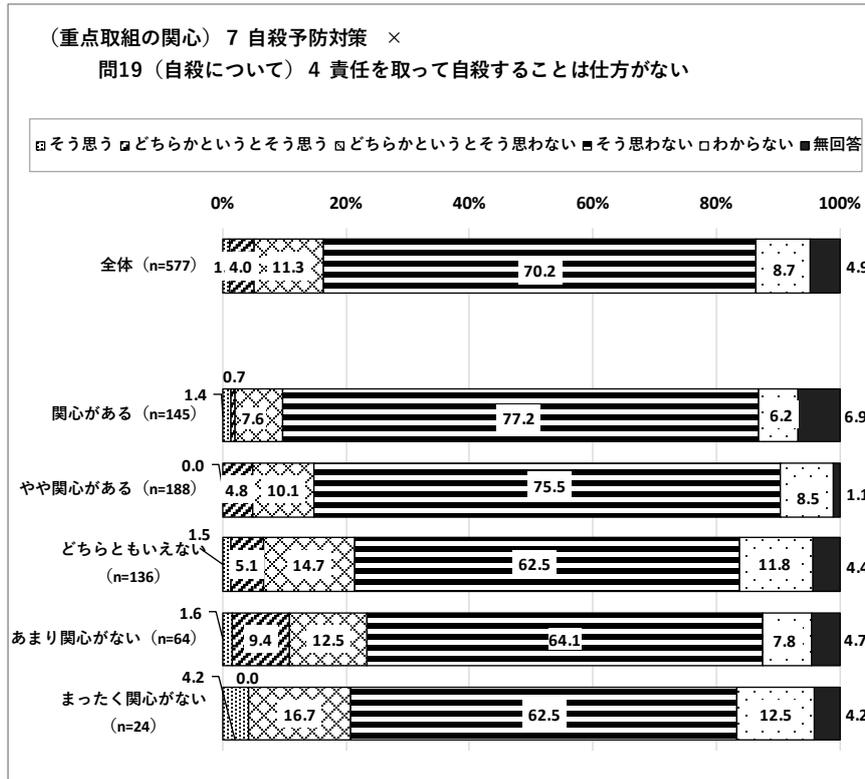
3 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない

・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない」とは考えていない。



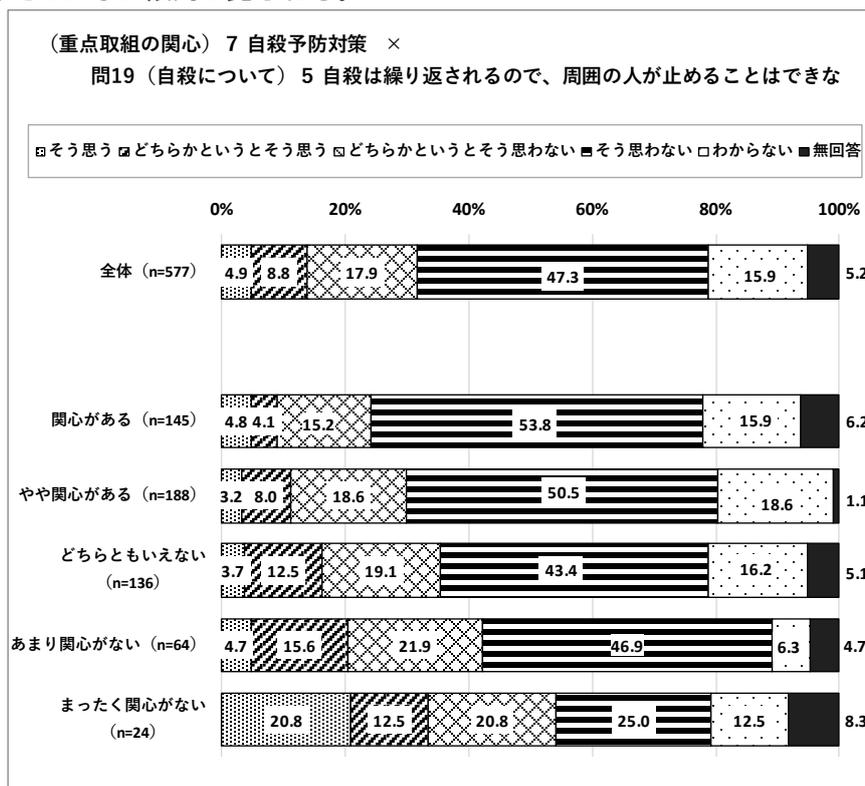
4 責任を取って自殺することは仕方がない

・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「責任を取って自殺することは仕方がない」とは考えていない傾向が見られる。



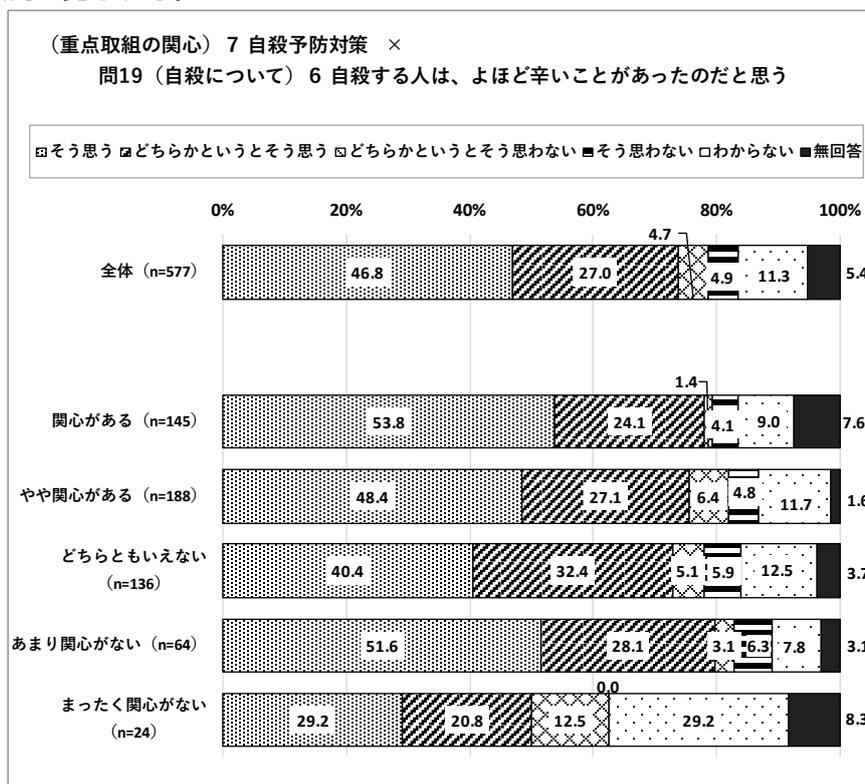
### 5 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない」とは考えていない傾向が見られる。



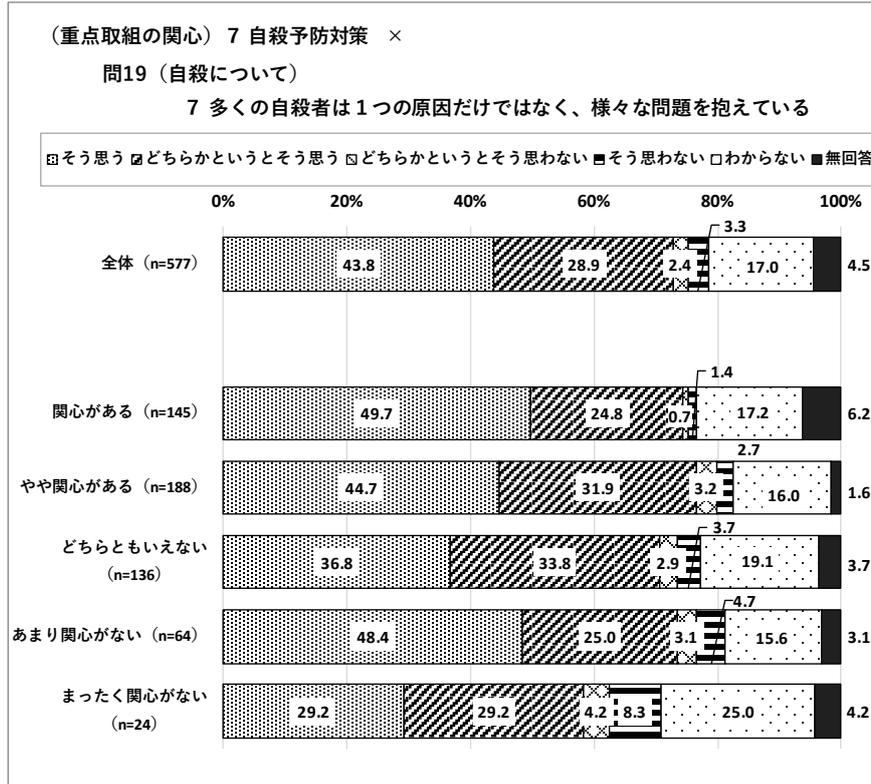
### 6 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う」と考えている傾向が見られる。



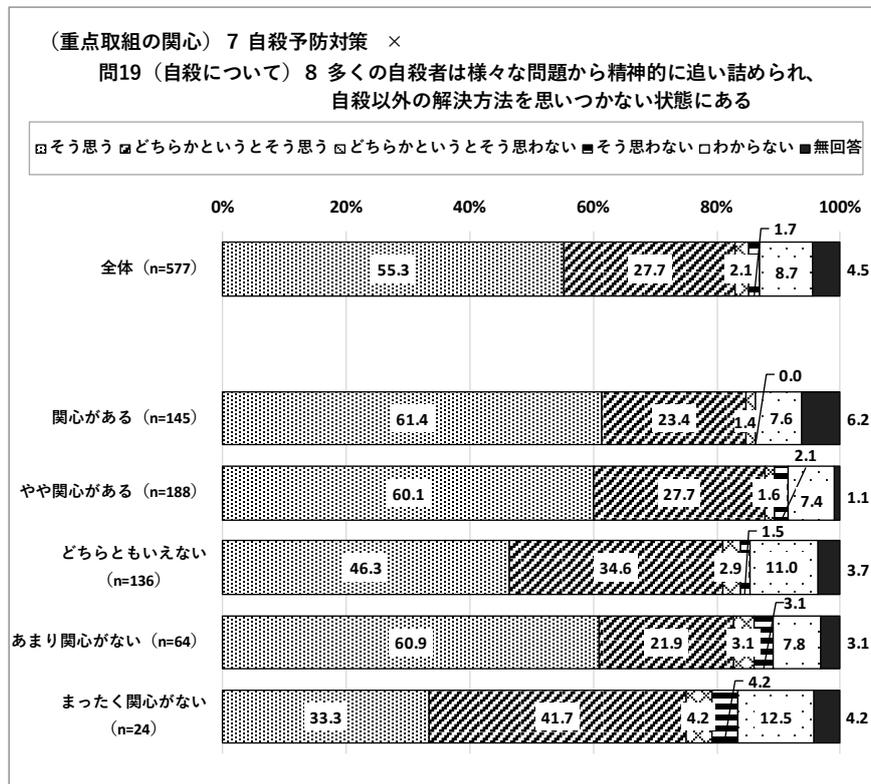
7 多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている」と考えている傾向が見られる。



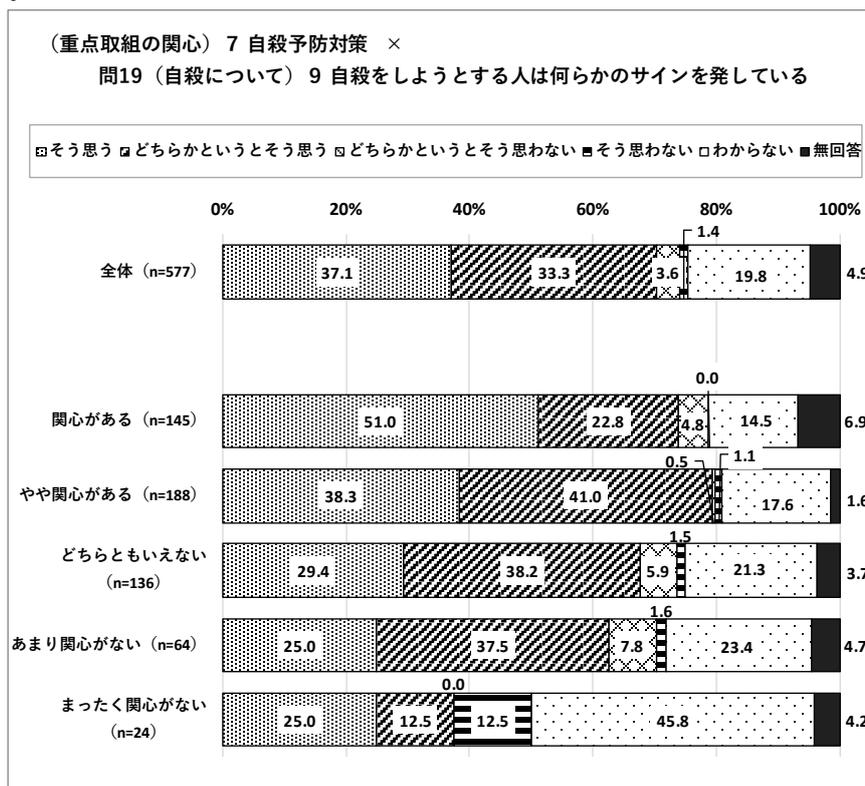
8 多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」と考えている傾向が見られる。



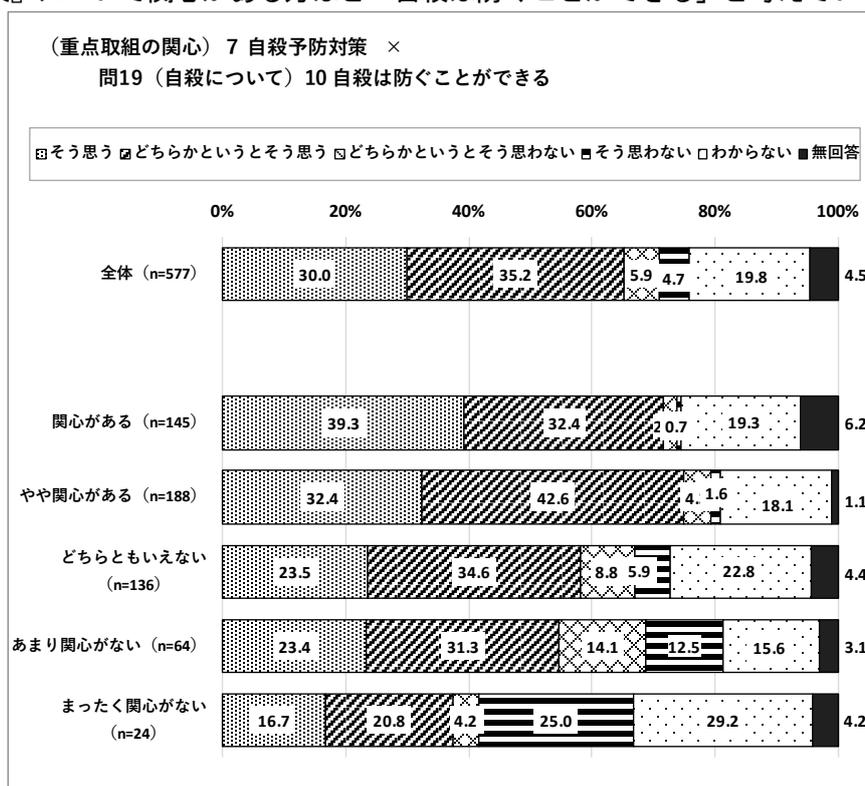
### 9 自殺をしようとする人は何らかのサインを発している

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺をしようとする人は何らかのサインを発している」と考えている。



### 10 自殺は防ぐことができる

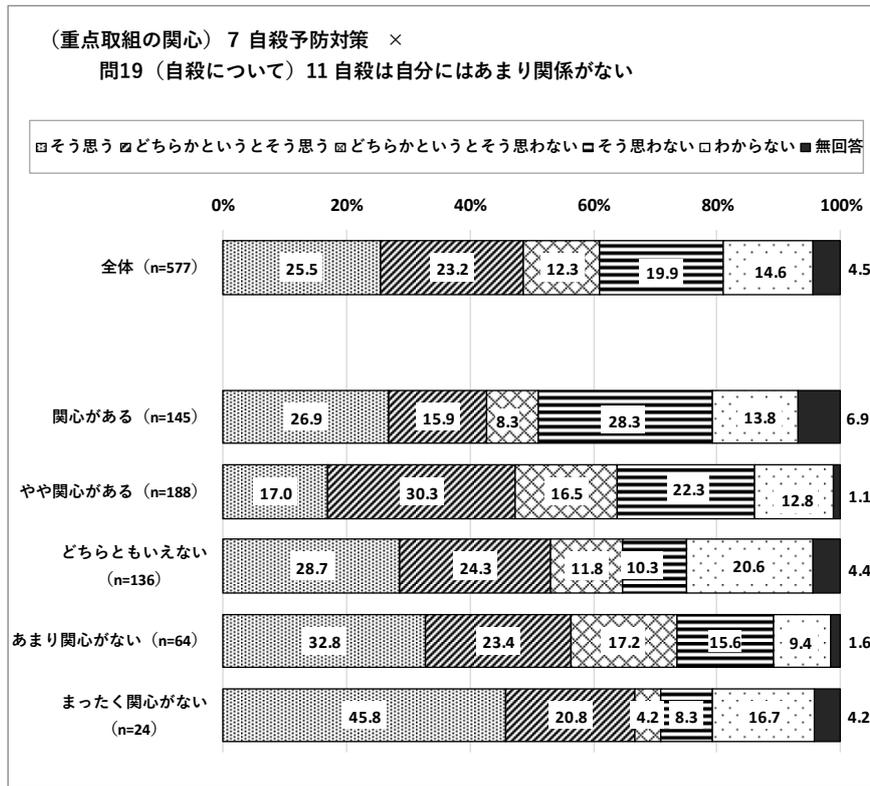
- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺は防ぐことができる」と考えている。



### III 集計分析結果

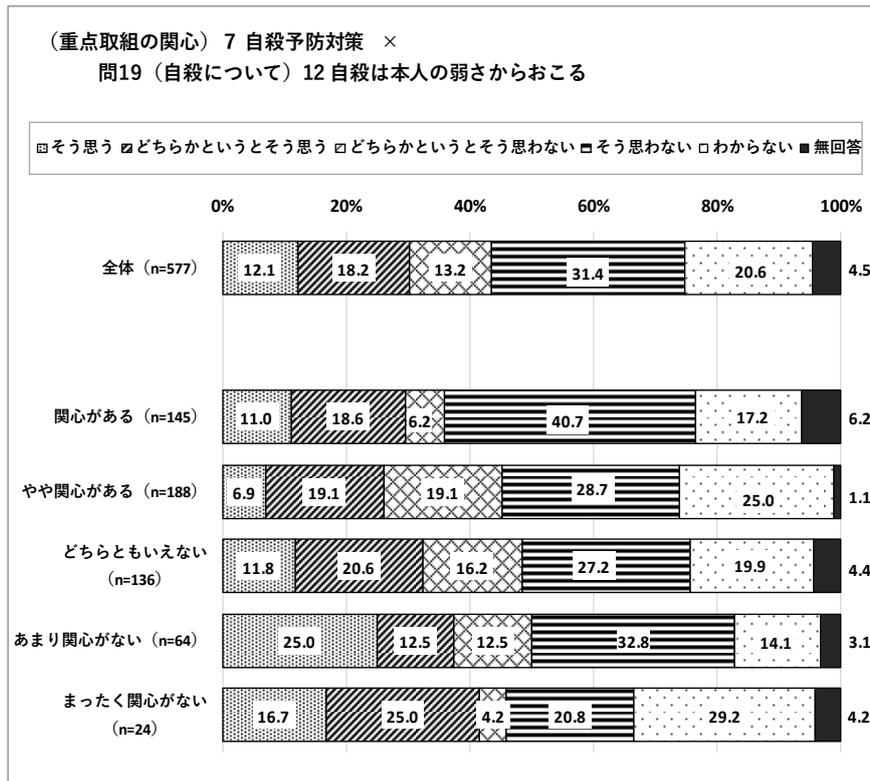
#### 11 自殺は自分にはあまり関係がない

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺は自分にはあまり関係がない」とは考えていない傾向が見られる。



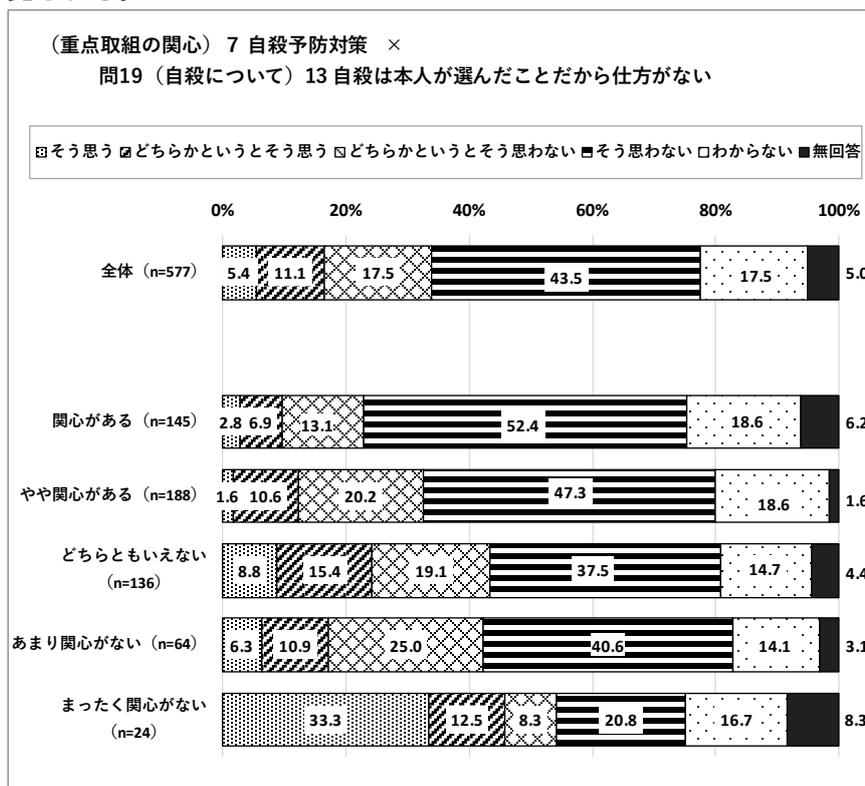
#### 12 自殺は本人の弱さからおこる

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺は本人の弱さからおこる」とは考えていない傾向が見られる。



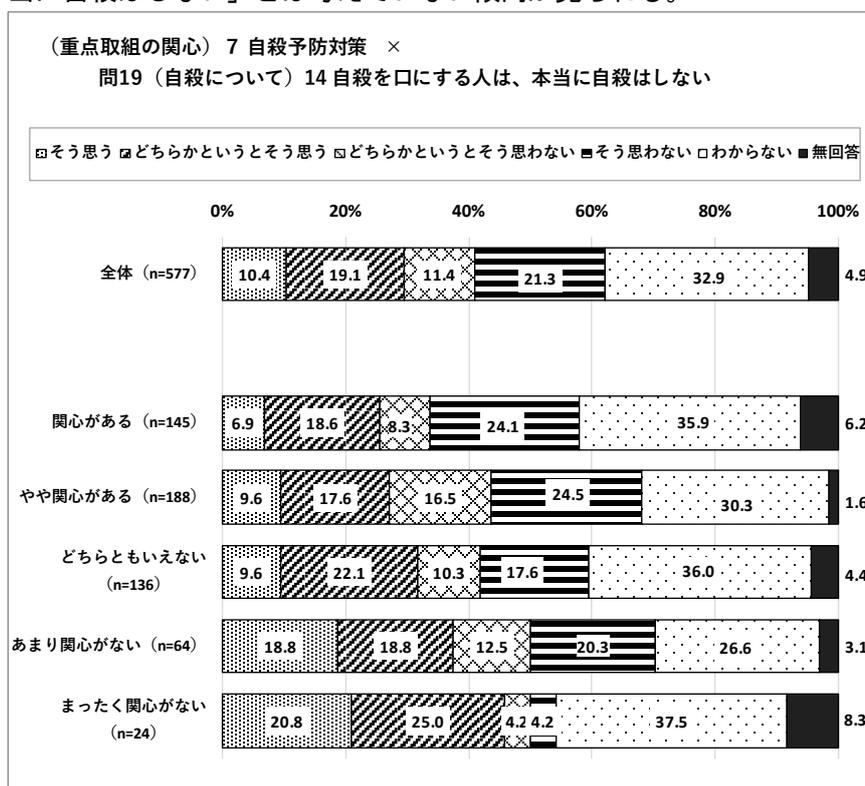
### 13 自殺は本人が選んだことだから仕方がない

- ・『自殺予防対策』について関心がある方ほど「自殺は本人が選んだことだから仕方がない」とは考えていない傾向が見られる。



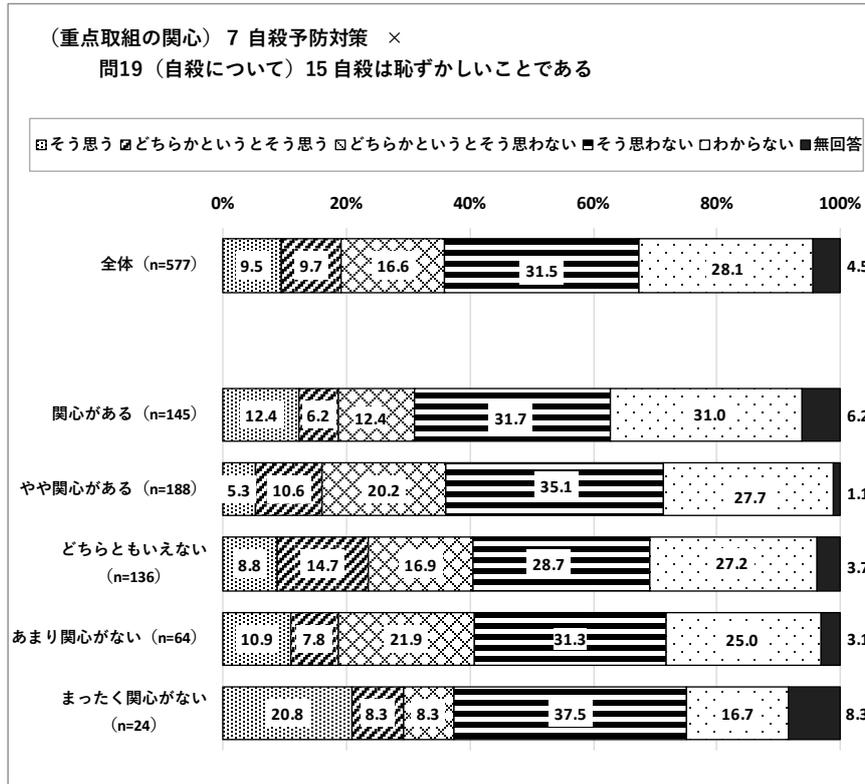
### 14 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない

- ・『自殺予防対策』について関心度合いにかかわらず、「自殺を口にする人は、本当に自殺はしない」という考え方について「わからない」と回答した方が3割程度いるが、関心がある方ほど「自殺を口にする人は、本当に自殺はしない」とは考えていない傾向が見られる。



15 自殺は恥ずかしいことである

- ・『自殺予防対策』について関心度合に関わらず「自殺は恥ずかしいことである」とは考えていない方が3割程度いる。



### 8 防犯対策

#### <性別>

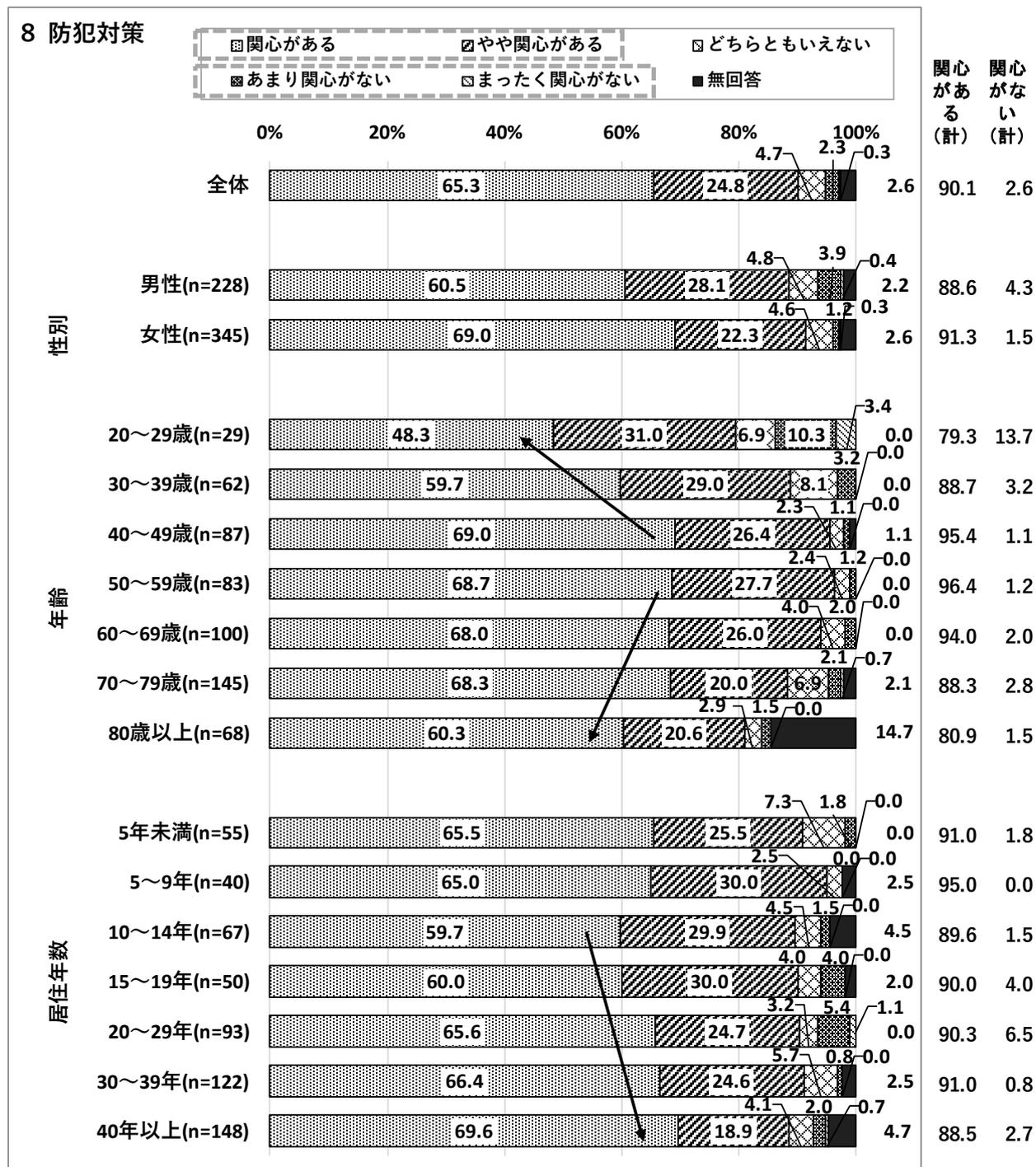
・「男性」より「女性」の方が、「関心がある」で、8.5ポイント高い。

#### <年齢別>

・「40～49歳」「50～59歳」では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』の割合が全体より5ポイント以上高く、40歳より若くなるほど、また、60歳より高齢になるほど関心度は低くなっている。

#### <居住年数別>

・10年未満を除いて「関心がある」の割合は、居住年数が長いほど高くなる傾向にある。

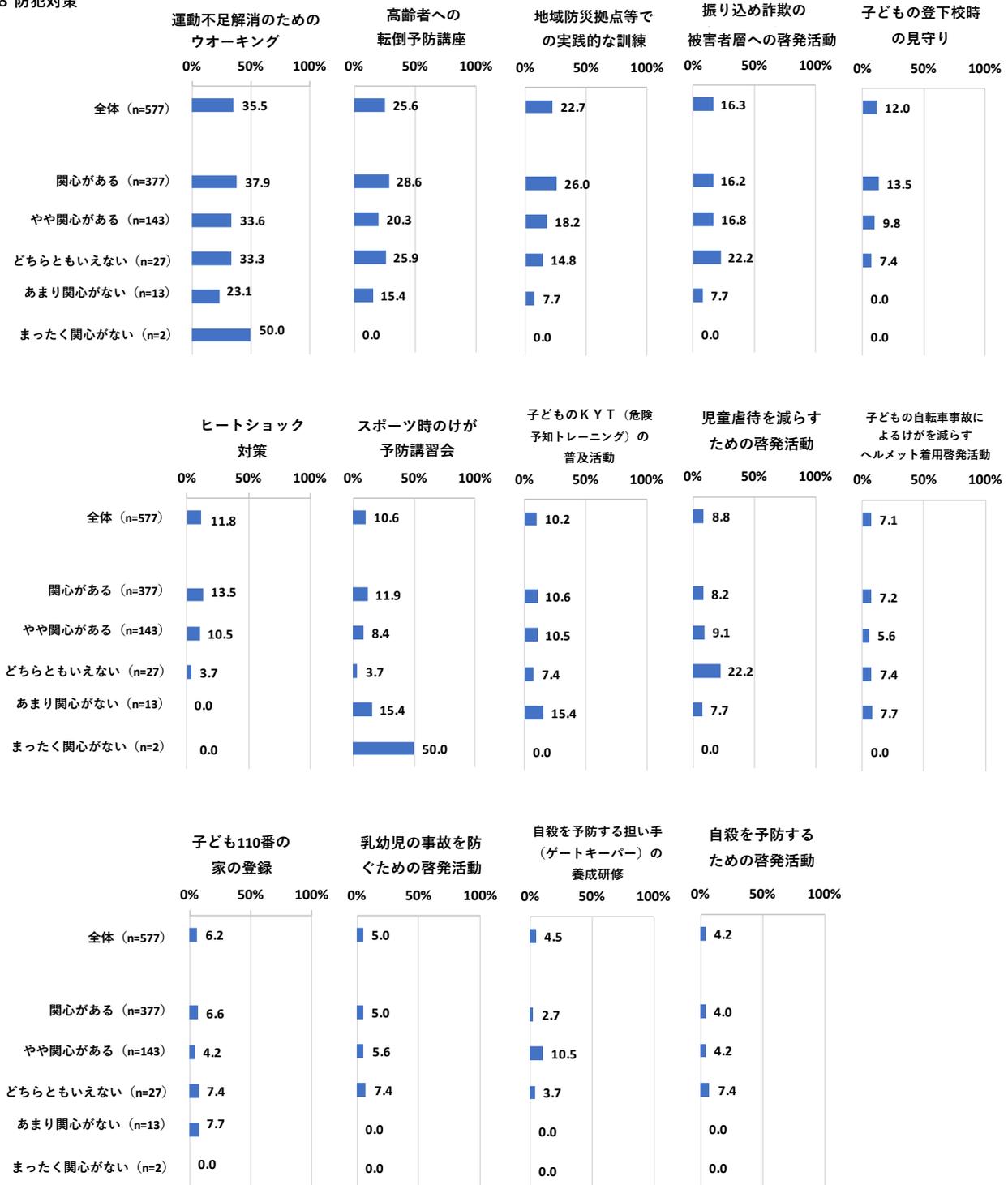


III 集計分析結果

【セーフコミュニティの重点項目への関心：今後参加したい取組別】

・『防犯対策』について関心が高い方ほど「地域防災拠点等での実践的な訓練」「子どもの登下校時の見守り」「ヒートショック対策」を今後参加したい取組に挙げる割合が高い。

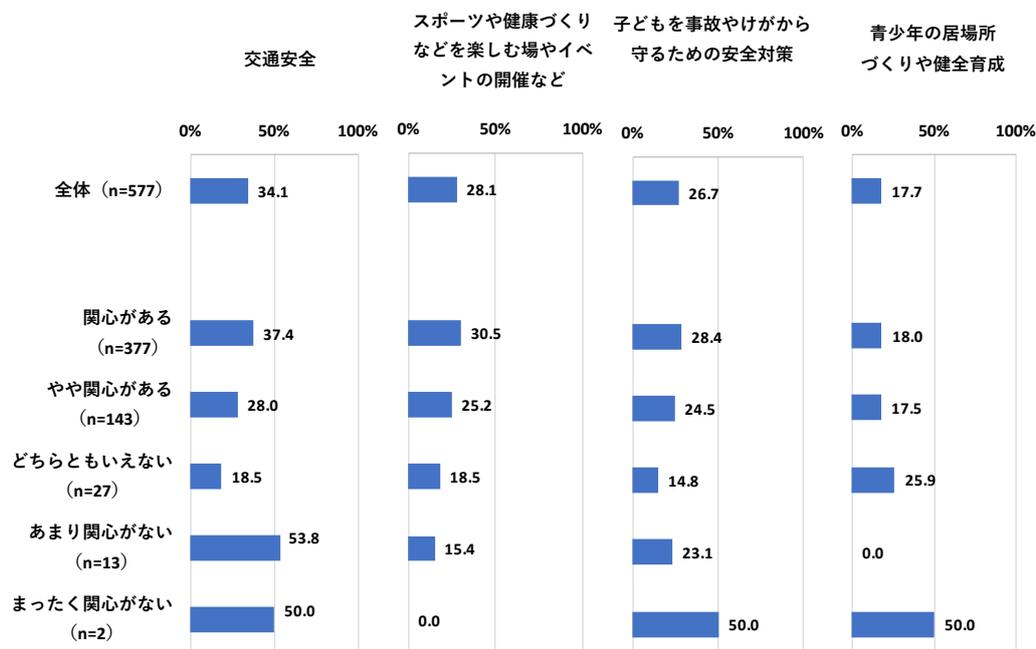
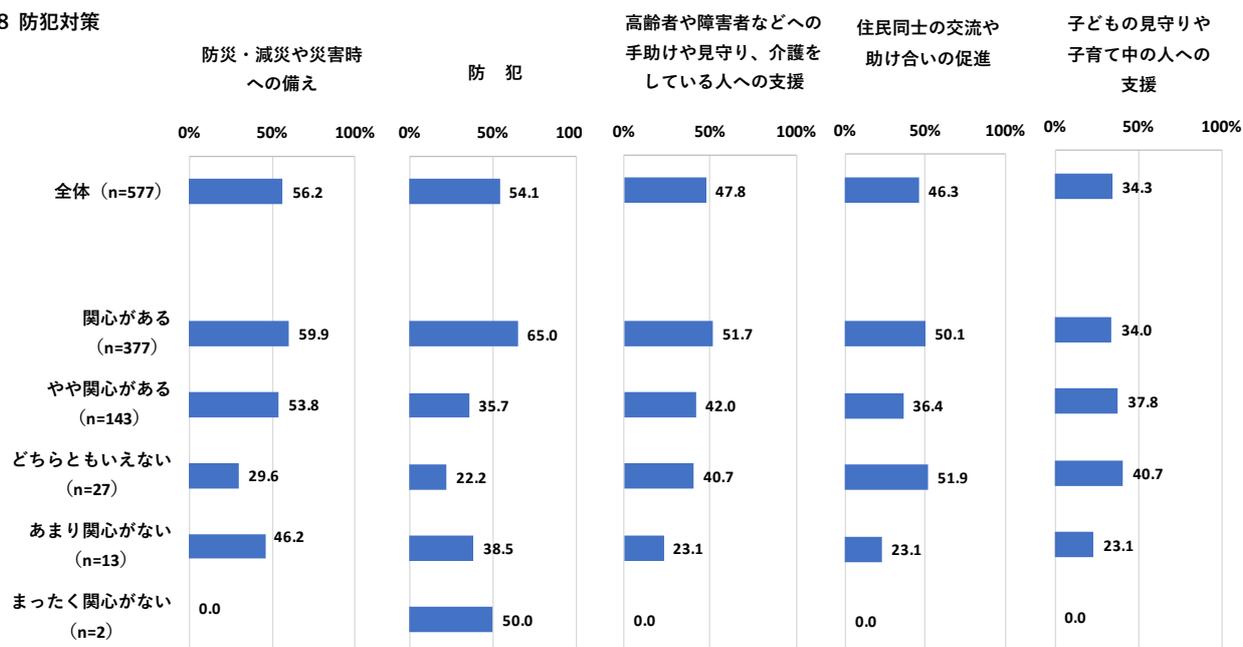
8 防犯対策



【セーフコミュニティの重点項目への関心：地域での課題別】

・『防犯対策』について「関心がある」方は「防犯」を地域での課題に挙げる割合が全体より10ポイント以上高い。

8 防犯対策



【セーフコミュニティの重点項目への関心：振り込め詐欺対策別】

・『防犯対策』への関心度合と振り込め詐欺対策を行っている方の割合には、あまり大きな違いは見られない。

8 防犯対策

